

# 瑞穂を語る



長崎農民社發行

1



0051134-000

特216-250

瑞穂を語る

内田一平・著

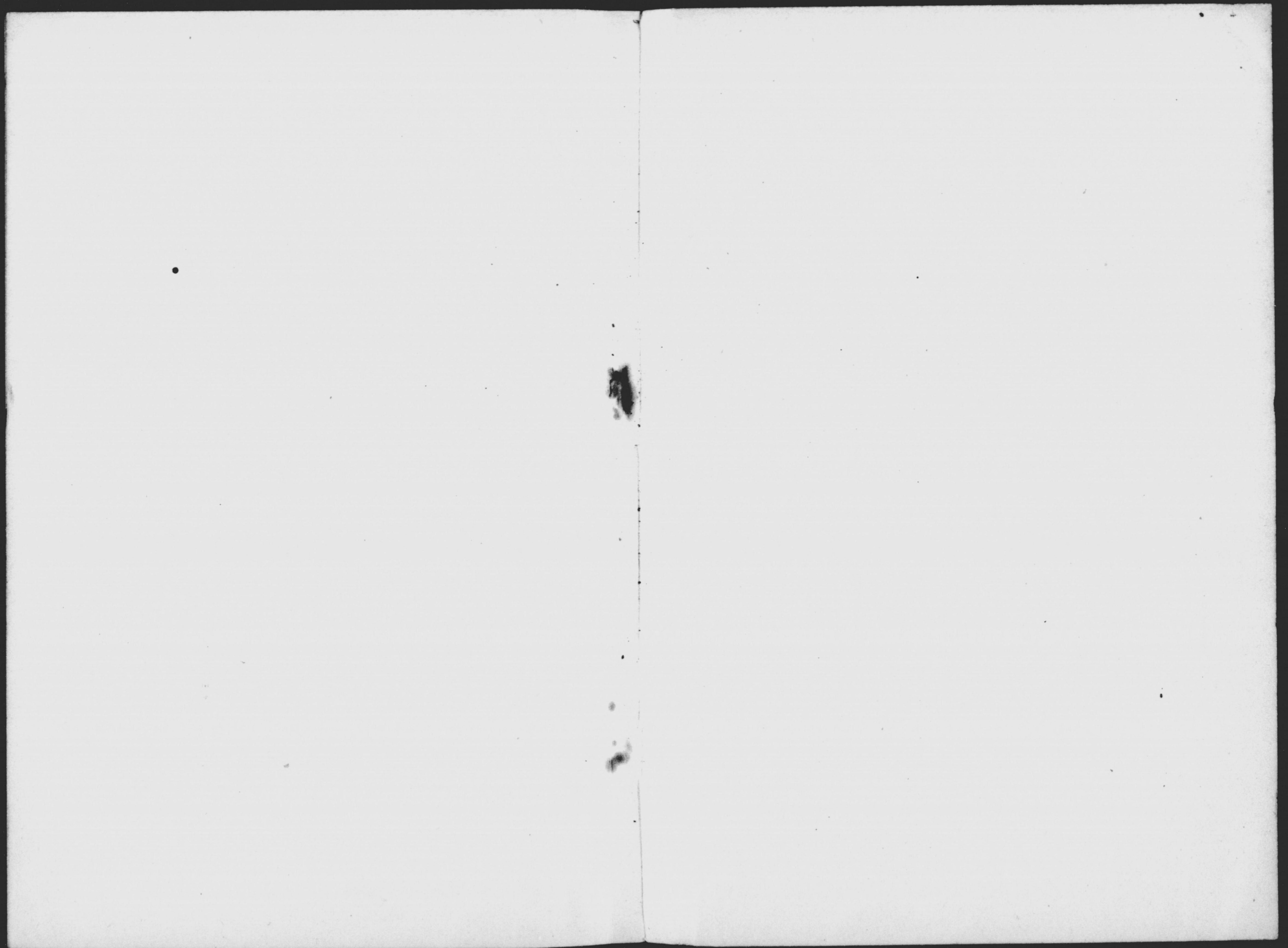
長崎農民社

2版  
昭和14

AHM

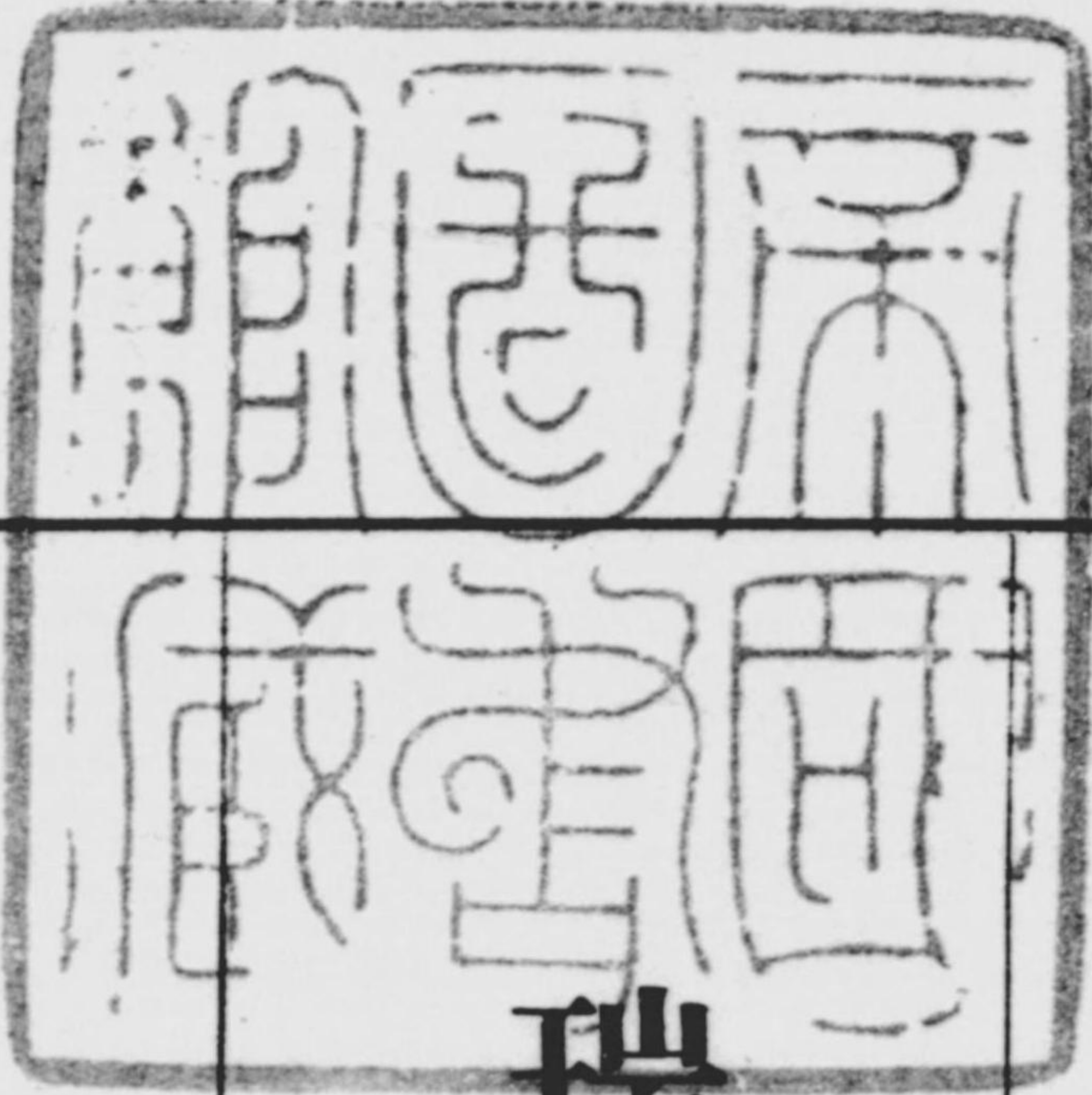
この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。







特 216  
250



内田一平著

瑞穂を語る

長崎農民社發行





歲  
重  
快

六十五篇

大年





々 穰 穗 瑞



(者 著)



長會代歷會窓同穗瑞



生先郎太由村中 長會代二第



生先藏 藤後 長會代一第



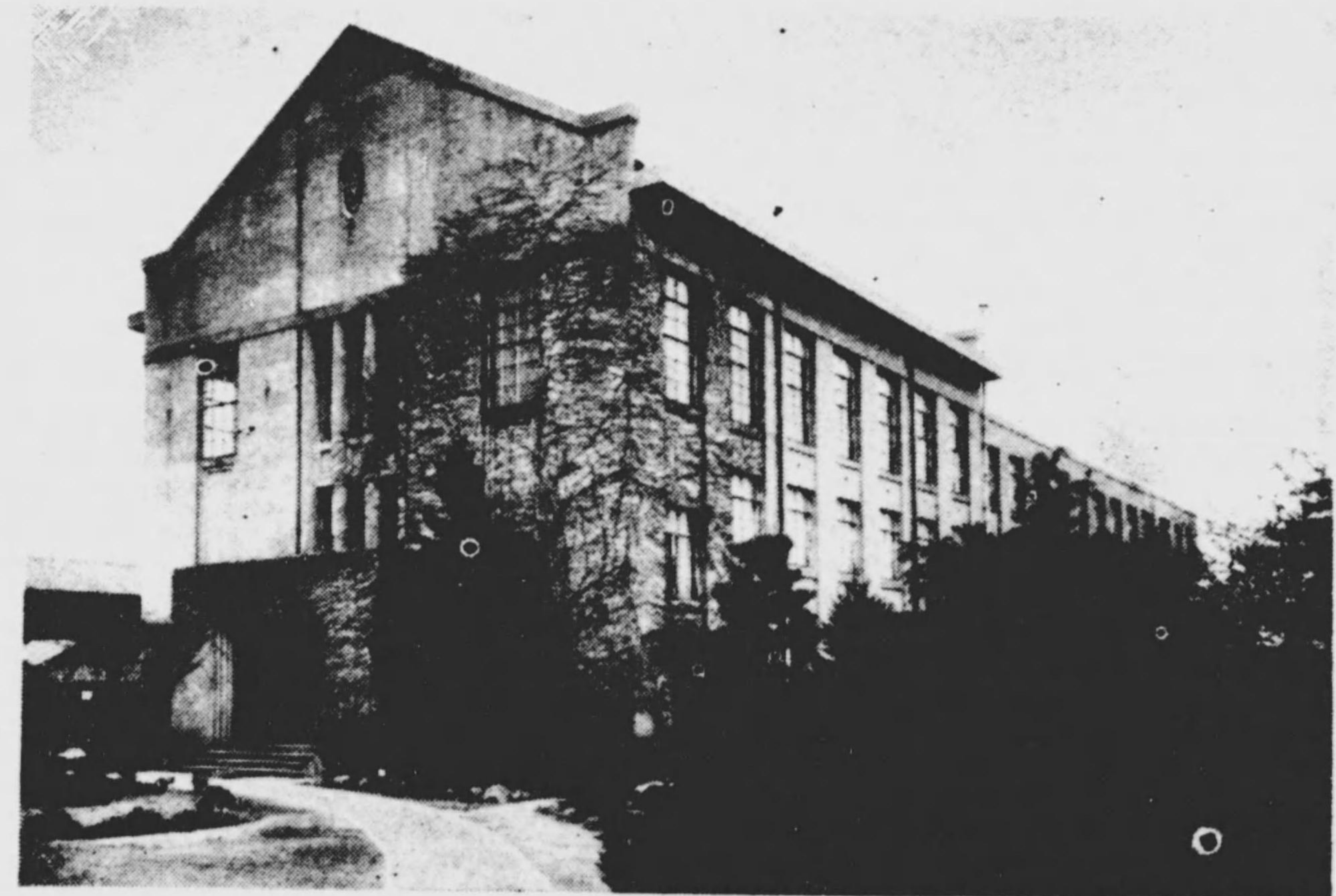
生先郎一近島美 長會代四第



生先郎三辰澤松 長會代三第



舍校舊校學農立縣崎長



舍校現校學農立縣崎長



舊師最近の温容



黒澤亮助先生



小野健市先生



小野三郎先生



第六代會長 檀上 爾謙先生



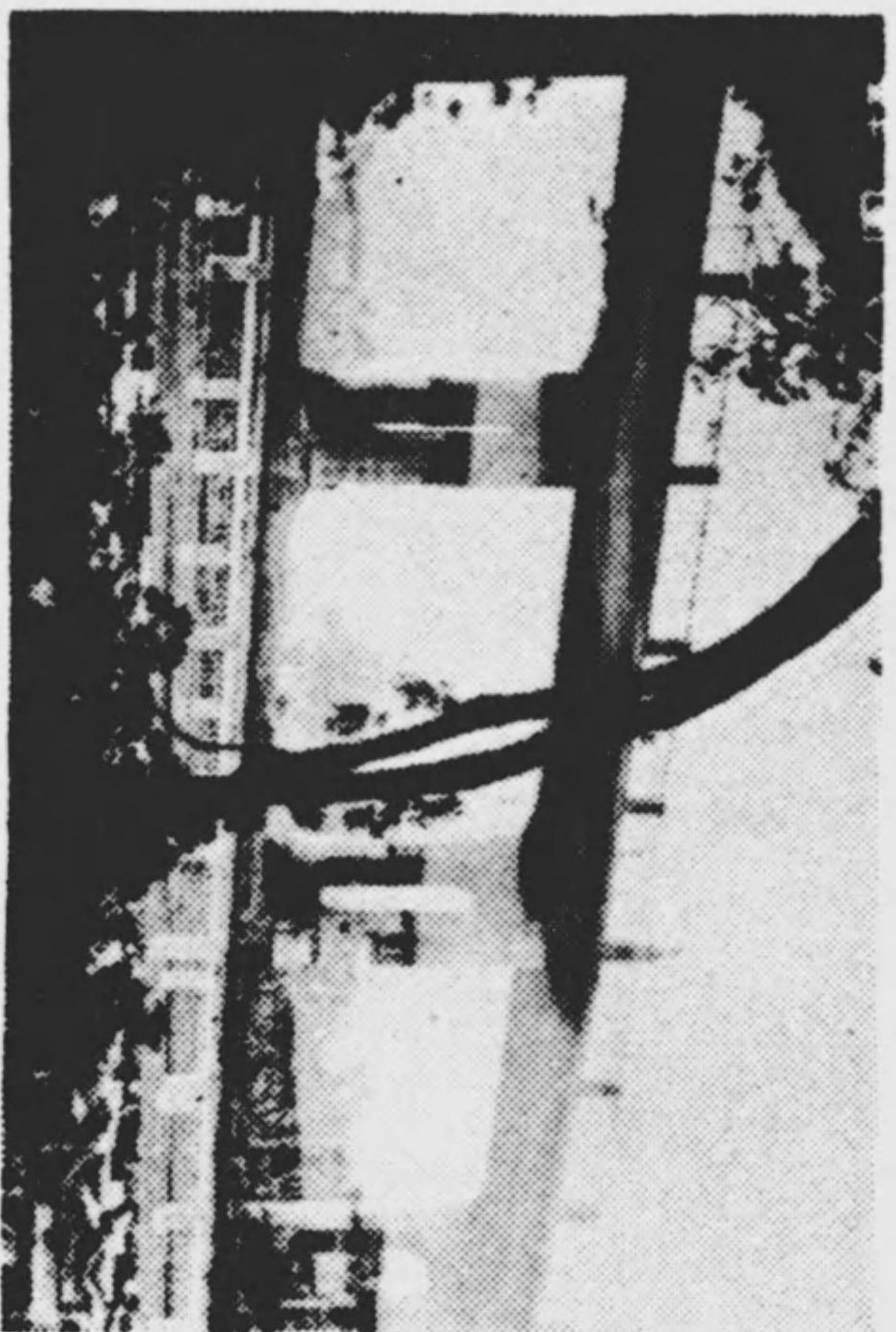
第五代會長 原 誠人先生



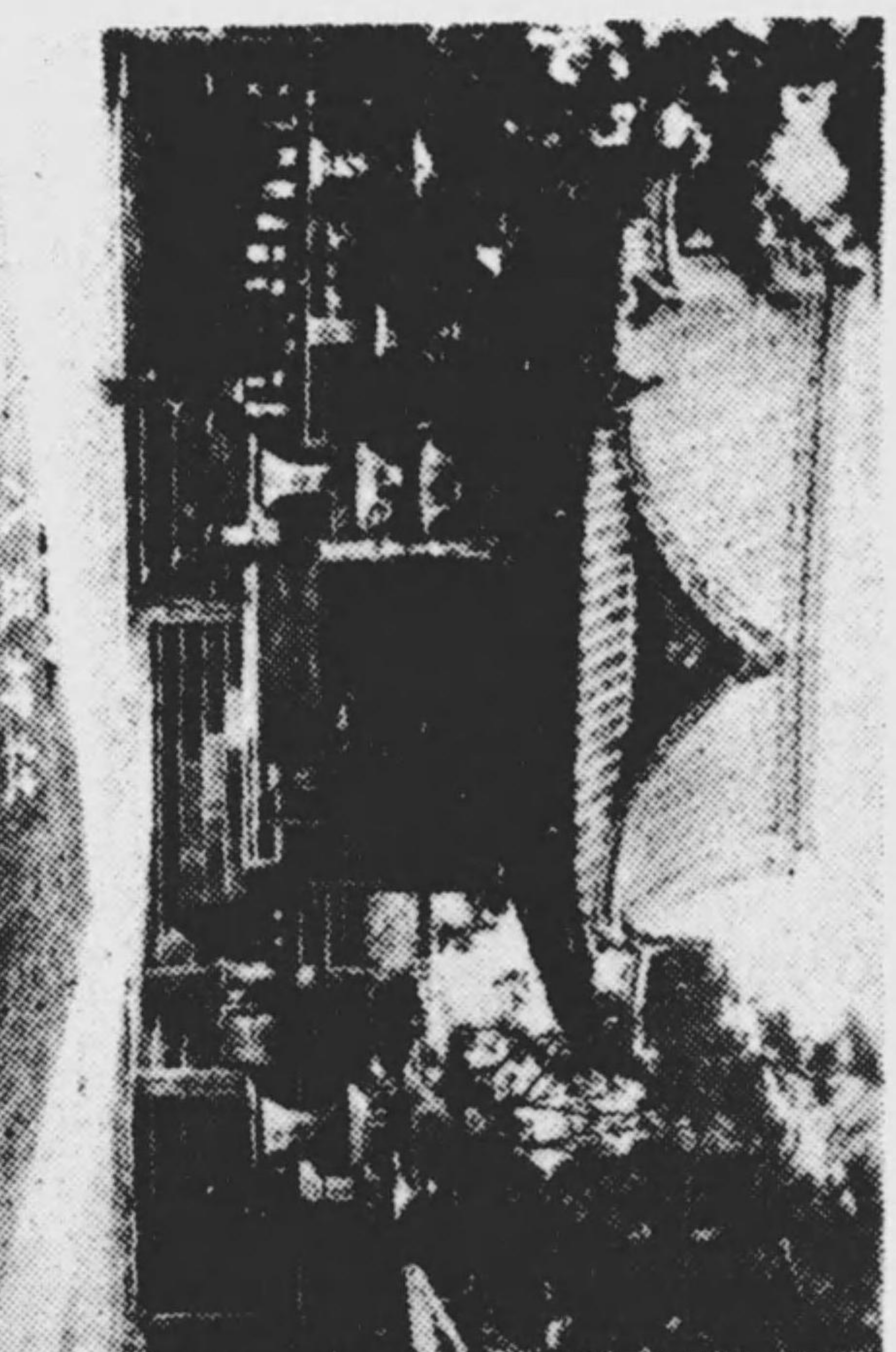
大串貞市先生 恩師



(一其) 景風早諫地の出ひ思



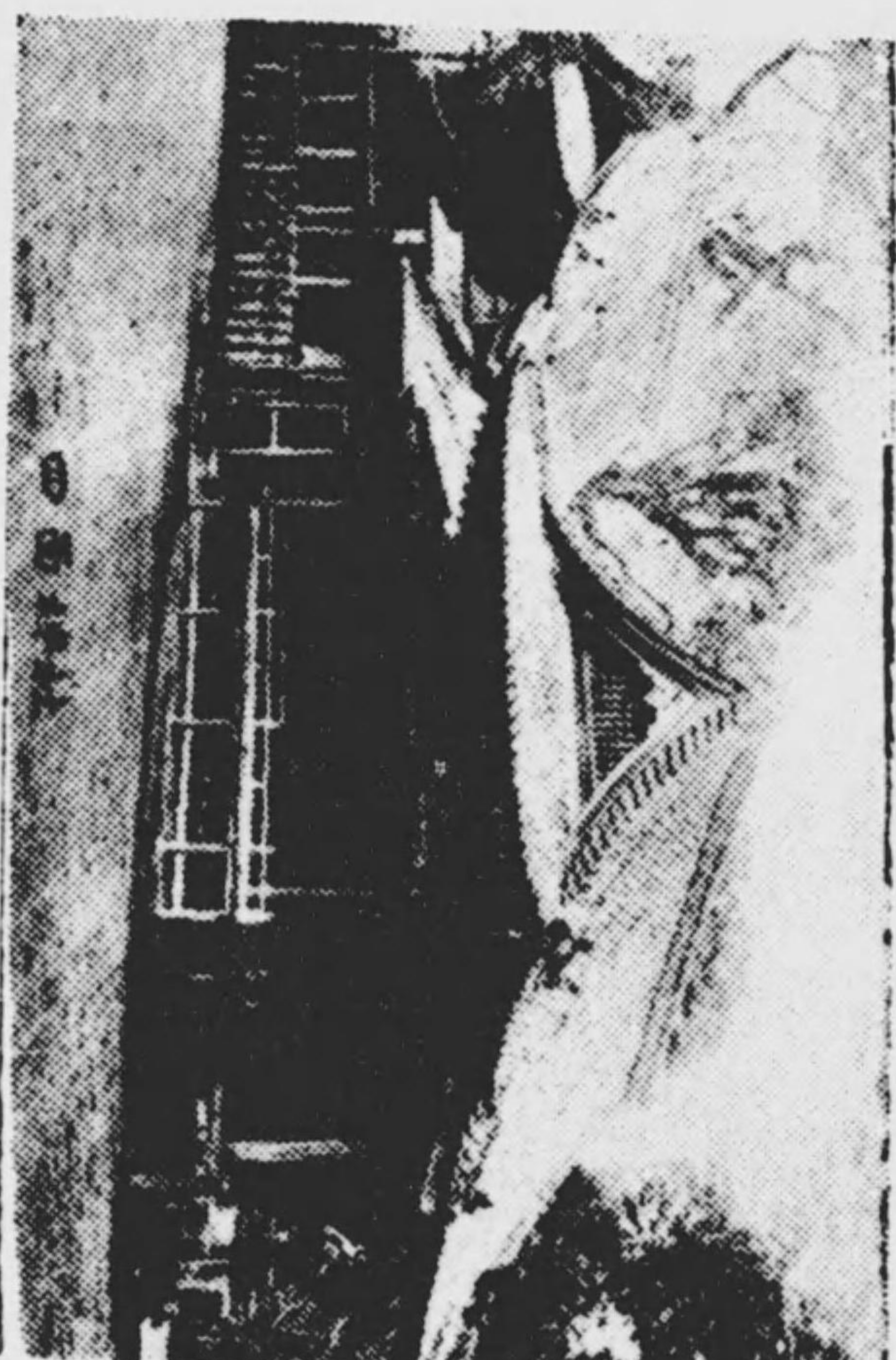
流清の淵下山



社神坂八神氏町

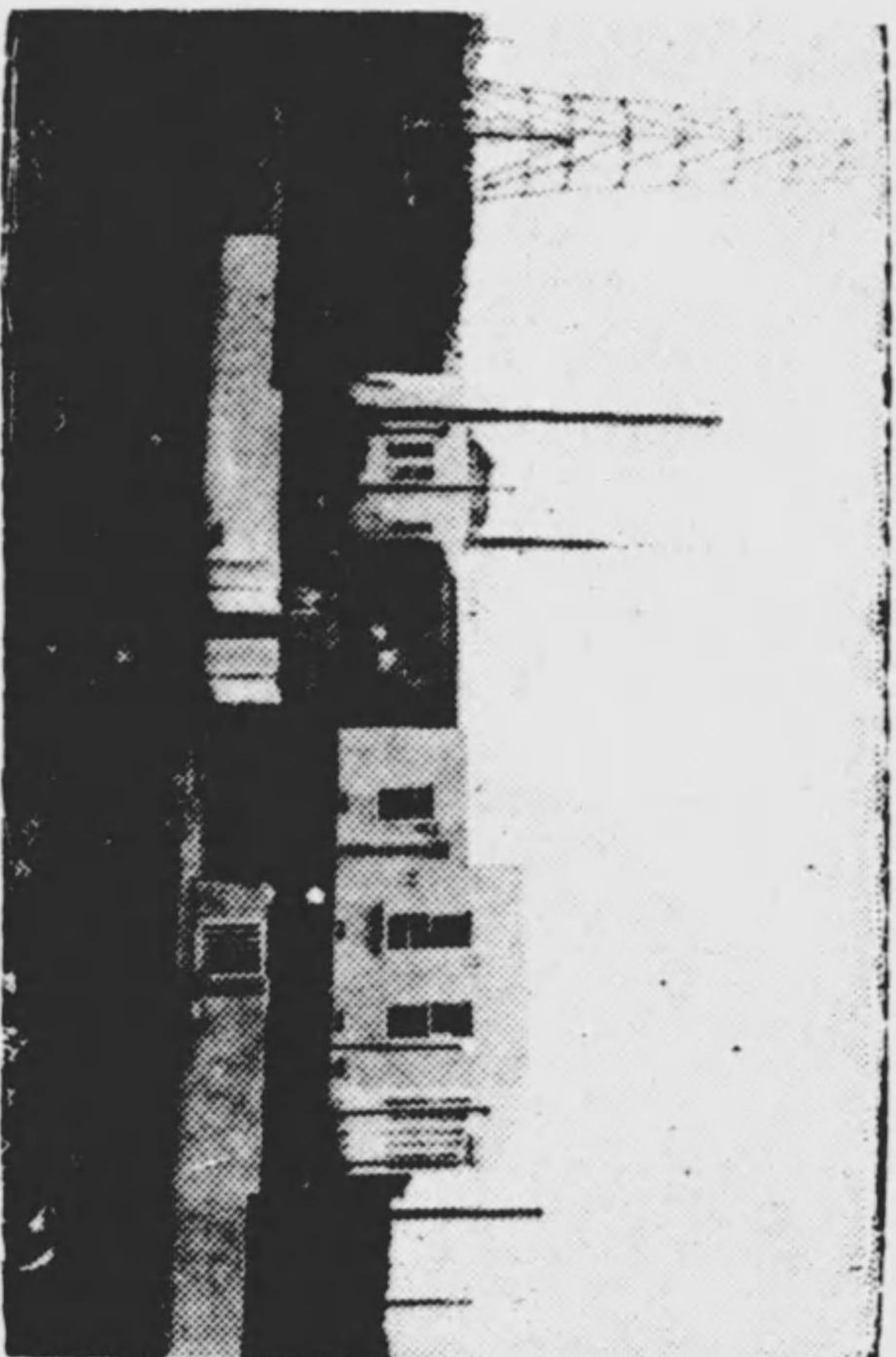


池の鶯鶯物念紀然天

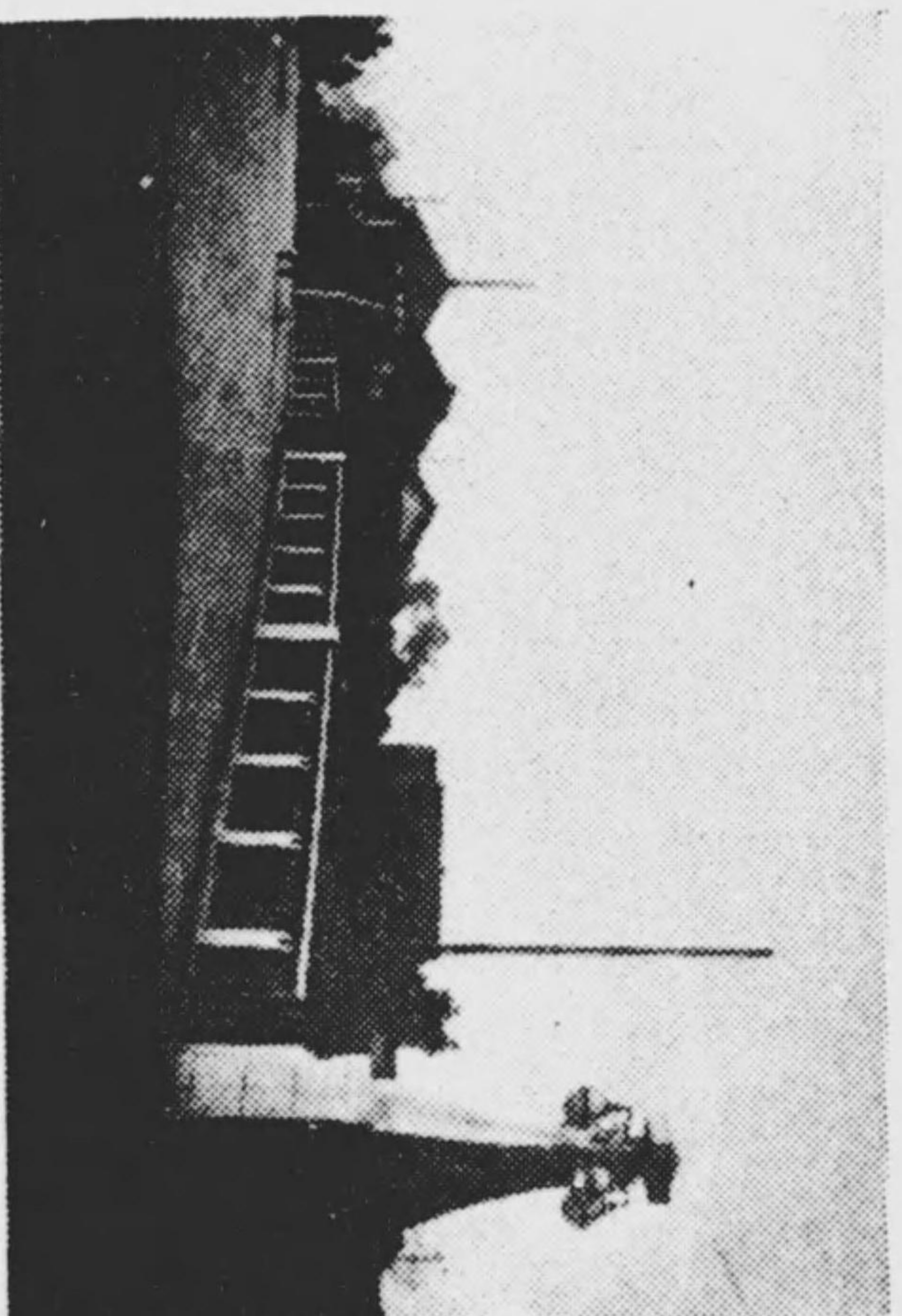


社神面四きけたゆ統傳

(二其) 景風早諫地の出ひ思



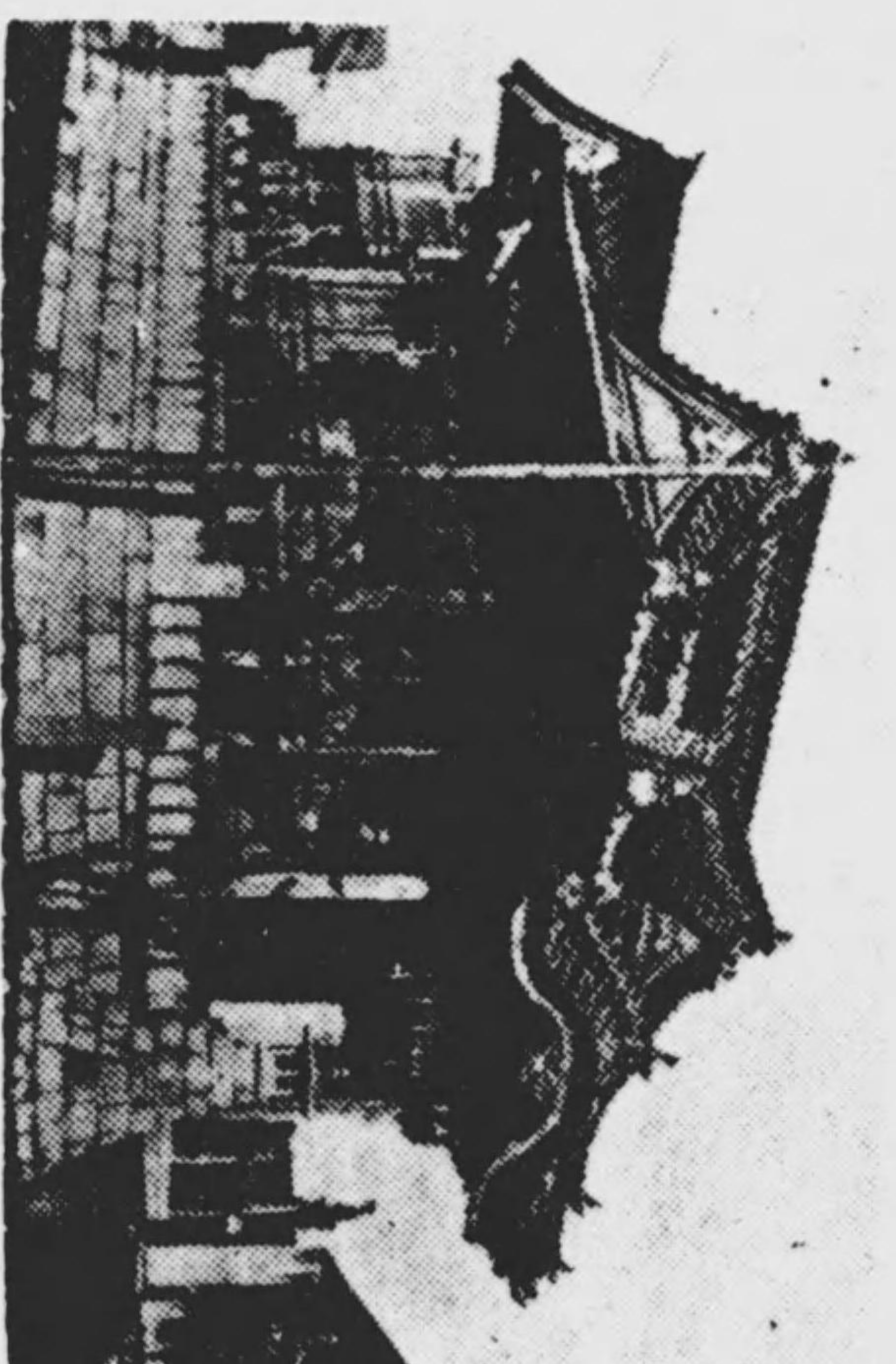
局電無る語と界世



橋早諫る渡風江



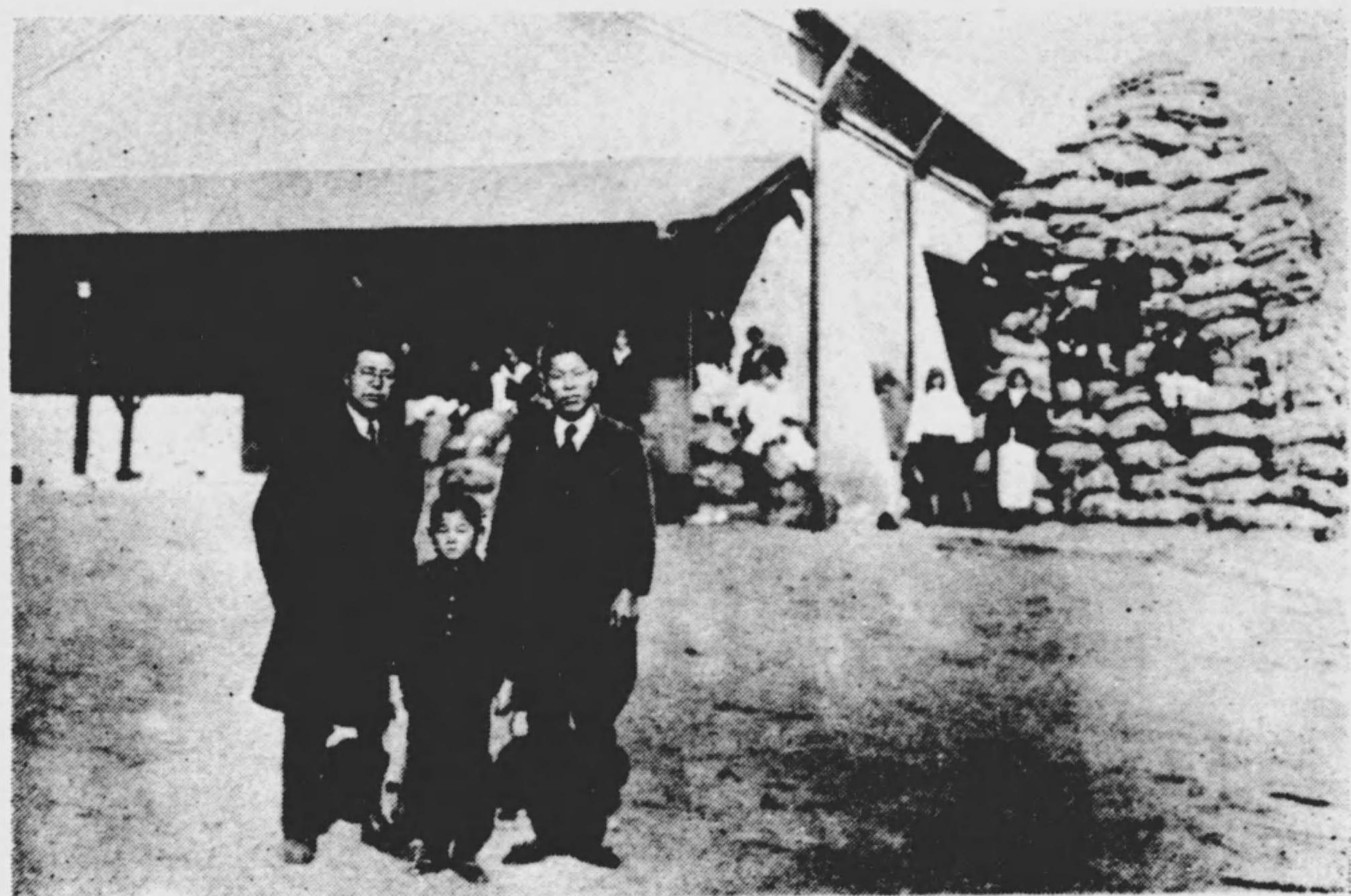
場フルゴぶ飛球熱



宮禰天る鶯香の梅



庫倉業農山郭鮮朝



(者著、左息令と氏次平嘉原井、右)

く往を野曠の洲滿



(者 著)

場道民農仙雲



(氏人茂田福)

場農民農島五



(氏郎十市山園)

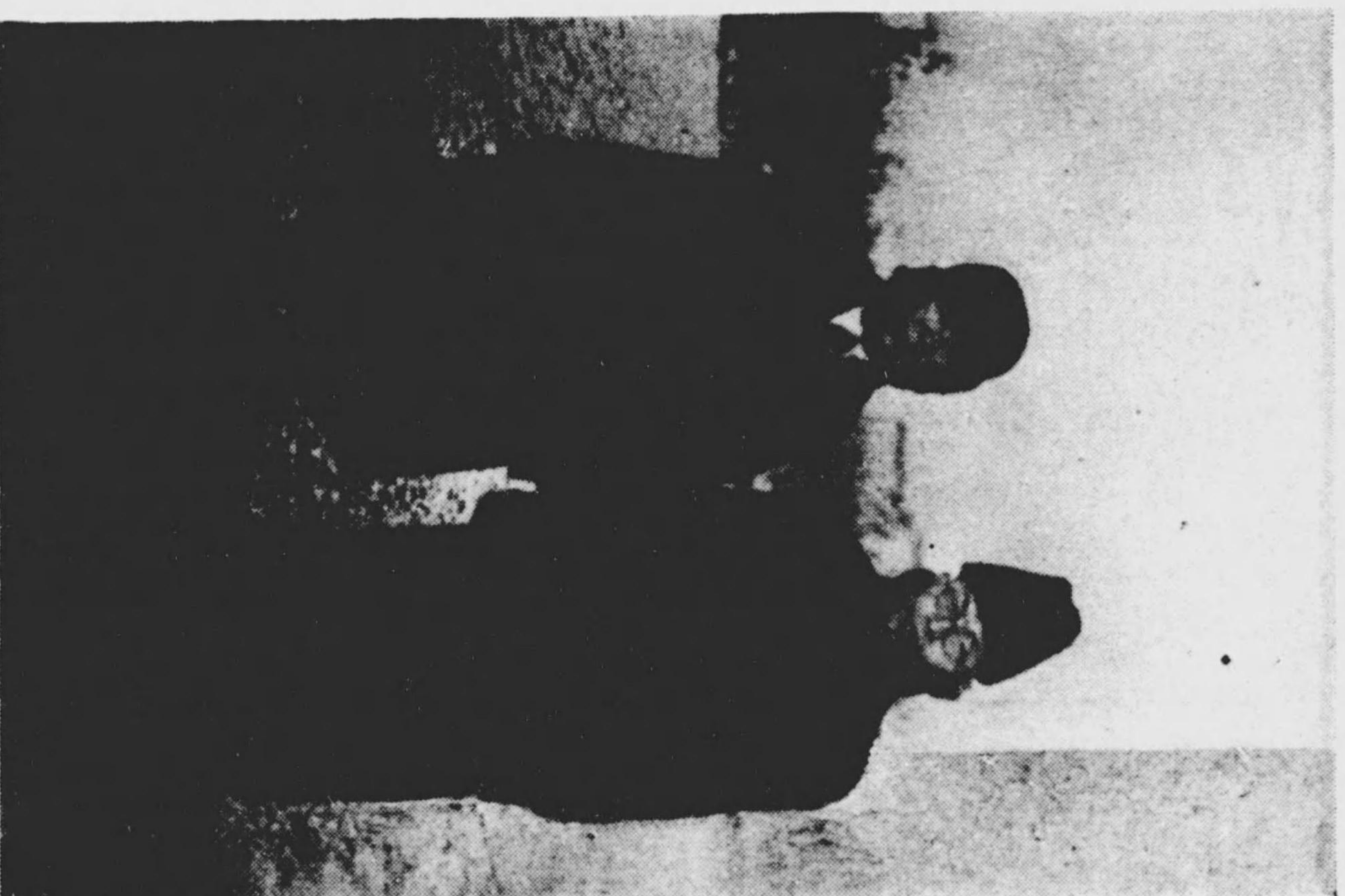


關一第下天林吉



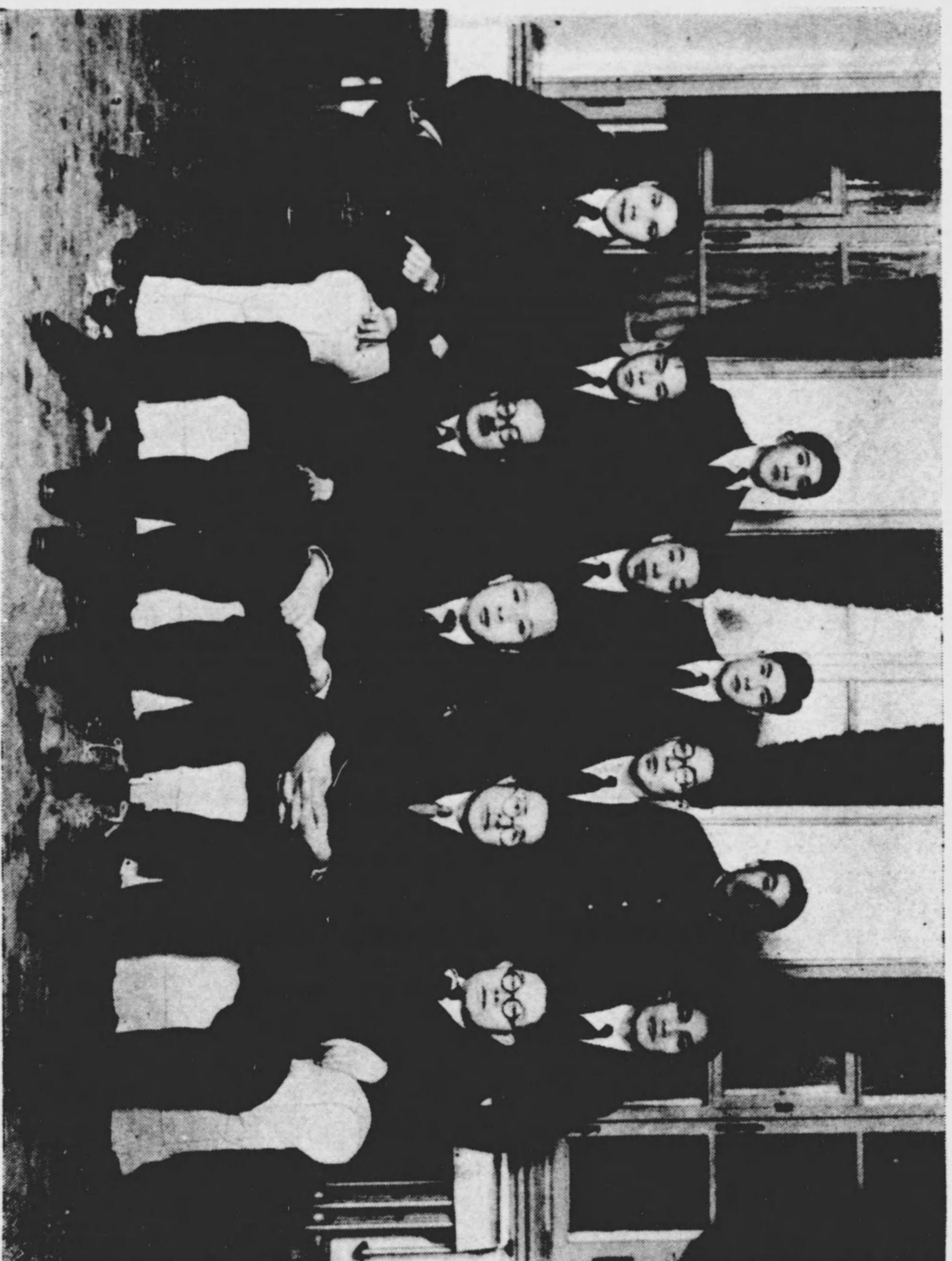
(著者左氏則好口川右)

春の外郊京新



(著者左氏充崎高右)

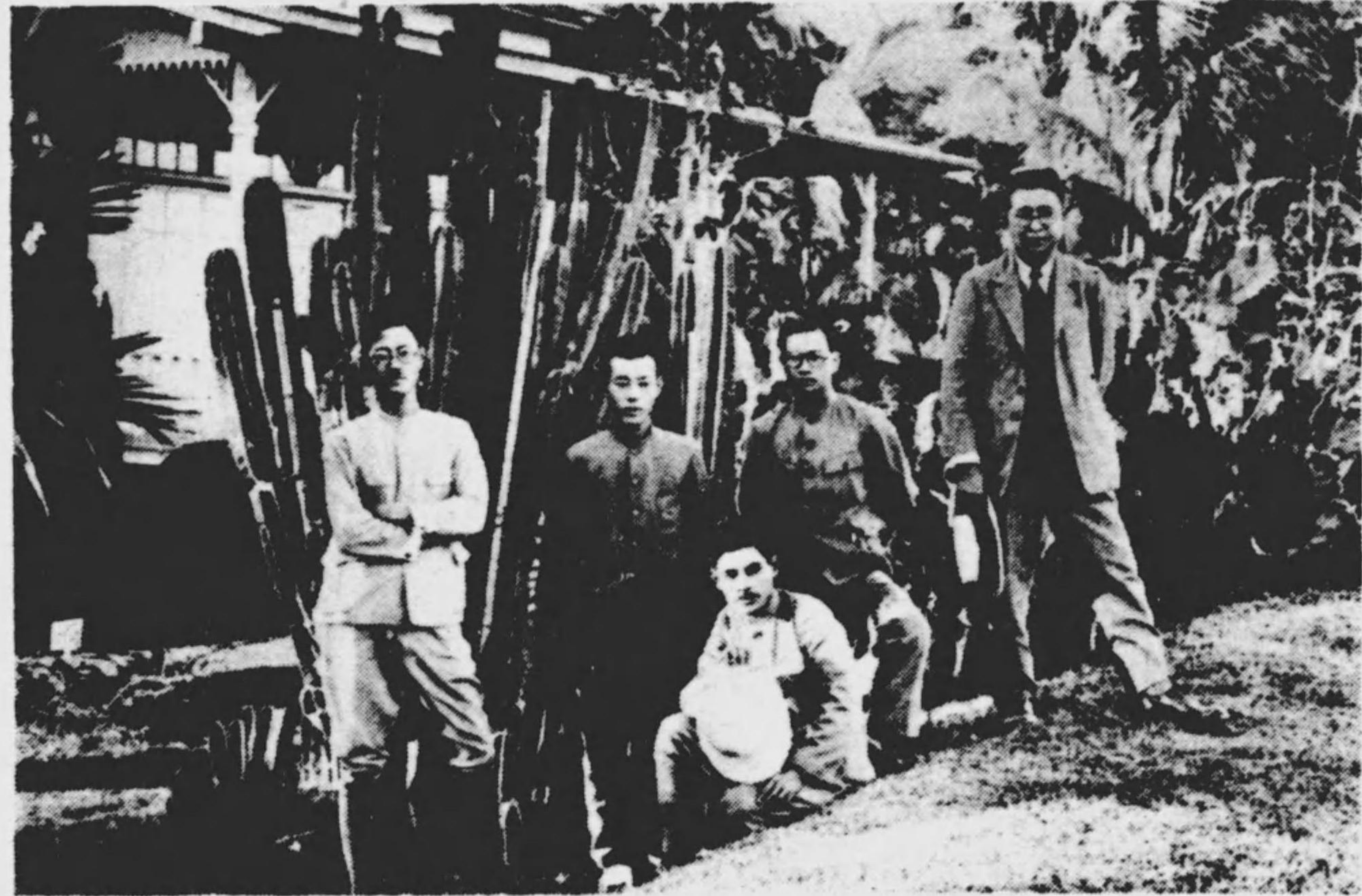
會人同穗瑞連大



後列	眞崎 日吉氏	近藤 松夫氏	栗林 富貴男氏
	鐵塚 太郎氏	濱口 一氏	著者
	島田 照義氏	普山 正樹氏	山下 和三郎氏
	松尾 靜勝氏	牧島市左衛門氏	山崎 良治氏
前列			



部 樂 俱 糖 日 尾 虎



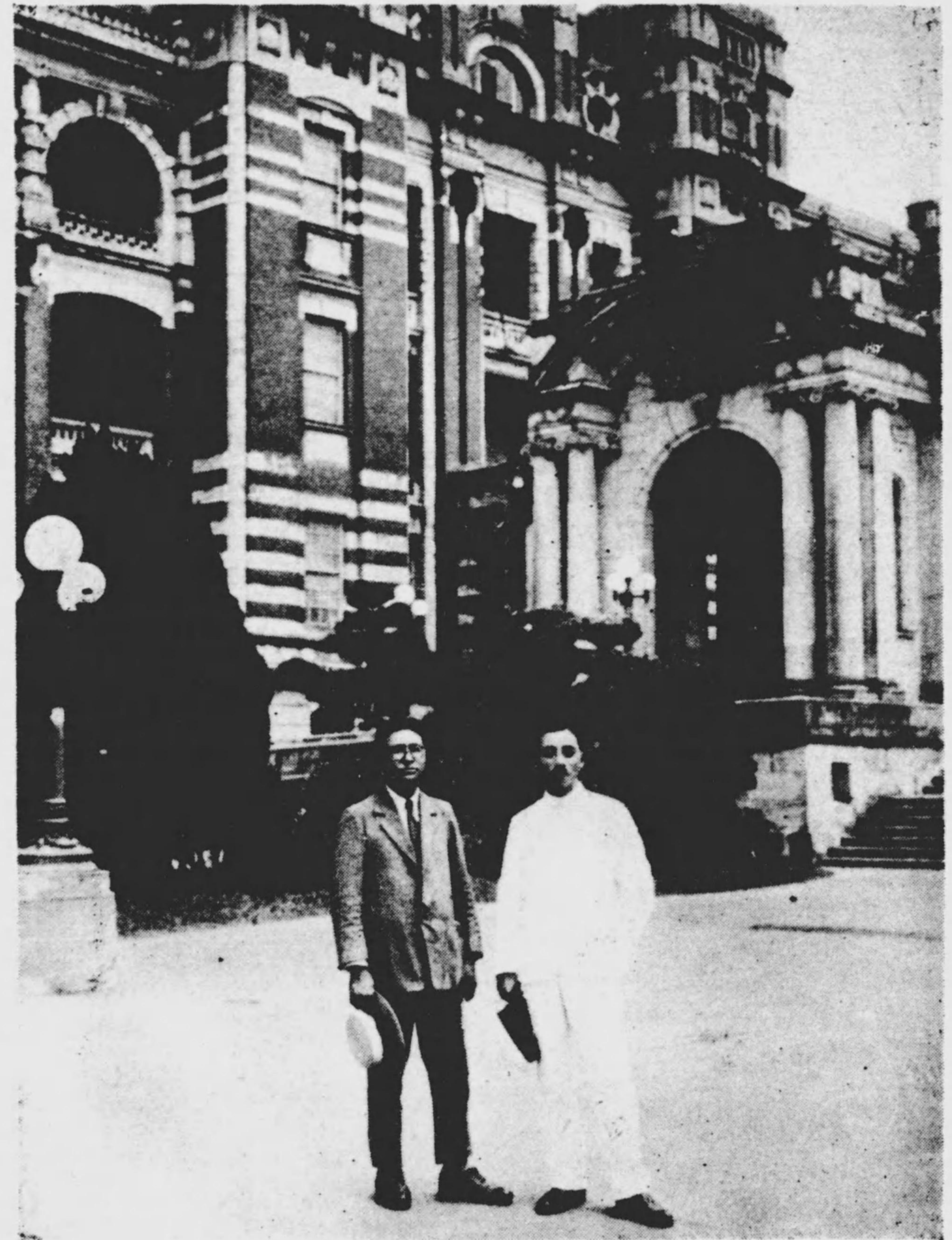
氏夫雪田山 氏二亮田宮 氏郎四久伊歷 氏夫幸丸鶴 者 著 リヨ右

場 農 糖 製 和 昭 柄 楠



者著 氏雄敏田橫 右列前 氏禮鐵田池 氏已八下山 氏明義口樋 右列後

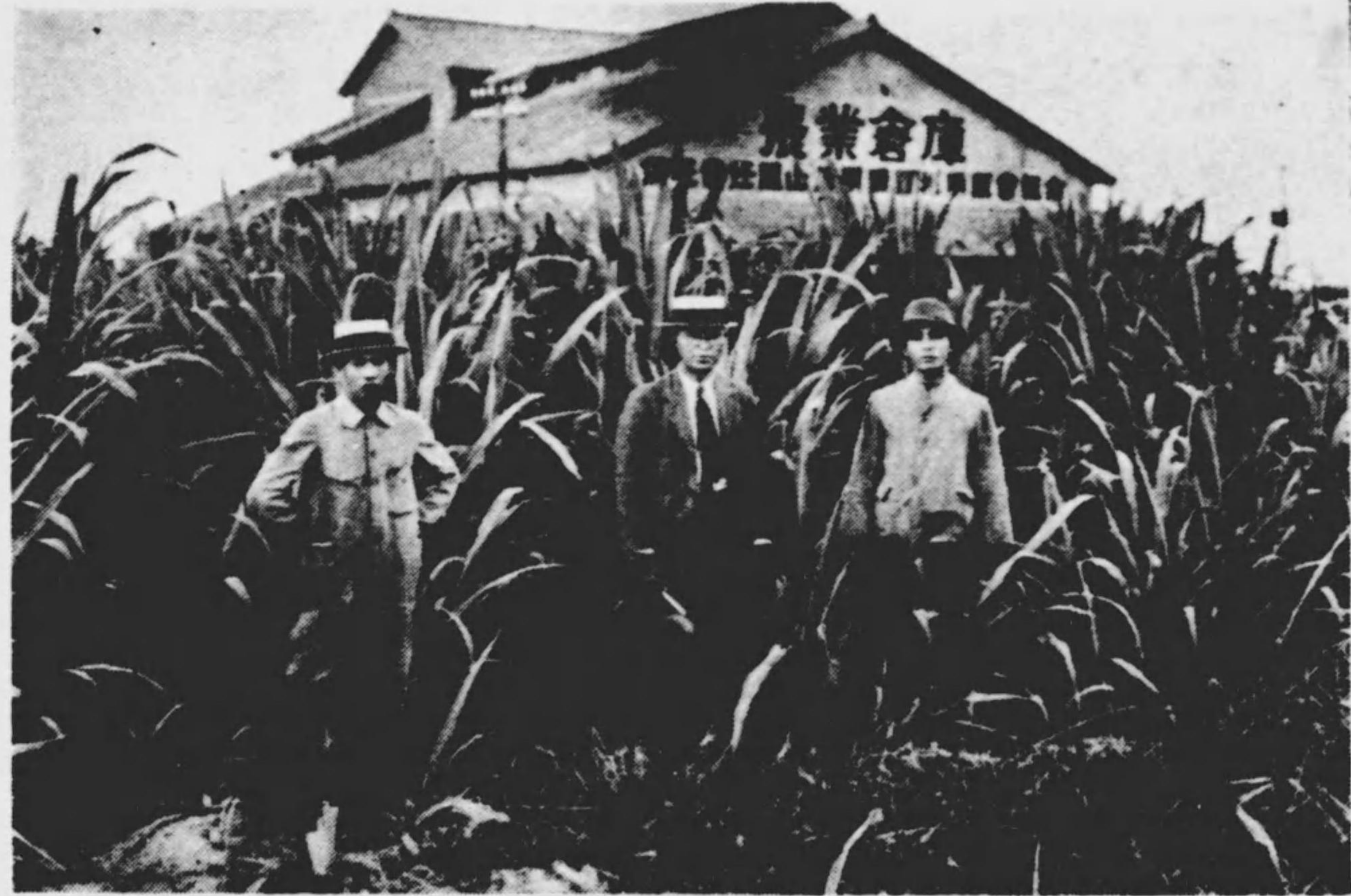
容 偉 の 府 督 總 灣 臺



者 著 左 氏 至 洋 川 森 右



鳳山新興製糖農場



右ヨリ川副貞夫氏 著者 山田秀雄氏

生蕃と語る



右ヨリ生蕃夫人妻 著者 松竹晃弘氏

新營鹽水港製糖農場



右ヨリ平川信吉氏 島田昇氏 著者 兒玉高郎氏 山崎平馬氏

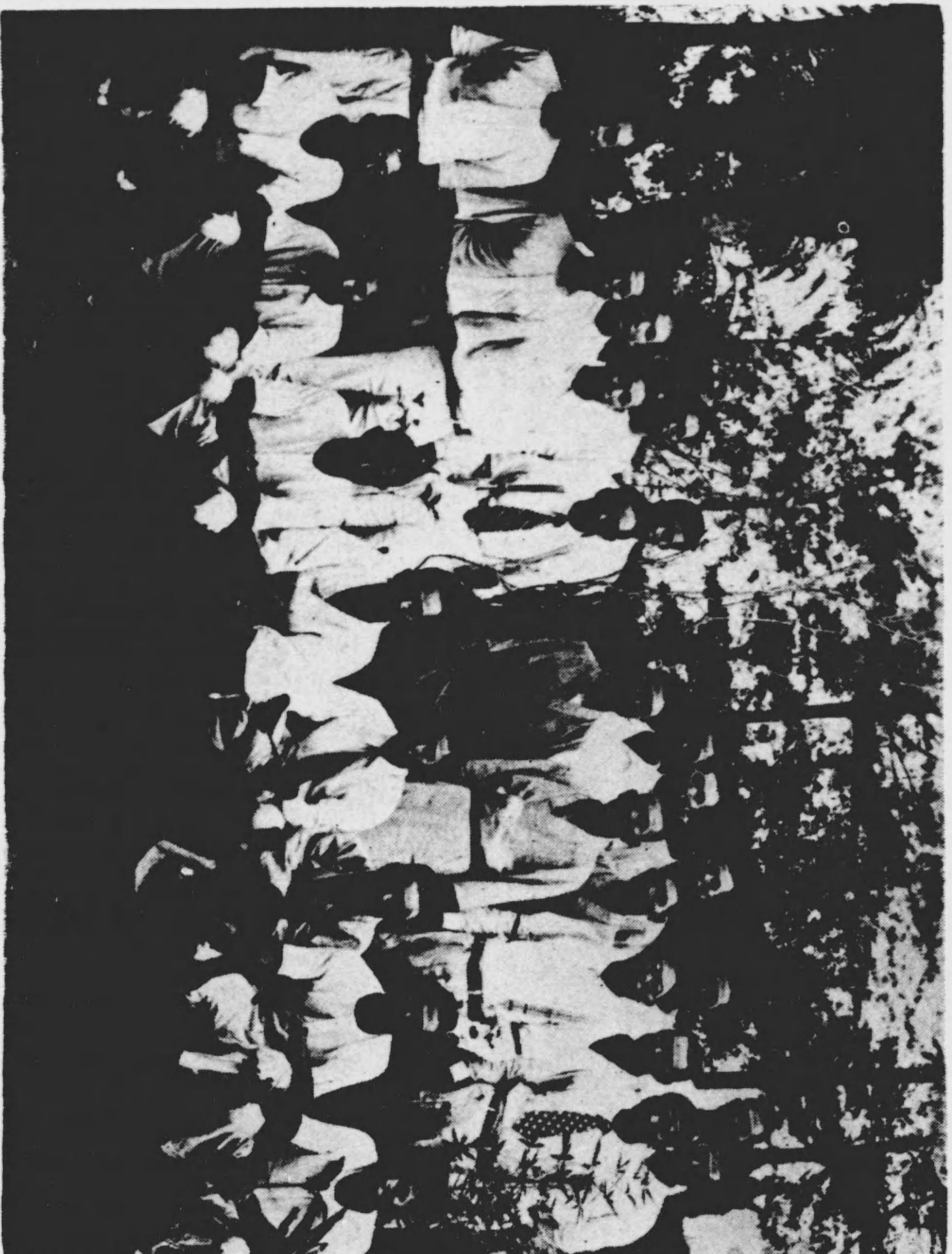
前峰子臺灣製糖農場



右ヨリ著者 木下秀喜氏 木下令息 毛利豐喜氏 杉光常雄氏



(南臺於) 會大人同穗瑞島全灣臺



氏藏鐘賀古 氏美善富納 氏茂野平 氏夫貞川平 氏壽久嘉藤佐 氏昇田島 氏武本松 氏弘梶 武松右 列前

後列

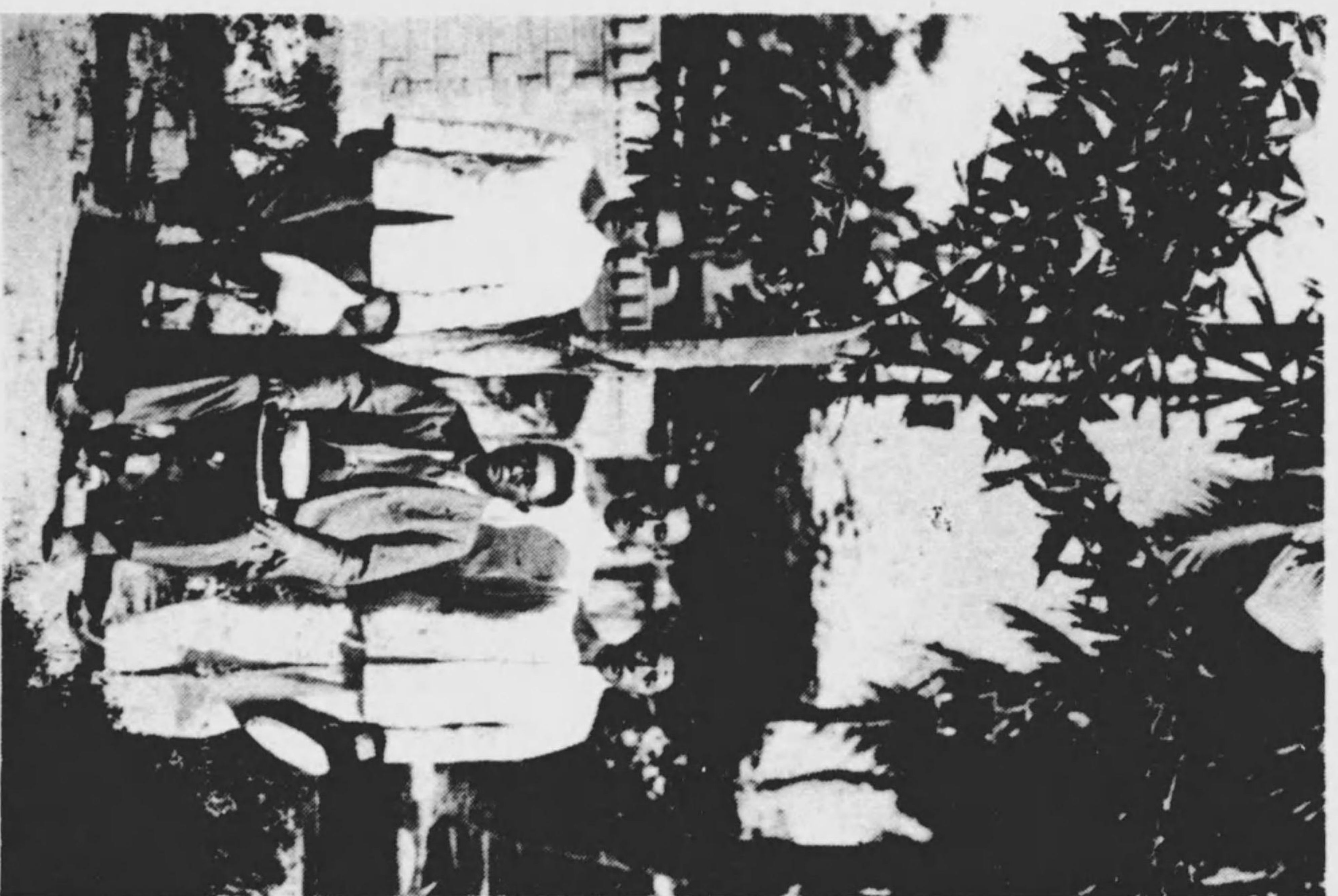
大石 茂氏 宮田 亮三氏  
吉原 實氏 蒲原 綱雄氏  
木下 秀喜氏 田中喜壽一氏  
毛利 豊喜氏 圓能寺清美氏  
兒玉 高郎氏

中列

安永 潔氏 馬場 保氏 鶴丸 幸夫氏  
山崎 平馬氏 小柳 義雄氏  
歷伊久四郎氏 川副 貞夫氏  
平川 信吉氏 柳原 政之氏

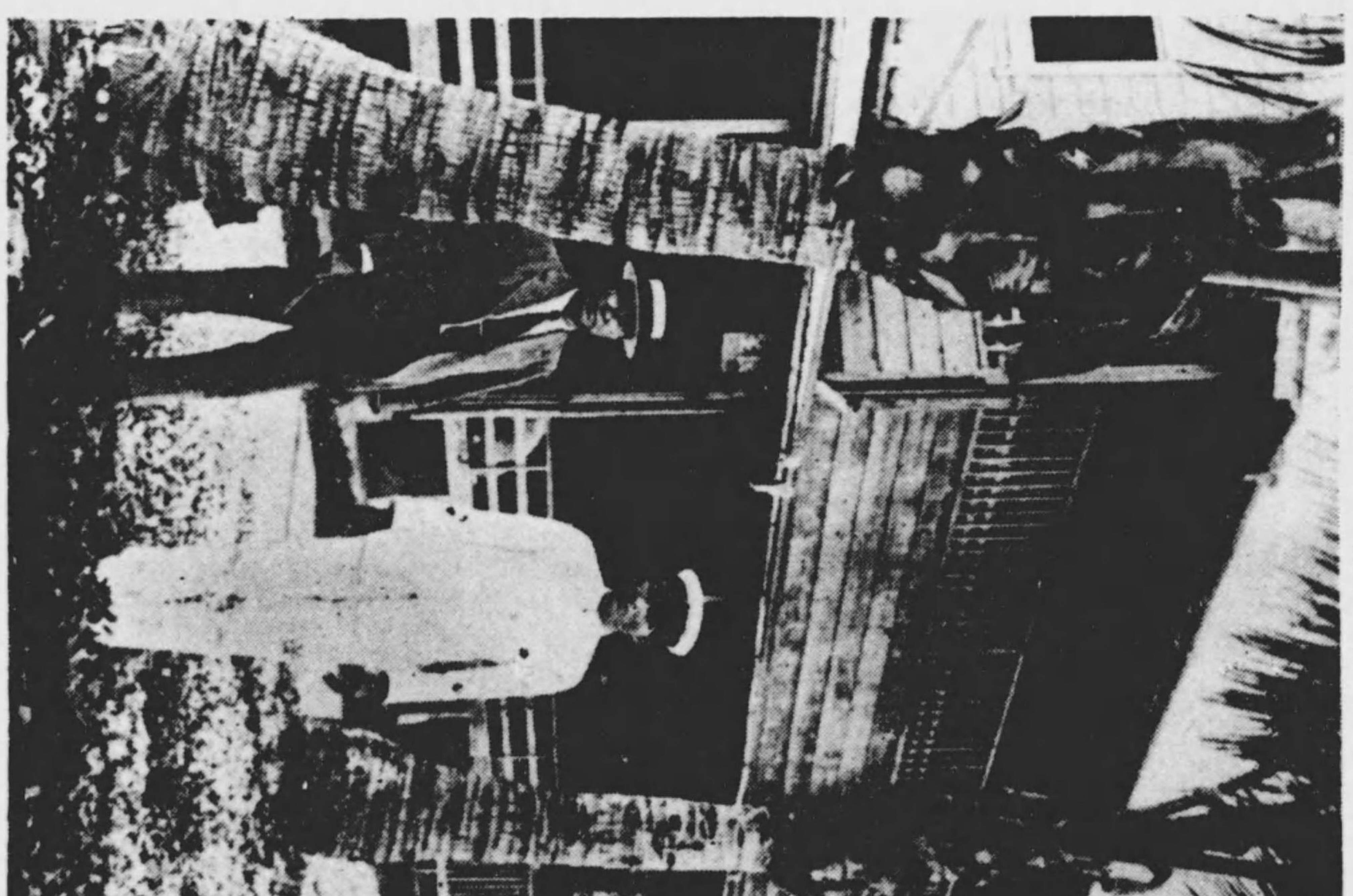
著者

蔭葉の子椰大東屏



氏實原吉 著者 氏一敷浦大 氏弘梶竹松 右

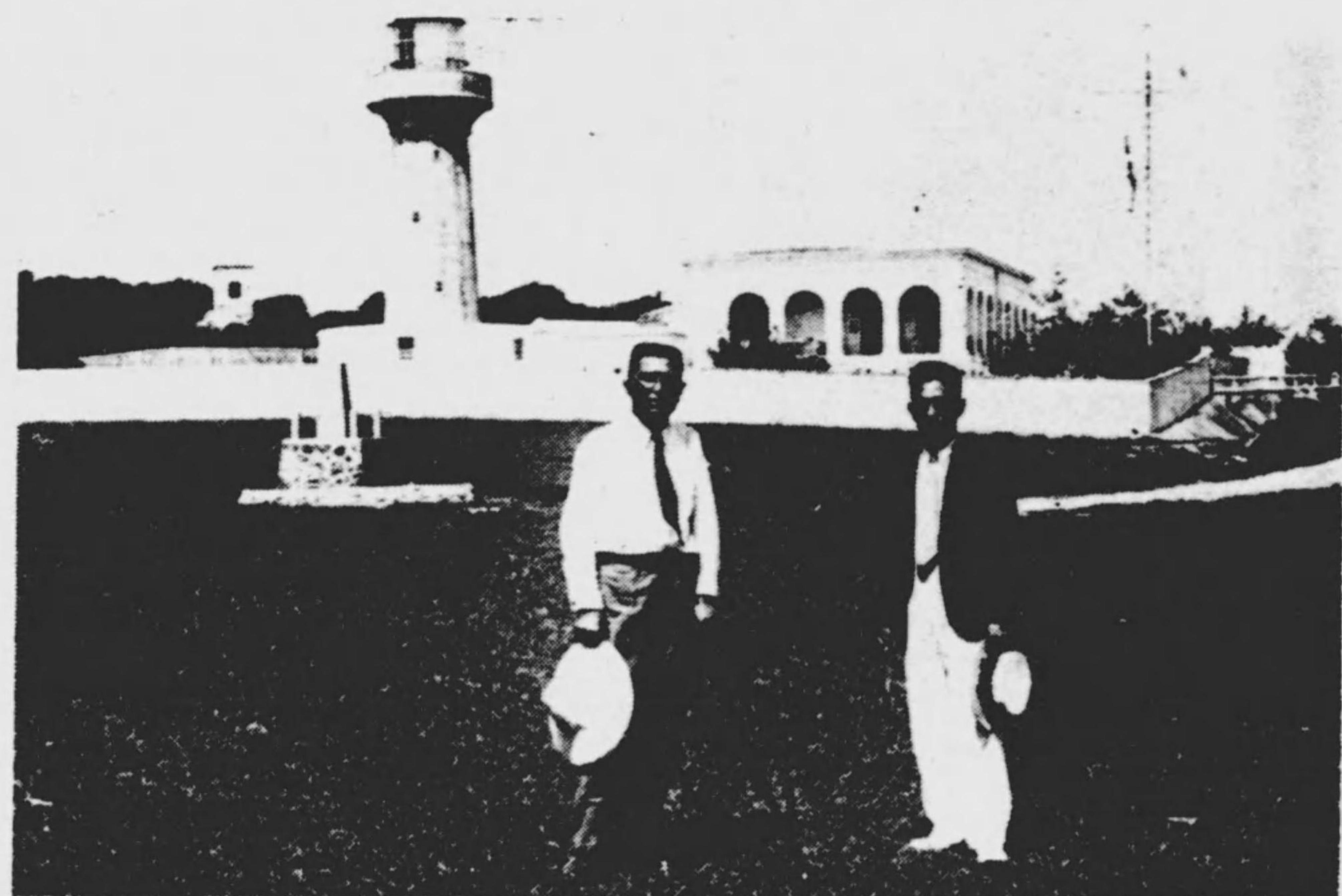
濱の雄高る躍潮黒



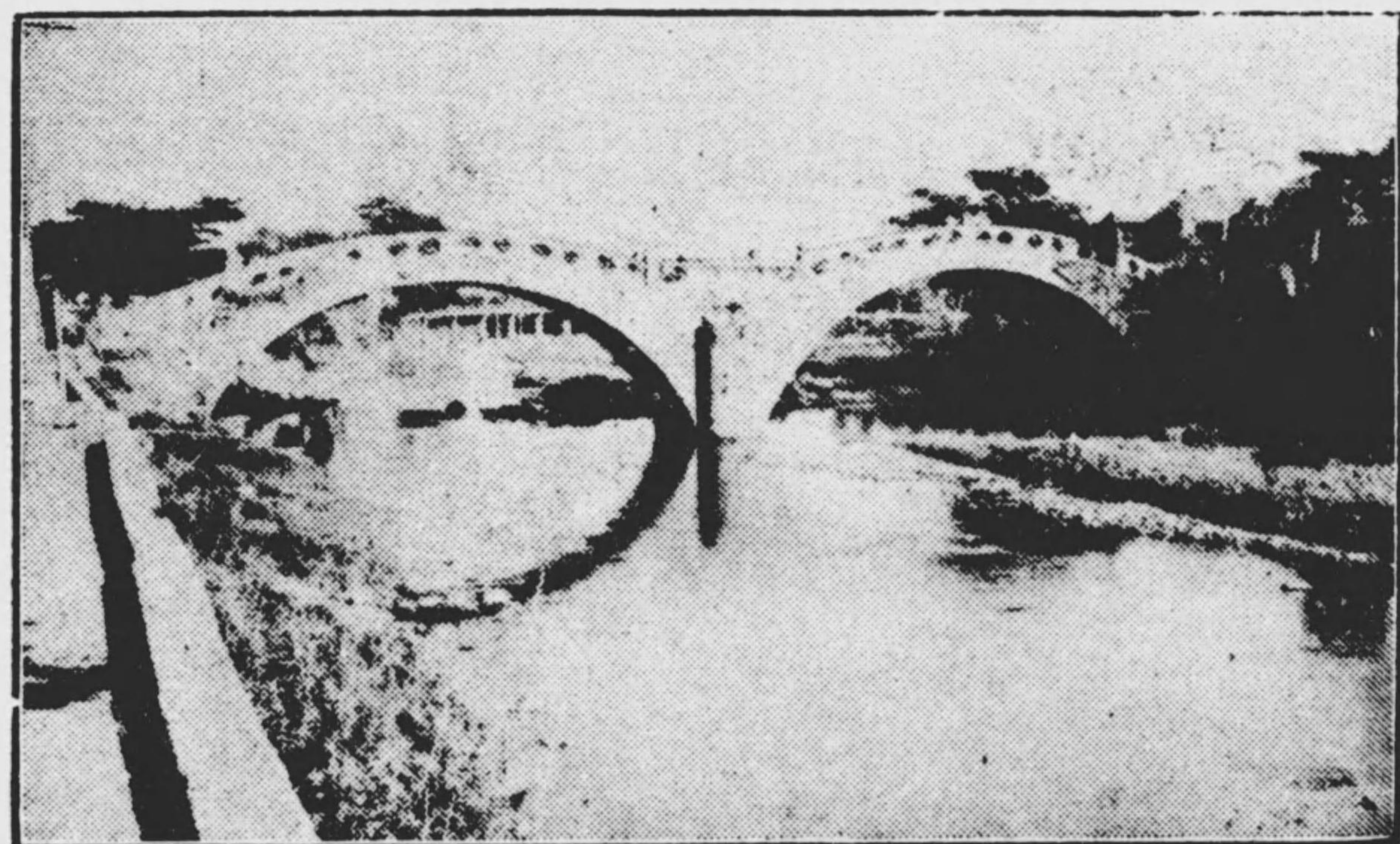
著者 左 氏男一原宮 右



臺燈—ピンラガ端南極灣臺



者 著 左 氏 郎 太 浪 白 右



橋 鏡 目 早 諫 寶 國

跡の伐征人蘭衛兵彌田濱傑快の崎長

ゼーランジャ城趾

寛永元年、和蘭人が臺灣を占領した  
これより先、日本人は安平を中心と  
して通商した。  
そして和蘭人の統治には服せなかつ  
た。  
長官マイツは、平戸蘭館を通じ、日  
本政府に抗議したがラチが開かなか  
つた。そこで當時臺江に居た長崎人  
濱田彌兵衛の船を襲つて貨物を押収  
した。  
彌兵衛は一旦歸つて長崎代官に訴へ  
更に同志と共に安平に乗り込んだ。  
そして、マイツに面會を求め、矢庭  
に飛びかゝつて、劍を胸に押付け、  
降参させ、マイツの長男を人質にし  
て、長崎に引き上げた。  
日本人の豪膽に和蘭人は慄ひ上つた  
その胸のすくやうな、快舉の跡はこ  
ゝである。



(者 著)



# 長崎縣立農學校

## 校歌

(小野健市先生作)

一、源遠き本明の  
茫々廣き平原は  
農事の業を研きつゝ  
二、空に聳ゆる多良嶽の  
吹雪におどる面影は  
我等の心そゝりつゝ  
三、其名も著き不知火の  
つくしの海に輝きて  
堅き操に我が友が  
四、思へば遠き昔より  
世に傳へ來し歴史ある  
日々に榮行く我校の  
五、奮ひ起れや我友よ  
至誠自愛の徳を積み  
我が校風と天職を

流を受くる諫江の  
わが三百の健兒らが  
競ひ立つべき天地也  
千古の緑いや深く  
林の業を研くなる  
剛毅を示す姿あり  
奇しき光は今もなほ  
世の波風にたゆみなき  
こぎ行く道や照すらん  
支那泰西の文明を  
長崎港も程近し  
前途を更に望まずや  
自治共同を規となし  
自彊やまざる一筋に  
八千代の後に残さずや



洋書館前



對學農立總訓

祝農學校創立三十周年歌

小野健市

- |             |            |
|-------------|------------|
| 一、瑞穂文化の傳統に  | 其の校運は隆々と   |
| 學びの業にひたすすみ  | 創立三十有餘年    |
| 二、幾千百の同窓は   | 向ふ所に堂々と    |
| 皇國の護り道のため   | 敢然として躍進す   |
| 三、年々植うる學びやの | 記念の樹々は亭々と  |
| 日々に競へる數百の   | 健兒の血潮そより立つ |
| 四、嗚呼諫江の學園は  | 歴史に意氣に燦然と  |
| 自治協同の校風を    | 確立するぞ使命なる  |

序

我長崎縣立農學校は開設以來既に三十の春秋を閱し、吾人等は、昨秋其祝賀記念の式及事業を舉行する豫定でつたが、本事變のためとは云へ當分遠慮せざるを得ないことになつたのは遺憾至極である。想へば學校はこの間卒業生を出すこと二十八回。人員實に二千一百有餘名、縣下はもとより國の内外を問はず到る所に進出し、着々其の實をあげつゝある。今や漸く人生の最盛期に入り、花も實もある理想實現の彼岸に到着するは間もないことを思ひ、大なる觀喜と祝福とに心躍らざるを得ない。これ正に百花瞭亂、絢爛壯美の繪卷物を繰り擴げたる瑞穂の人材團を現はし、千姿萬態其美を競うて居るは喜に堪へぬ。これら其昔若かりし日、同じ學びの庭に、或は其技能を競ひ、或は苦樂を俟にした友垣であつて、汲めども盡きぬ友情の泉は、お互の心の底を流れて居ることであらう。若しそれこれらの卒業生を一堂に會せしめ得たならば、其美觀如何許りならんか想像に苦しむ。されど此機は絶対になきを誠に遺憾とするものである。

此時第一回卒業生内田牛一君は、母校開校記念を祝するため、「瑞穂三十年史を語る」意味で瑞穂王國行脚記を綴らる。余は此計畫を聞き心より喜び、内田君の熱と才とに期待して一日も早く其成るあるを待望した。君は最近迄同窓會副會長を二期も勤め、會の發展及後輩の掖導に多大の活動をいたされて、同窓皆それに感謝の言葉を惜まない、猶更に母校の記念式行事につきては、中心となつて參畫せられたのである。君は一昨夏より行を起して、國內を北より南の端まで、實に四千餘里を行脚し、更に遠く滿洲、朝鮮、臺灣の邊陲まで車を馳らせて、同窓生の活躍振りを現地に視察し、或は聽聞せらる。其蒐集せられたる寫眞は山をなし、中には全く得難き品もある様である。此行や實に涙ぐまじき努力の跡に満たさる。然し異



境にあつてこの大先輩と語るに當つては、知ると知らざるを問はず手を取り合つて涙の裡に歡喜したこと  
と思ふ。歸省以來、日夜編纂に従ひ、漸く稿成つて不日上梓し、「瑞穂を語る」と題して、發刊せられん  
とする。此著や實に我農學校の歴史を語るに十分なるものであつて、これを讀むもの必ずや或は發奮激勵  
の聲を感じ、或は其昔を憶ひ出すすがともなつて、先輩内田君の努力と深慮とに感激せざるを得ないこ  
とであらう。喜びの餘り一言述べて序となす。

昭和十三年二月十一日

長崎縣立農學校長 檀 上 謙 爾

序に代へて

長崎縣立農學校創立茲に三十年、夙に日本建國の理想をかざして、農道の樹立と、農士の教養とに、不  
斷の努力を續けて來たが、今やその甲斐あつて、國家有用の材幹を出すこと二千三百有餘人、而かも瑞穂  
をめぐりて、國の内外に活躍する同志の業績、漸く實を結んで、茲に學園有終の美は齎らさるゝの日に到  
つた。

これ創立このかた三十年、一偏に先賢舊師の温かき訓陶と、世の大方各位の厚き後援とに俟つ賜であつ  
て、こゝに天下の支持に謝する烈々たる吾等の衷情凝つて、この一冊となり、敢て世に贈る所以のもので  
ある。即ち重ねて言ふ、瑞穂二千の成果をあげて、世の期待に報ゆることこそ、正に吾等當然の義務であ  
り、儀禮であり、且、同朋相愛の契たるを堅く信ずるからである。

○ 今や、秋恰も東亞の危局に際會し、將に建國以來空前の轉換期に起つてゐる。

即ち今次の支那征覇は、東洋永遠の平和をうち建つべく、わが大和民族に與へられた、正義の聖戰であ  
り、不滅の皇業である。故に吾等は、徹頭徹尾戦に捷たねばならぬ。國力の充實と、食糧の獨立とに萬全  
の策を講じ、所期の成果を收めねばならぬ。蓋し戦線に銃後に、吾等農村人の重責今日より大なるはない

○ 今吾々は、この國家非常の場合、靜かに過去を顧み、將來を想ふとき、現下一瞬も自失怠慢を許さない  
層々たる情實、區々たる末節に因はれて、遲疑跋巡、徒らに祝盃に陶醉して、享樂偷安に惰し、この千歳







第一編 回顧録

- 一、其頃の思ひ出と近況 宮崎縣立農學校 伊 東 增 衛……………一
- 二、在職十年の思ひ出 大分縣立宇佐中學校 小 野 健 市……………三
- 三、諫早の思ひ出 北道帝海大教授 獸醫學博士 黒 助……………四
- 四、創立卅周年に對する感想と最近の動靜 千葉、青雲莊 小 熊 彦 三 郎……………一〇
- 五、意義ある紀念事業 愛知縣立安城農林學校 吉 野 豊 美……………三
- 六、長崎縣立農學校沿革史……………三
- 七、瑞穂生ひ立ちの記……………一五
- 八、歴代會長を語る……………二〇

第二編 人物評論

- 瑞穂同窓人物大觀(自第一回卒業至第二十九回卒業)……………三〇
- 一、卒業生出身市郡別一覽……………二四五
- 二、同 現在一覽……………二四五
- 三、同 分布一覽……………二四七
- 四、同職業別一覽……………二四八

第三編 東亞農村行脚記

- 一、長崎縣下 北高。南高。西彼。東彼。北松。南松。壹岐……………二四九

二、朝 鮮 釜山。大邱。太田。群山。木浦。光州。順天。金州

三、滿 洲 水原。京城。平壤。鎮南浦。定州。新義州……………二九五

四、臺 灣 安東。奉天。撫順。鐵嶺。開城。公主嶺。新京。吉林。鞍山。金州。旅順。大連……………三〇七

五、九州及關西關東 基隆。臺北。新竹。臺中。嘉義。阿里山。臺南。高雄。屏東。極南端ガランビー。日月潭。宜蘭……………三四

佐賀。福岡。熊本。鹿兒島。宮崎。大分。山口。廣島。兵庫。大阪。京都。奈良。愛知。靜岡。神奈川。東京……………三三

第四編 結 論

- 一、東亞の大勢と長崎縣農業の將來……………三四
- 二、瑞穂同人の行くべき道……………三四
- 三、結果から見た成功者處世の要諦拾ヶ條……………三四

第五編 雜 錄

- 一、旅 程……………三四
- 二、農學校專修科卒業生氏名……………三五〇
- 三、瑞穂同窓會員氏名索引……………三五五
- 四、調査締切後人事異動……………三六五

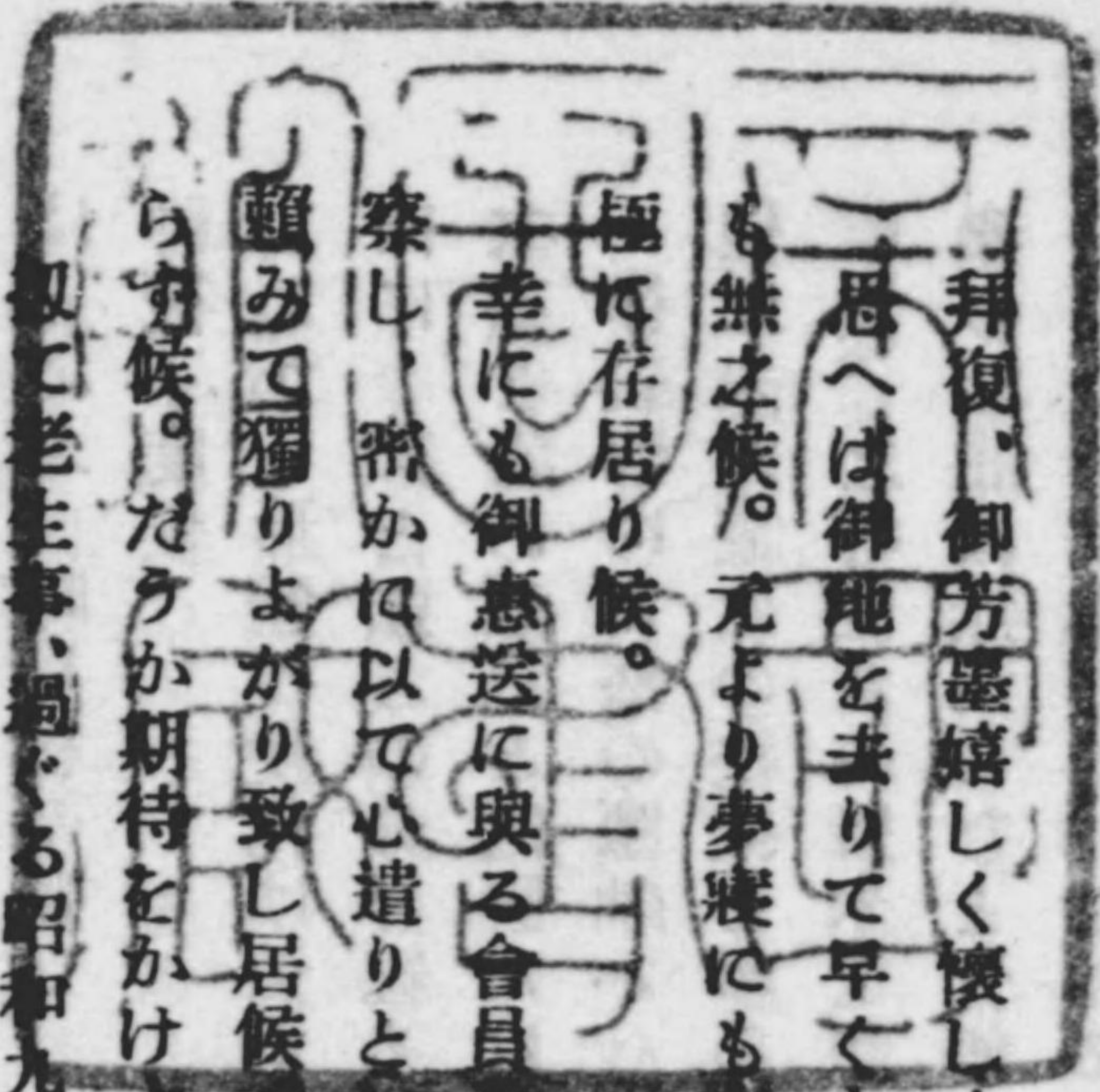
(目次終り)



第壹編 回顧録

其頃の思ひ出でと近況

宮崎縣立農學校囑託 伊 東 増 衛



拜復、御芳書嬉しく拝見致候。御挨拶とは痛入候。思へば御地を去りて早ても二十七年、去るものは日々に疎しの例に漏れず、申譯なき御無沙汰拜謝の辭も無之候。元より夢寢にも忘れ難き御地、機を得て訪問致度きは山々に候も、人事思ふに任せず、遺憾至極に存居り候。幸にも御恩送に與る會員名簿並びにみづ穂を通じて、學校の發展、知れる範圍の會員各位の活躍振りを察し、密かに以て心遣りとし、何時か念願到來思出話に一夕の歡を共にする折もあらむかと、頼み難きを顧みて獨りよがり致し居候。併し今年六十二歳を迎へたる老齡、省みて聊か心細き感に打たれざるにもあらざ候。たうか期待をかけず御待ち被下度候。

現時老生責任輕き充行扶持の境遇には候へ共、唯一無二の老齡、勤績といふ古看板が光つて、元老の取



扱は難有迷惑、まだく骨董品でもあるまいと、霸氣満々たるもの有之候。敢て強かりを申す譯には無之五十六十は鼻垂小僧、男盛りに期待をかけ居り候。非番の日曜には同僚の誰彼を誘ひ、五六里離りたる河邊に自轉車を驅つて大公望を氣取り、時に氣が向けば嚴めしき軍帽卷脚絆もかひくしく、齊藤別當物かはいふ。時局柄の装ひ、生徒に入交つての作業。しさて苦痛とも感じ不申候。希望は生命か、幸に御安神被下度候。

しかし形體の變化は免かれ難きと見へ、老齡の特徴凡て具はり、皮膚は弛緩を來し、齒は落ち頭髮又蒼白に、額と頭との分界線も徹癢して、天質の美男あたら當年の髀を止めざるは絶大の恨事なれど、術なき次第と諦め意氣と健康だけは保持したく、萬全の努力を拂ひ居り候。

律義物に當然の應酬か、それとも負者への附物なるか、不肖の兒女八人中長女の他に嫁したるのみにて他は未だ老生の扶掖を離るゝこと能はざるもの、末子に至りては、明けて漸く八才昨年小學に通ひし許りに候。之等兒女の將來を想ふ時、意氣と希望に燃へて、死の直前まで活躍せざるを得ず候、恐らく餘生享樂の期間は無からむと覺悟致し居り候。

近時公私事繁く、加ふるに寒胃にまで罹り意外の缺禮惡からず御諒承被下度、後れながら御挨拶を兼ねて近況御通知申上候。

匆々

母校三十年周年記念事業として瑞穂三十年史御編纂の趣き、至極結構なる御思立ちと同慶に不堪候。折角御自重の程祈上候、是非拜讀致し度一部御分譲に與り候はゞ幸甚の至りに候

二月九日

伊東老生

## 在職拾年の思出

大分縣立宇佐中學校教諭 小野健市

私の諫早農學校十ヶ年の思ひ出は竭くべくもない。自分の頭に強く残つてゐることの一つは、當時諫早が未だ全く純田舎町で如何にも現代離れしてをつたことである。自然で素朴で人情味があり單純であつた土地も景色も住む人も皆飾り氣のないありのままの感じがしてあつた。學校の先生達は流石に文化生活の指導者としてあかぬけがしてゐた。生徒は全く質實剛健そのもので、極めて男らしい粗削りの素質であつた。頭腦もよく何事も徹底的で感傷性に富み教へ甲斐のある生徒達であつた。重厚とか謙讓とかの修養は未だ十分でなかつたやうであるが、少しも悪すれしてゐない素地そのまゝなる純情なそして明朗淡泊な生徒達であつた。もう二十年の昔である。かういふ點は今はどうな風に進歩向上變化したであらうか。

今でも自分が住んでゐたあの家々はあるまゝに残つてゐるだらうか。それは隣とは別に境界もなくお互に食事するのも風呂に入るのも見え透いて家族同様にした人々は御存命だらうか。

あの諫江の四時の眺め、天祐寺の靜寂、高城の森に利録の如き弦月が懸れるにしきりに鳴く梟の聲が聞える全く幽邃森嚴な境地であつた。自分はこの宇佐の神域に移り住んでから十八、九年になる。毎日各地から宇佐八幡宮に御參詣の人々をみるにつけても、其の方言などを聴くにつけても、往時の諫早生活は今私には極めて珍しい懐しい回顧である。

殊に新年の賀狀や暑中見舞など寄せらるゝ瑞穂同窓諸君の赤誠に觸れては常に諫早時代の氣分に支配さ



れて農學校の建物や農園、家畜、又温室や知人の誰彼が偲ばれる。繪のやうな諫早風景、諫江沃野、有明海の大觀、本明川の清流は今も猶同じだらうか、變つたならばどう變つたであらうか。驟雨の諫江平野、紅葉の城山、眞白き多羅岳の遙望、それに親しくせし知友や忘れ得ぬ卒業生など全く夢のやうだ。嗚呼人生の眞盛十年を暮した諫早の思ひ出は泉の如く湧いて来る。

物皆目まぐるしく變り行く現代日本の世相に於て私は當時の諫早のやうな處を何時までも其のまゝにあればかしの念願してやまぬのである。而して今日日本が要求してゐるほんとうの日本人はあゝいふ環境に於て育成さるゝやうに思ふ。この點に於て瑞穂同窓生は極めて恵まれてゐると共にその責任の大なるを自覺して貰ひたいものである。

私もすつかり感傷的抒情に墮してしまつたが實は長崎農民社主幹内田牛一氏の感激的情熱に魅せられて其の昔農學校創立十周年の記念歌を作り又記念雜誌を發行したことなどを回想するまゝに再會期し難い瑞穂同窓會員各位に對して追慕の赤誠を披瀝して皆様の御健康と御發展とを祈ります。

### 諫早の思ひ出

北海道帝國大學教授  
獸醫學博士 黒澤亮助

私が諫早に赴任したのは大正五年十二月中旬だつたので、今から考へると二十二年も前の事で今更ながら年月の経過の早いのに驚かざるを得ない有様です。兎に角私としては大學を卒業して初めて月給といふ

ものにあつた土地なので、忘れやうとして忘れる事の出来ないものがあるに相違はないが、然し扱てそれを纏めて何か書き連ねやうと思へば余りに昔の事になり過ぎてしまつた、爲めに他からあんな事こんな事と注意をしてくれる人でも居れば色々と氣拔な事も思ひ出すであらうが、余りにかけ離れた北海道に来てしまつて一人も相手になつてくれる人がない。又私は生來香氣な性質の爲めに細かな日記帳一つあるでなし、元々偉い主義主張を持つて行つた筈もなし、同時に何等の特長を持つて居ない平々凡々只々人の眞値をして辛じて職を保つて居たに過ぎないから特殊な逸話じみたものもないわけである。

諫早の農學校を思ひ出す度に何ものも残して來たものがないのを残念な事だと思つて居る、その代りにたいした悪い事もして來たとも思はないのがせめてもの慰めとでも云つて良からうか、何しろ大正七年夏御別れするまで滿一ヶ半年の滞在で誠に短かい期間であり、世間知らずの學校出たばかりの青二才で、香氣坊主にしては何物かを残さうとも思ふ筈もない、まして教育に従事する柄でもなかつたものが突然恩師の指導で赴任して内情が少し判りかけた時に轉任してしまつたので悪い感化を與へなかつた丈けで許して頂きたいとも思つて居る。兎もあれ十二月中旬に赴任して中村校長に御目にかゝつた時に如何にも神經質の様な誠に細かい所のある様な感じを與へられたには一寸參つた、其上どんな課目を受持たされるかと内心ヒヤ／＼して居る處へ前任者柳川先生が農産製造を擔任して居たが試験をせずに行つてしまつたのでその試験を行はなければならぬ、試験を行ふには一時間でも授業をしなければ試験を行ふわけに行かないから差當り授業をせよとの事だつた、之れには氣樂者も流石に驚いた、農學校の先生たるもの仲々大變なものだと思ひましたが、仕方がないから物の醗酵するといふ事はどんなものかといふ様な總論的の講義をして一時を誤魔化して試験を行つた、之が私の先生生活の第一回の試験と採點を行つたわけで今から思へば出來る子供に悪い點が付いたかも知れんと氣の毒にも思つて居るが、兎もあれ授業を爲し試験を行ふに



も事によりけり後にも先きにも例のある筈もない農産製造學だつたのだから忘れられない。

當時大學時代からの悪口仲間だつた清水先生が居られたので、赴任をするにも着任してからも何くれと御世話になり非常に力強くさせて貰つたものだつた。又校長中村先生は前述の様に事細かに注意も與へてくれ眼鏡越しにこわい顔をされて居たが段々話して見れば親切な所が次第に現はれて頼母しくもなつた。更に教頭佐瀬先生は大學の先輩でもあり誠に温和な親しみ易い取付き易い方なので校長先生よりも勿論日常の雑事は萬事御世話になつたのは申す迄もない。其他井上、大串、堀川、小野、松山、安藤といふ様な先生方何れも親切な方々だつたので何等の不安もなく落付く事が出来た。

諫早に一戸を構えたが之れも私には一生の思出の種子であるのは當然であるが、それにつけても誰が探してくれただか知らないが家賃が驚くゆれ二圓二十五錢だつたと記憶して居る。當時月給が五十圓だから現在の農學校卒業生の初任給に比べて高くない程度だつた。然しそれでも奏任待遇教諭だつたから資格はたいたものだつた。諫早に着いて話が判らないのは一寸困つたが今となつては思出の種子である。ネー、だかナイだか發音がハツキリ耳に入らない。店先きに立つてナイと云はれて無いのか有るのかを疑つた事もあつた。諫早の豆腐はコゲ臭くて食べられない。結局それを諫早では當り前な豆腐だと知つて悲觀させられた。味噌汁が好物の小生に取つて甘い豆腐汁が食べられなかつたのは亦忘れられない思出の一つである。

今でも酒の味は甘いものだが諫早の酒も忘れられないものゝ一つである。元々私の酒は大學卒業間際に飲み初めた位のものであるから當時は甘いもまづいも頓着なしに飲んで居たに過ぎないが、持つて生れた酒飲みで理もなしに飲む癖が何時の間にか出来てしまつた。それには師匠も必要相棒が無くてはならぬ御迷惑かも知れないが井上先生などは師匠といふ程でないにしても大兄貴分であつて引張り廻されたものだ。

然し大兄貴とは再三飲む機會はない。結局相棒が最も良きにつけ悪しきにつけて飲む機會が多く、斯くして次第に手が擧つて行くもので當時小生より少し遅れて來られた湯川、緒方など、云ふ豪の者をはじめとして清水、安藤先生等若い所が居り不良老人位に入る浦島校醫なども時に参加して賑やかなものだつた。其行他宴會席では井上、大串兩元老あり。堀川先生にしても田代さんにしても朗らかな連中だつた。其點に行くと中村先生などは全く話せない堅氣一點張りであつたし佐瀬先生も飲めない御氣の毒な先生であつた。其當時から酒の飲めない人は大體可愛想なものだと思つて居る事は今も變りはない。御蔭でソロ／＼五十近くになつた今日迄諫早時代の二十六七位の氣分で居られる。現在學校では勅任教授で俸給は安いが官等丈けは昇つて居る。一步出づれば若い女共相手に飲んで／＼飽く事を知らない。但し當時の先輩や相棒が飲む丈けが藝であつたのが因で二十餘年間飲み續けた今日都々逸一つ歌へないのが恥かしくもあり惜しい事をしたものだとも思つて居る。偶には教へてやるといふ妓も居るが今更覺えたでは特徴がなくなるからと遠慮をして居る。

兎に角五十圓の月給で遺憾なく飲んだものだといふのが諫早の思ひ出の一つである。當時の相棒清水先生は現在明治製糖の工場長に榮進せられ、先年臺灣旅行の際に諫早で御別れして以來二十年振りで會つて當時を偲び、序に昔に歸つて鱈腹御馳走になつて御迷惑をかけた。又滿洲旅行の際には熊岳城に居られた湯川先生に十何年振りか御目にかゝり一晩飲み明かしたのも諫早の取り持つ縁だつた。湯川先生は私共の眞似の出来ない磊落な人で數限りない話題を提供して居つたが時々遊びに來て呉れた。途中田代さんから漬物を頂いて新聞紙に包み貧乏徳利に酒を入れて貰つて羽織裏に秘して懷手でソ／＼やつて來られた。大正六年の年末賞與私は十四五圓、湯川氏は五六圓戴いたがこんな金は飲んでしまつた方が清々する。然し此所で飲んで面白くないから變つた土地へ行かうといふので天草へ出かけた。元來動機が悪いせい



途中、荒れられて名も知らぬ所に下りてサー一杯と意気込んだが、其處の風呂で一人の婆さんが「あなた方折角來られても若い娘達は他所に皆出て居て此所には居らない」と聞きもしないのに我等の意中を察してか云つてくれた。今更仕方がないから二人で暗いランプの下で男酌で飲み明かした事もあつた。之れも先づ／＼忘れられない一つであろう。諫早では橋の袂の水月とかいふ料理屋を覚えて居る。別段艶ポイ話題を作つたとは思はないが五十圓の月給取としては良く飲んだものだ。當時を思ふと今時の若い連中の覇氣？のない飲むとしてもカフェーの片隅でコソ／＼やつて居る連中の多いのを見て齒痒くてならない。私共が水月でどなり散らした當時を思ふと我れながら恥かしい様な氣さへ起るが、二三人で行つた時誰れ彼れなど、藝者を名指す必要はない。誰でもよい「居る丈け皆集れ!!」、蓋しそう云つても高が知れて居るし甲乙もなかつたからである。

月給日には水月の女中が小使室に待つて居た。生徒の手前悪い事だとも思はないではなかつたが、それより先きに五十圓の月給から十圓も十五圓も取られるつらさで悩まされたといふのが正直な話だろう。酒の話はつきない。當時大村中學の連中と職員同士の懇親會が開かれた。其時大村に出かけて大村灣を眺めて氣焔を擧げた事もあつた。烏賊の刺身が甘かつた。殊にウニの味をこれから覚えて來た。大村中學の校長と大いに談じ込んで校長といふものは時々交換して見るのも良いものだと提議した事も覚えて居る。

中村校長は仲々實習の熱心な方であつた。午後になると例の霜降り實習服で草靴脚絆で農場を見廻られたが私には苦手だつた。私も作れと命ぜらるゝまゝに實習服を作つて見たものゝ着る氣になれず遂に三四度着た切りで脱まれ通して一年半を過ごしたのは悪い奴であつた。然し農場に出かける事はサボつた譯ではなかつた。農場には私の愛する仔牛が居た。この牛は大正六年春廣島の七塚原試験場に自ら遣はされて牽き付けたものである。當時未だ／＼寒い季節で格子張りの貨車では寒くてやり切れないから四圍に藎

を張り牧草の中に埋まつて輸送したものである。之れが私の只一度の動物輸送の經驗である。貨車の事とて電氣はなし辨當も水も容易に勝手の知らないものには手に入らないで悲觀した。其後歐洲、臺灣、滿洲方面の旅行の度毎にあの海峡を通過し昔と同じ下ノ關大里間の貨車輸送船の運行するのを見た時に二十年前あの仔牛と一緒に渡つた事があつたと思ひ出さずには居られなかつた。

大正七年春突然北海道空知農業學校へ轉校を恩師から勧誘された。諫早の土地にも慣れたが自分の專攻は元々獸醫學であつて諫早では畜産業の外は英語などばかり教える。その英語たるや小生にはたいした興味のある筈もない。こんな點から氣樂者でも少しは將來といふものを考へなければならぬ。其處で意を決して校長に歎願したが容易に許されない。二月三月と過ぎてても解決しない内に夏休みに入つてしまつたので餘義なく縣廳に學務課長を訪ね談判をしたが言を左右にして明答を與へない。結局最後の手段として出掛けてしまへと決心してそれとなく職員各位に挨拶をして北海道の土地を再び踏んで今日に及んだ次第である。

處が中々世の中といふものは面倒なもので當地に來て見ると卒業生間に札幌系のものは排斥せよといふので大騒ぎの眞最中だつた。それとは知らず札幌で同窓會が開かれるといふので別に招待はなくとも出て見やうと同僚の勧めるまゝに出かけて行つた。同窓連中は小生の排斥運動を一杯機嫌で氣勢を擧げやうとして居る矢先きに、呼びもしない小生が意外にも出かけて行つたから面喰つたのは幹部連、五時の開會が九時になつても開かないで幹部連が別室でゴヂヤ／＼やつて居るらしい。其所で小生が直ぐ歸れば文句はないのだが叩かれる心配もあるまいから何時迄も知らん顔をして待つて見やう。之を根氣並べといふものかと考へた。遂に幹部連が我を折つて開會となり形式的の挨拶があつたから、小生は何事も飲めば判るかとして腹の底まで話さうじやないかと先づ幹部級と片端から一氣打ちをやつて見た。八釜しかつた排斥問



題も一夜に解消して朗らかになつてしまつた。之れも諫早の先輩相棒から教へられた酒飲み術の應用でもあり、酒の効果とも云へやうかと思つて居る。斯くして此所にも一年半大正九年春札幌に舞ひ戻つて獸醫學を修めて終始一貫若い連中を相手に家畜の衛生問題を論議し、地方に出ては衛生思想普及の爲めに及ばずながら努力して居る積りです。

本稿を起さんかと心構えをして居た矢先きに先達は中村前校長の訃音に接す。誠に痛惜の至りに堪えない。殊に私は前述の様に格別な知遇を受けたにも不拘無理に諫早を飛び出して御迷惑をかけた事を想起すれば一層其感を深くするものである。改めて先生の御冥福を祈つて止まない。

### 創立卅周年に對する感想と最近の動靜

千葉縣船橋市九日市、青雲莊 小熊彦 三郎

#### 一、最近の動靜

最近本籍を現住地に移し、當市を永住の地に定めました。之は船橋市が大東京の郊外住宅地で、交通上東京市内と殆んど變りがなく便利で、しかも海岸で住み心地よく、著述業としては最適の場所だからです。矢張り著述といつても中學校や高等女學校、農業學校等の教科書や農業方面の参考書が主なるものです。

#### 二、経営又は關係事業

自ら經營してゐる事業はありません。

關係方面は現在では相當廣くなりましたが、然し出版方面が主なるものです。

日本農林學會理事、東京教具研究會理事、その他澤山關係はしてゐますが大したものでもありませんから省略します。

#### 三、創立卅周年に對する感想

二、三ヶ月に一人位の割合で諫農卒業生の諸君や舊知の方々が訪ねて来てくれるので學校の様や發展の情況なども時々拜聴してゐます。その度毎に伸び行く學校の前途を祝福すると共に在職當時の事ども追想して懐しく思います。

卒業生諸君の活動も本格的に一大飛躍を示して來た事故、農學校の發展も期して待つべきものがあると思つて欣快に耐えませんが、何といつても校内にあつて職員諸君の献身的努力と、校外に在る卒業生諸君の不斷の努力とが兩々相待つて初めて學校の隆昌を來たすものと思つます。この意味に於て切に職員及卒業生諸君の一層の御自愛を祈ります。

#### 四、家族の最近の寫眞

本年一月三十日にとつたものがありますから、良く出來てゐないがお目にかけます。



## 意義ある紀念事業

愛知縣立安城農林學校教

吉

野

豊

美

拜啓、寒氣益々きびしき折柄、益々御健勝にて御活動の趣きを拜し、大慶至極に存じます。過日は御書面懐しく拜見致しました。

長崎縣立農學校も本年は早三十周年を迎へられ、いろ／＼の催し等あるやに承り、殊に瑞穂三十年史御發刊の由、寔に結構なる御計劃にて意義ある紀念事業とはるかに喜び申上げます

何と云つても長農は、郷里長崎縣唯一の農學校であり、又小生にとりては、農業教育への最初の振出の地であることを思へば、一入感慨深いものがあります。

長農に御世話になること足掛け六年、その後、秋田縣に一年八ヶ月居りまして、昨年九月愛知縣安城農林學校へ參つて今日に及んでゐます。至つて元氣に非常時下の農業教育のため、微力を致してをりますれば乍他事御安心下さい。

甚だ簡單ですが、右御求めの御返事まで認めて、時節柄折角御自愛御健闘の程祈ります。

## 長崎縣立農學校沿革史

我が長崎は三百餘年の昔より、日本唯一の開港場として其名を知られ、殊に明治初年に到つては、泰西文化の搖籃の地として、名實共に日本一の隆盛を示して來たけれども、農業方面の事に至つては、常に他

府縣に一籌を輸するの恨みがあつた。

明治の中葉、慥か三十年頃から、實業教育熱が盛んに勃興し、殊に農業教育機關の必要が論議せられて縣内有識者間に農學校開設運動が擡頭した。

こゝに於てこの大勢の赴く處を洞察した。時の縣知事荒川義太郎氏は、遂に三十七年の縣會に農學校開設問題を上提し、滿場一致でこれを可決した。

而して縣下の中心であり、農業地として最も恵まれた要素を有つ諫早の地を相してこれが設立をするこゝとなつた。

こゝに於て地元民たる北高郡民は相協力してこれを支持することとなり、建設費の内、金貳萬六千四百圓を各町村で分割負擔し、金一萬三千圓を諫早男爵家で特別寄附をなし、以て設立を容易ならしめた。

明治三十八年通常縣會に於て、三ヶ年繼續事業として建設することに決議があり、諫早村船越名元北高來郡農事試験場跡地を中心に地域六千八百八十坪を賣收して、三十九年四月工を起し、校舍、寄宿舎、講堂、附屬舎等を建設し、四十年九月十三日竣工した。工費六萬四千七百九十圓である。

明治三十九年九月十一日、文部省より甲種農學校として設立認可があり、翌四十年四月第一回の生徒を募集し、同月三十日生徒八十八名を入學せしめた。

四月十八日長崎縣事務官高崎行一氏、校長事務取扱を命せられ、五月十一日開校式をあげ茲に始めて長崎縣立農學校として力強き呱呱の聲をあげた。

九月四日、栃木縣立農學校教諭後藤鐵藏氏第一代校長として就任、尙其他各部の擔任先生も悉く赴任さ



れ全般の陣容完く整つた。

四十一年三月十二日 文部省より徴兵令第十三條並に文官任用令第三條第三項の認可があり、徴兵猶豫と文官任用の資格を得るに至つた。

四十五年三月二日、北高眞津山村に演習林を設置し植林實習を始めた。  
尙四月には農業補習學校が附設され、附近の農村子弟を收容して夜間農業教育を施した

大正二年十月四日、後藤校長突如病歿され温厚玉の如き名校長を失つて子弟一同痛惜した。

十一月十七日 元文部省實業學務課長、中村由太郎氏、第二代校長として赴任され、よく校基の充實と卒業生の發展とに力を盡して大に業績をあげられた。

大正七年八月十三日 中村校長、奈良縣立磯城農林學校長として轉任され——同年九月三日、宮城縣農業教員養成所講習會主事松澤辰三郎氏、第三代校長として赴任された。

九年十二月二十二日 松澤校長病氣退職された  
而して同日、長崎縣師範學校教諭、美島近一郎氏第四代校長として其後を繼がれたが色々の問題を惹起し遂に十年五月五日依願退職された。

十年五月十八日、島根縣立農林學校校長原誠人氏、第五代校長の椅子に就き、實踐窮行校基の擴充に努力され業績大にাগり面目を一新した。

大正十一年三月三十一日、實業學校教員養成所を併設し。  
十五年三月五日學則一部變更。

昭和三年四月一日、本科定員四百五十名、專修科五十名として學級の増加を行つた。

昭和三年二月二十二日 本校舎改築工事に着手同四年八月二十日竣工した。

昭和四年三月二日 北高長田村に御大典紀念演習林を設置して植林を行ひ。

昭和四年十二月一日 本校創立二十周年並に本館改築紀念式をあげ空前の盛況を呈した。

昭和十年三月、在職十五年の久きに亘つてよく校運の發揚に努められた原校長、勇退歸郷され昭和十年四月現校長檀上謙爾氏の來任を迎へ今日に至る。

昭和十二年五月十一日 本校創立三十周年に當る卒業生實に二千三百を算するに到つた。時は移れど人はれど校庭の一木一石悉く憶ひ出での資料たらざるはなく殊に手植の記念樹年々に榮へて往年を物語るが如く轉た感慨の切なるものがある。

### 瑞穂生ひ立ちの記

明治四十三年十月の或、日曜日、内田牛一、立右秀一、諸岡政一、小玉猿三、吉谷茂、の諸氏母校農場事務室に相會して、同窓生の親睦を計り、併て農業界の發展を圖る目的を以て、同窓會設立の計劃を申合せた、内田牛一之れが會則を立案し、同志の協賛を得て愈同年十一月六日、母校に於て同窓會創立發會式をあげた、會員五十六名、會長後藤鐵藏氏(母校校長)、副會長柳川鑑藏氏(母校教頭)、幹事小玉猿三、小野祐太郎、内田牛一、の三氏選任した。尙會名を瑞穂同窓會と制定した

明治四十四年一月、内田牛一、母校助手として勤務の傍ら同窓會事務を擔任したが同窓會機關雜誌發刊の計劃を樹て、専ら之れが編輯に従事し、七月二十七日雜誌瑞穂第一號(菊版五十六頁)を發行した。



次いで同年十二月七日瑞穂第二號(菊版六十三頁)を發行した。其の頃會員の意氣頗る旺盛で原稿なども中々氣拔なものが澤山あつた。超へて明治四十五年六月三十日、瑞穂第三號(菊版九十頁)を發行した。當時會員の増加と共に氣勢大に揚がり、相互の聯絡協調頗る良好にして、年と共に會運の降昌を示して來た。

此の年明治大帝崩薨國家諒闇に逢ふ。

大正二年十月四日、會長後藤鐵藏氏病死され同十一月三十日、中村由太郎氏新會長として就任された。中村會長は、同窓會の發展を期するには、まづ人材の活用にあるとし、新に人事部を置き、専ら同窓生の就職方面に意を用ひ、適材適所に人材を配し登用の途を開かれた。當時幹事内田は會長の秘書として人材の配置幹旋に日夜引き廻はされ、奔命之れ疲るゝの態であつたが、中村會長は日夜寢食を忘れて卒業生の就職に奔走せられ毫も倦まざる大奮闘振りは全く感服の外なかつた。

現在會員中最もよく活躍し、社會的地位をかち得てゐる者は、此の時代中村會長の推挽によるもの頗る多く當に人材輩出の時代であつた。

大正三年七月八日、瑞穂第四號(菊版九十八頁)を發行した。

大正四年二月六日、常任幹事内田牛一山東守備軍青島軍政署へ勤務を命ぜられ幹事を辭任出向した。其後機關雜誌瑞穂は廢刊せられ、母校校友會雜誌と合併の形式により、學友會報附録として僅かに卷尾に其の名残りを留むるに至つた。

大正五年九月十日學友會報第七號發刊した十月副會長柳川鑑藏氏、熊本縣立球磨農學校長へ轉任教頭佐瀬誼雄氏新に副會長に就任された大正六年五月十一日母校創立十周年記念號を發行した。  
同十二月二十日學友會報第八號發行、

大正七年八月十三日、會長中村由太郎氏、奈良縣立磯城農林學校長に轉任された。

同年九月三日、松澤辰三郎氏會長就任。

同十二月二十日學友會報第九號發行。

大正八年十二月學友會報第十號發行。

大正九年三月十八日同窓會總會の決議に依り長崎農事株式會社(資本金百萬圓)創立を計劃し奔走之れ努めたるも實現の運びに至らず多大の費用を費し徒勞に終つた

同九年十二月二十二日、會長松澤辰三郎氏、病氣の故を以て退職。

同月同日、長崎師範教諭美島近一郎氏母校々長として來任を見た。然るに生徒及卒業生の氣受け面白からず、遂に美島事件を惹起したが五月九日美島校長の依願退職により事件は落着した。

同年五月十八日、原誠人氏新會長として就任。

大正十年五月一日學友會報第十一號發行。

大正十一年一月二十五日學友會報第十二號發行。

大正十二年三月一日學友會報第十三號發行。

新會長原誠人氏は教育方針として専ら卒業生の自家經營を目標とし、就職方面は自然の成行に任ずるの狀態なりしを以て、卒業生の就職進出聊か活潑を缺き、反動として、新卒業生の上級學校進學者著しく増加し、更に實際農業經營者益多きを加へた。

大正十三年七月校友會報發行。

從來校友會は同窓會と合併し共同の雜誌學友會報を發行し來つたが、兩會の性質及立場上種々兩立せざる遺憾の點少なからず、遂に學友會報を解體して同窓會欄を分離し、再び元の校友會報に還した。



仍つて同窓會にては新に月刊瑞穂新聞を發刊し大に會の發展策を講じたが、經營不如意に陥り遂に休刊の止むなきに立到つた。

茲に於て同窓古賀成規氏、之れを引受け大正十四年四月より獨立して長崎農友新聞を發刊することとなり同窓會は大正十三年十二月發行の會員名簿末尾會告の二を以て此の間の事情を發表し、一般會員各位の購讀援助方を依頼した。

即ち同窓會は曩きに百萬圓會社創立計劃以來、新聞經營の終局に至る迄其間多大の努力と費用とを拂つて回天の事業を目論見たが時に非にして利あらず、遂に一切を清算して當分隱忍持久、時機を待つの外なきに立ち到つた。

大正十四年五月十一日 内田牛一、支那青島より歸省、久方振り本會總會に出席、同窓合の實情を檢討するに、驚くべき危態に瀕し、殆んど捨收すべからざる状態にあるを知り甚だこれを遺憾とし、斷乎會長に迫りて放漫なる會計事務の整理と、徹底的内部革新とを要望し、更に入りて常任幹事として會務に參割し之れが陣容立直しに著手した、即ち會費の徵收、町村分會の設置、會報の發刊を企て抜本的機構改善に努めた。

大正十五年一月より内田牛一個人事業として長崎農民新聞を發行し、其の紙面の一部を割き同窓會關係記事掲載間接に同窓會の發展に微力を致した。昭和二年八月の總會に於て母校創立二十周年紀念事業實施の件協議決定昭和三年三月中村麻太、黒田三八氏入りて會務を執るに到つて誠意を盡して努力したので會運大に隆昌を示すに至つた。

昭和四年十二月一日 母校創立二十周年記念並に本館改築記念祝賀會舉行、展覽會、講演會、角力大會、同窓大會等を開催、三日間に亘り空前の盛況を呈し大成功裡に終了した。

昭和五年三月十八日 創立二十周年本館改築竣工記念號發行した。

昭和七年六月 (みづほ)第一號發行。

同 十二月 (みづほ)第二號發行。

昭和八年六月 (みづほ)第三號發行。

同 十二月 (みづほ)第四號發行。

昭和九年七月 (みづほ)第六號發行。

同 十二月 (みづほ)第七號發行。

昭和十年七月 (みづほ)第八號發行。

昭和十年十二月 (みづほ)第九號發行。

昭和十一年七月 (みづほ)第十號發行。

昭和十一年十二月 (みづほ)第十一號發行。

昭和十二年七月 (みづほ)第十二號發行。

昭和十二年十一月 (みづほ)第十三號發行。

昭和十三年七月 (みづほ)第十四號發行。

以上瑞穂の年代譜であるが、瑞穂生ひ立ちの頃を顧れば、今更感慨の切なるものがある。當時經費はなし、雜誌發刊費、通信費や集會費用など、互に持ち合つて、やつと間に合せた位で、無論雜費などに使ふ金は一厘もない。雜誌の編輯や通信發送のときなどは、時の委員(母校在勤の助手諸君)が、晝の疲れた體に鞭ちつゝ夜業をやつたもので、眠いときは農場の井戸端で素ツ裸になつて水かをぶり、惰氣を一掃して又仕事をつけた。



腹がへると、焼芋や灼り豆をかぢりながら夜遅くまで頑張つたものであつた。

それでも毎年七八十頁の相當な雑誌を發刊し、會員の消息や、地方の狀況など、よく明かにして會員全部に配付したので、會員の聯絡協調は非常によくとれてゐた。

今日の如く同窓會經費として、印刷費、通信費、委員の旅費だの發展費だの、又は雜費だの、合計年五百餘圓を消費し、纏つた雑誌一つ發刊せず、得々としてすまされる現代に比較すると、洵に感慨無量隔世の想ひがする。其當時の委員、野副八百右工門、古川稻作、山下和三郎の諸氏並に其後の助手諸君の隠れた努力は、瑞穂建設の礎石として永遠に生命あるもので、瑞穂のある限り忘れてはならぬ偉大な功績者である。瑞穂生ひ立ちの其頃を追憶すると心から當時の委員諸君に感謝の意を捧げずには居られない。

## 歴代會長を語る

### 第一代會長 後藤鐵藏先生

後藤先生は福島縣二本松の出身で、北海道札幌農科大學を卒へて教育界に入り、各地の高等女學校や中學校の博物の講師をして居られたが其後栃木縣農學校に教鞭を執られ、同校教頭から榮轉して、明治四十年九月四日、長崎縣立農學校初代校長として赴任された。

體軀の小柄な、色の白くて上品な、女のように優さしい親しみのある人であつた。そして平常は、中々物を言はぬ無口の方であつた。

けれども一度び口を開けば、美音玲瓏、珠を轉すが如く、澄み切つた音量のある話振りは、妙に人を引き付ける力があつた。資性濃厚、風姿端麗、とでも言うか、又一度壇上に起れば威儀容々、凜乎として

冒すべからざる處があり、而かも博識多才で辯舌の鮮かなること罕に見る雄辯家であつた。

博物學及農政經濟學方面には造詣極めて深く、殊に語學に通じ常に原書を透して新知識を求めて居られた。農業中殊に園藝に趣味を持たれ、就中温室園藝が得意で、蘭花植物の研究に至つては中々堂に入つたものであつた。其當時内地は元より、歐米諸國の本場から、シネラリヤ、シクラメン、チュリップ、ヒヤシンス、などの種苗を取り寄せて愛育された。今日農學校農場にある、煉瓦建片屋根型温室は實に先生愛用の記念室である。其當時農學校の温室といへば、縣下唯一の呼物で、四季を通じ百花爛熳、殊に蘭花植物の咲き誇る頃は清香馥郁として室に満ち充ち恰も天外の樂園たるを思はしむるものがあつた。

又先生は一面非常に健康に注意された人で日曜や暑中休暇などには、當時助手であつた私を必ず引つ張つて、脚絆草鞋に日の丸辨當腰にぶらさげて、近郊の農村めぐりをされた。果樹や蔬菜の名産地、神社佛閣公園から古賀村邊の築庭園それから多良岳、雲仙岳などにも拔跡された。

小兵ではあつたが、中々の健脚家であつた。又劍道の達人で時々生徒相手に汗を流して居られた。酒は飲まず、煙草は吸はず、讀書と、花と、旅行とは、先生の道樂で、到つて品行方正、典型的な教育家であつた。

同窓會の會長として特に先生の遺された業績は、創立當時の指導鞭撻と卒業生の就職斡旋などよく面倒見て居られた事であつた。當昨同窓會員も未だ小數ではあつたが、協力一致、明朗な雰圍氣の裡に同窓會の發展を見て來たことは、後藤會長の徳の然らしむる處であつた。

大正二年九月の未であつた。初め風邪で休んで居られたが、後でチブスと判つた。十月四日急變惡化遂に忽焉として逝かれた。生徒一同卒業生も馳せ付け、慈父を喪つた如く哀惜した。

遺族は夫人と令息二人であつた。夫人は女子大學を出られた才媛であつたが、郷里に引上げられて其後



色々と浮世の浪に苦勞せられたが、晩年は恵まれずして他界せられた。二人の令息は消息杳として解らないが、今頃は早や立派に成人して居られるであらう。

在職六年と二ヶ月、後藤先生の遺された創業當時の功績は永へに長崎縣農業界の礎石となつて記念せらるゝであらう。

### 第二代會長 中村由太郎先生

中村先生、原籍は東京で、北海道札幌農科大學出身、其後畜産學研究のため北米、獨乙等に留學され、歸朝後、文部省に入り、實業學務課長の重職に在られたが、大正二年十一月十七日、長崎縣立農學校第二代校長として諫早に赴任された。

體軀堂々として容貌魁偉筋骨逞き上に便々たる太鼓腹、それに眼光炯々として人を射るが如く、扨手でも開かぬ様な締つた口元は遺憾なく男性的氣魄の豊かなるを示して一見貫録の重きを見はしむる快漢であつた。頭腦明晰、事業家肌の人で、實業學校長としては申分のない敏腕家であつた。

本校著任以來各方面に刷新改善を斷行して著々面目を一新されたが、殊に農場實習には特別力癪を入れられた。即ち實習時間には必ず作業服に身を固め、農場の隅から隅まで巡視して自ら督勵されたので生徒一同頗る緊張した。殊に先生の專攻が畜産學で、ハムの製造加工に至つては日本に於ける第一人者であつた。

以前大日本ハム製造株式會社の技師長として其手腕を揮はれたこともあり、其の學識手腕共に何人も追従を許さざる斯界の權威であつた。元來ハムの製造は中々技術を要するもので、品質優良の物を造るには筆や口に云はれぬ製造上の秘訣、所謂コツがある。これは實際に當らなければ決して解からない。當時私は先生の助手として、ハムの製造に手傳はされ大分厳しく鍛はれたが、實際製品は極めて立派なものを作ら

れた。

同窓會長として特に先生の力を入れられたのは「卒業生をして必ず一定の仕事に着かせて青年時代のブラ／＼生活をやらせない」と云ふにあつた。故に先生の教育は學校より社會への延長であり、學問の實際化にあつた。即ち卒業生の人事調査簿を作つて、個性、技能、境遇、等を詳かにし、就職の口があれば早速手配をして職業紹介の勞をとられた。當時私は同窓會事務を執つて居たので、多數卒業生との文書の往復は殆んど處理を任せられ、殊に手紙の下書きをやらされた。下書きして出すと、文の悪い處は訂正し意の足らざる點は添冊し、すぐ其の場で自分で筆を執つて、椅子にもかけず立つたまゝ、卷紙片手に一氣呵成すらすらと書き下される一通の手紙書くのは五分間が通り相場ですぐ投函された。手紙の返事は即刻主義で、事務の裁決流るゝが如く、中々のさばけ手であつた。

今日卒業生中、最もよく活動してゐるものは、當時先生の推挽によるものが多く、殊に朝鮮臺灣邊では先生の恩顧に預れる者が頗る多く一般に感謝して居る。

日本酒は飲けなかつたが、ビールは相當量強かつた。煙草もやられず、外格別の趣味も持たれなかつたが、頗るの健啖家で普通二人分位は平氣でやられた。中々の料理通で殊に豚料理は天下一品であつた。獨創と劃策との才に富み、且つ實行の人で、事業之れ生命の奮闘家であつた。

大正七年八月十三日、奈良縣立磯城農林學校長に轉せられる迄、在職四年十ヶ月、敢て長きではなかつたが先生の遺された感化と功績は最も偉大なるものがある。

其後奈良縣立農林學校長に在らるゝこと十有八年全國一の名校長實業教育功勞者として破格の表彰を受けられたが其後愛媛縣立越智中學校長に轉ぜられ、更に某高等農林學校長に補せられたが、たま／＼健康勝れず勇退されて、爾來東京郊外吉祥寺の閑靜な地に居を構へられ、靜養して居られた。



過般私は吉祥寺の杜のほとりに先生を訪ねた。當に二十有三年振りの御伺ひである。先生當時は神經痛で靜養して居られたが非常なる喜びを以て迎へられ、ありし昔の物語りに時の移るを知らず興ぜられた。吾々の若い頃よく可愛いがつて頂いた貞淑な令夫人も至つて健在で相變らず心優しく専ら先生の看護に努めて居られる。家庭には令息令嬢の兩方あられたが、先年令息を失はれ今は令嬢と親子三人の平和な日を送つて居られた。私は心から先生の御健在を祈つて歸つた。

其後本年の初め令夫人から先生逝去の報に接した。今更ながら哀悼の情禁じ得ない。洵に名會長であつた。中村先生の功績は私共の忘るゝことの出来ない處である。

### 第三代會長 松澤辰三郎氏

松澤先生は帝大農科を卒へて、早くから教育界に入り、各地農業學校を経て、宮城縣立農學校長となり大正七年九月三日、中村由太郎校長の後任として本校長に任ぜられ、本會第三代會長となられた。

資性温厚、君子の如き人格の士で、典型的な師表であつたが健康勝れず、在職二年三ヶ月、未だ充分手腕を伸ばす能はずして遂に大正九年十一月二十二日、退職された。

其後先生は再び長崎鎮西學院に入つて十有餘年、子弟の訓育に當り令名を馳せられたが、最近勇退して目下東京に在住して居られる。

### 第四代會長 美島近一郎氏

長崎縣師範學校教諭として、多年育英事業に従事し、其學識、手腕、相當世に認められ、美島近一郎氏の名は確かに本縣教育界に於ける特異の存在であつた。

大正九年十一月二十二日、松澤校長、病氣の故を以て退職さるゝや日を同じくして後繼校長に任命された。當に變則的な異數の拔擢である。

抑も農學校は、實際に主きを置く學園であつて、表解や説明で間に合ふ、通り一遍の講習所ではない故に本校に長たるものは、高潔なる人格と、該博なる學識と、加ふるに、自ら土に起つて子弟を卒ゆる實際的體験を有する師表であらねばならぬ。

我が瑞穂建國の理想たる、尊農報國の大精神と、自躬不息の堅き信念とは、同學園傳統の生命であつて未だ嘗て倫らざる長農健兒の矜りである。もし此の精神に相反し、此の矜りに相觸るゝものあらむか、敢然起つて大同團結(吾等の學園を護れ)の舉に出するは又必然の歸趨である。

一世の才人、美島近一郎氏、得意揚々、幾多の抱負と經綸とを携けて新校長の椅子に著かれたが、是非か、生徒卒業生の容るゝ處とならず、大正十年五月五日、在職僅か七ヶ月にして遂に依願退職の止むなきに到つた。

當時を追憶すれば洵に氣の毒の至りであつたが大勢如何とも致し難く遂に行く處まで行つた譯である。

長崎市浦上出身で、長崎師範學校を卒へ教育界に入り、獨學研鑽、中等科教員農科其他の檢定試験を通過して師範學校の教諭たること多年、本縣教育界の古參株であつたが、不計も此の不運に逢はれたことは洵に氣の毒でもあつた。

其後先生は東京にあつて出版界に活動して居られたが最近の消息は杳として詳からない。



## 第五代會長 原 誠人氏

二六

同窓會長として 十有三年十ヶ月の長きに亘りよく會務を統べ、會員二千、其の大半は自分の教へ子であつた原誠人先生は、歴代の會長中、最も關涉深きものであつた。

大正九年の晩春、母校不詳事件の直後、島根縣立農學校長より轉じて、本校に赴任され、あの紛糾雜然たる後始末を引き受けて萬事に善處し、よく校基の確保に努められたことは、先生の大きな仕事であつた。原先生、生れは信州長野の下伊那在であるが、東京帝大農科を出て、すぐ農業教育に従事され、各地を巡つて居られた。世の中がよく解つた常識人であつた。

資性濃厚、至つて眞面目で、勤儉努力、二宮宗の信奉者であり、典型的な農民の父であつた。故に農業精神の發揚と、農業經營獨立自營の主義主張は先生の全教育目標であつた。先生在任中最も大きな業蹟は、學校内容の充實と校舎改築とであつた。

この母校創立二十周年紀念事業のときは再三私の處にも見へられ、色々打とけて同窓會側の支援を萬事よき様に頼むと話されたので、私は先生の熱意にほだされ、自分の仕事は放擲して、先生と共に縣下をかけずり巡り、多くの同志と懇談して充分下準備を整へ、萬事都合よくあの盛大な紀念事業を遂行し得た。そのとき四方から集まつた會員一千餘人で大講堂に溢る空前の成功であつた。

其時先生と一緒に縣下めぐりをやつたとき、雨の降る夜、テク／＼歩いて夜半遅く歸つた事も幾度かあつたが先生少しもいやな顔せず始終、懸命で働かれた事は全く感心の外なかつた。

又或るときは、同窓會の發展策に就て、私と大分言ひ合つた事もあつたが、最後は「要するにすうだ」でいつもまとまりが著いた。要領を得た様な、得ぬ様な、不得要領の裡に要領を得て、事を纏めて行く先

生の手腕は鮮かなもので氣の荒い青年たちの相克磨擦を調和して行くに必要な心のギャブとネバリの油があつた。

同窓會の統制に就ては殊更積極的に自ら乗り出して劃策指導することなく兎角穩當に同窓會一般の大勢に順應して行くといふのが、其方針であつた。

人間味があり圓滿主義の行者で凡ゆる方面に受けがよく、殊に一杯きこしめすと御機嫌針ならず偶々同窓親睦會などに出られるトコトン迄明朗氣分を發揮して家の子郎黨を喜ばせて居られた。

同窓會長任期中十有四年色々の問題もあつたが、終始一貫先生の誠意は會の空氣を和やかに調節して居つた。此點吾々の大に感謝せねばならぬ處である。

昭和十年三月、所謂、功成り名遂げて勇退され、故園の人となられた。

其後私生活に入られた先生は、悠々自適風月を友として餘生を送られ傍ら村の爲めに色々力を盡して居られたが、徳孤ならず、酬は再び其人に還る。今や切なる郷人の興望を負ふて、居村喬木村の村長として非常時農村の振興に努力して居られる。

## 第六代會長 檀上謙爾先生

曩き以前會長原誠人先生の勇退して郷關に歸らるゝや、其後を享け、本會第六代會長として、檀上謙爾先生を迎ふることゝなつた。

先生は廣島縣の出身、帝大農科を出て、其後支那政府の招聘に依り、保定農業學堂の講師を務められ、任期満ちて歸國、長野縣下高井農學校長として令名ありしが昭和十年五月、本校に赴任せられた。

資性濃厚、氣宇濶達、到つて人觸りのよい明朗な新人である。赴任日尙淺く、先生に就て未だ語るべき



多くの印象を持たぬ。

今や本會は創業時代を過ぎて守成の域に入り、殊に創立三十周年を迎へて、茲に一段の飛躍發展を企圖すべきの秋、先生の如き小壯有爲の手腕家を迎へたことは、吾々の意を強うする處である。

吾々は此の國家非常の場合農業界の指導核心をなす、瑞穂同窓會の重大使命を自覺して、遺憾なく業績をあげられんことを望んで熄まない。吾々は今多くを語らず、大なる期待を以て將來に俟つのみである。

## 第二編 人物 評論

はしがき

明治四十年五月十一日、初めて、まだ木の香も新しい雨天體操場で、長崎縣立農學校開校の式をあげ、時の校長事務取扱高崎行一氏（長崎縣教育部長）から懇々と訓辭を聽いて、同僚八十八名が、第一回入學の喜びを俱にしてから、早くも三十年の月日が流れた。

當初の入學志願者は二百五十六名で、内八十八名が入學し、三年螢雪の苦を積んで、卒業したのが五十六名、そして三十年後の今日、健在で行やつ居る者が四十五名である。

學志を飛び出したら最後、二度と再び同一緒に遇へぬ學校時代の學びの友、今は故郷墳墓の地で父業を繼いで居るものもあるが、又朝鮮滿洲臺灣へと、東西に離散して、お互ひにありし昔の追憶と感慨とに耽るのみである。お互に胸に秘められた青春の望、果して成つたか？

一度社會へのスタートを切らば、風波荒き人生の行路に、進むもあり、踴くもあり、泣くもの、笑ふもの、得意の絶頂に扑舞するもの、千差萬別、たゞ神のみが知る人の運命が、時の刻みに従つて、はつきりと浮び出されるのである。

然らば同窓の誰彼今はた如何して居るか？名簿をくつて、最近の消息を探つて見やう。



## 第一回卒業生

(明治四十三年) 五六名

◎井原嘉平次君 多良岳の麓諫早上平田の出身。學生時代から眞面目な律義者、學校を出るとすぐ朝鮮に飛び出し、定州邊で農會に入り、長らく平安北道廳技手として令名を馳せた。溫良恭謙、事に當つて勤勉眞摯漸次地方民の信用を得て今や郭山農業倉庫長として重要な地位に在り産業開發の第一線に活躍してゐる。

◎今村徹一君 長らく教育界に在り、溫厚篤實な先生として令名ありしが、先年勇退して郷里千綿村役場に入り村政に力を盡してゐる。

明助潤達、中々の元氣者で、村の世話方萬事を引き受けよく奔走してゐる。村の柱石である。

◎今村成規君 學生時代から頭腦明晰豪放磊落、至つて快潤な男であつた。學校を出ると、小學校の先生をやつたり、縣農會の技手などを勤めたが、持つて生れた事業慾はじつとして居

三〇

れず遂に業界へと轉向した。大正十一年頃經濟界好況の波に乗つて資本金百萬圓の長崎産業株式會社を目論見んたが、時に非にして物にならず、更に長崎農友新聞を起して農村開發に椽大の筆を揮ふたが算盤にのらず、半歳にして打ち廢めた。其後又再び同志を叫合、長崎青果株式會社を創立し、自ら専務となつて、回天の事業に、畢生の敏腕を振つたが、偶々岳父を失つて波佐見に引上げ、今は米穀肥料や雜貨など取扱つて傍ら村治にも力を盡してゐる。一時長崎縣農界の惑星として、鮮かな存在を認められた快男子、其後鳴かず飛ばす十年だが、今に何かやり出すだろう。線の太い男だ。

◎羽淵福之助君 學生時代より學術優等品行方正の模範生、卒業後更に帝大實科に入り獸醫學を修めて陸軍獸醫官となり、各地師團を経て今某地に在り、累進して二等獸醫正として光つてゐる。最も順調に進んだ出世組の一人である。

◎馬場俊一君 學校卒業後朝鮮木浦福田農場に

入り拮据經營漸次信任を得、支配人として十有餘年活躍したが、故あつて同場を飛び出し其後杳として消息を斷つてゐた。最近大連に在つて再舉を計つてゐる。

◎西岡滋樹君 農學を修めて農業に縁がなく轉向して電氣の世界へ發進した。初め熊本電氣鐵道會社に入り、後關西地方の電業會社を経て現在長崎三菱電機製作所に勤務してゐる。緻密な頭腦、怜愍な性格、研鑽倦まざる多年の努力が君をして今日あらしめた。

◎西本伊一郎君 最初郷里の瀬戸で果樹園や養鶏などやつたが、後朝鮮に發展し、大邱方面で廣大な農場經營をやつた、好事魔多し、大正十一年頃の朝鮮大風水害に遇つて大打撃をうけ一時内地に引上げた。けれども複雑な内地の生活が窮屈でならず、大陸的な朝鮮の空が戀しくて再び渡鮮して官界に入り今は群山府外の沃溝郡廳勸業課長として活躍してゐる。郡山方面では頗る評判がよい。

◎小野祐太郎君 長らく小學校に奉職し溫良な先生として名をなしたが、不圖した怪我で眼部を傷め、それが原因で今では殆んど人生の光明を失つた境遇にある洵に同情に堪へない。

◎大浦數一君 學校を出ると郷里の沼津や初山邊で農會技手を務めたが、其後臺灣に飛躍し、總督府米穀検査所に入り、高雄臺中臺北屏東地方を歴任して拮据精勵二十幾年、今は臺灣有数の米の主産地宜蘭米穀検査出張所長として重きをなしてゐる。資性溫厚、誠實勤勉、又一面、人間味豊かで時によく飲みよく談ず。明朗快活常に人生の春に若やいてゐる。令息は帝大法科に在り、家庭的にも恵まれた御仁だ。

◎岡野 彌君 快男子岡野君の名は學生間によく知られてゐた。學校を出ると朝鮮孟山蠶業講習所教師を勤め、其後支那山東鐵道部に入り、大に敏腕を揮つたが、山東還付と同時に故郷島原に歸省して、今は町のために力を盡してゐる資性廉潔にして溫雅、男の中の男だ。

三一



◎尾崎市藏君 學校時代から學識手腕、斷然儕輩を抜いた級友の盟主格であつた。初め朝鮮定州邊の金融組合に入り、更に京城工業所に勤めたが後警察界に轉向し、各地を歴任して警部たり、よく朝鮮警備の任を完うした。今は功成り名遂げて、釜山に新邸宅を構へ、悠々自適の生活を送つてゐる。多年社會のあらゆる方面を経て来ただけに性行全く洗練されて、温乎たる容貌、よく人を容るゝの徳を有し、而も一片稜々の氣概あり、よく内鮮融和に努めてゐる。令息又同じく母校を卒へて膝下に在り、慶尙南道廳に勤めてゐる。多幸な一家だ。

◎大久保哲老君 資性温良貞靜にして又頗る氣概あり、精勵恪勤、よく農村の實情に通じてゐる。長らく東彼郡農會に在つたが後折尾瀬農會に入り、十年一日の如く努力してきた。曩きに優秀技術員として、縣や帝國農會あたりから表彰せられた事もあり眞に敬すべき農村の柱石だ。最近産業組合長として活動してゐる。

◎神田豊次郎君 體軀堂々大兵肥滿の快男子、初め壹岐郡農會に勤めたが、後縣外に發展して愛媛縣西宇和島郡農會に轉じ、各地を歴任して今兵庫縣穀物検査所辻川支所長として光つてゐる。福德圓滿の好人物だ。

◎柿田濱市君 學生時代から無口で實直、學校を出ると、自營に没頭し園藝に精進した。先年村の懇望もだしかたく、今は西浦上農會を背負つて立つてゐる。家は代々此の村の有志格だ。

◎吉谷 茂君 陸軍二等獸醫正某軍所屬として重要な椅子にある。時の人だ。學校時代から頭腦明晰、學術優秀の逸材、盛岡高等農林を首席で出て、陸軍獸醫官たり、各地師團附や陸軍大學の教官など勤め、今日に到つた。才氣喚發、機略縱横、膽亦剛、中々の敏腕家で、尙多くの將來を有つてゐる。蓋し諫早農學が生める鐵中の錚々たるもの、出世頭の隨一である。

◎吉賀力太君 學校を出て一時北高郡農會に入り採種圃に勤めたが、其後北松邊の農會に勤務

最近では生月にて實業に従事してゐる。雌伏十年孤島より再起して業界に幾何の浪を揚げ得るかどうか。

◎田中 覺君 最近消息を詳にしない。天草地方で教育に専念してゐると聞くが健在かどうか？

◎立石秀一君 學生時代から才氣喚發の男、軍隊生活を卒へて歸郷農業經營に努めたが後實業に轉向、最近では福岡地方に在つて何にか事業に奔走してゐるらしいが、詳細は不明。

◎辻丸正淳君 農學を出て更に東都に遊學し、農業大學を卒業して歸郷、専ら家政に當つて居る一時健康を損ひ靜養中であつたが、最近全く回復して靜かに想も練つてゐる。熱烈な愛國主義の信者で、又農村問題の研究家だ。温良恭謙なる紳士として郷間に重きをなしてゐる。

◎塚島亦三君 島原財閥の寵兒、學校を出ると長崎で酒の卸商を經營したが數年にして店をたゞんで他に轉向した。最近の消息不明。

◎中島國雄君 朝鮮鐵道に入り拮据精勵二十幾年累進して、釜山驛助役たり、大に敏腕を揮つたが、今は勇退して釜山の閑靜地に新邸を構へ悠々自適靜安の日を送つてゐる。學校時代から中々の快男子で、堂々悍馬に跨り砂塵をあげて通學して居つた當年の意氣は、今や全く老熟して從容迫らざる長者の風格をなして居る。動中靜を得て朗々吟懷をやる尺八の妙技は正に天下一品、風流を嗜んで世を渡る君も又人間味豊かな大悟徹底した男だ。

◎中路 章君 最初長崎縣耕地課に勤め、後朝鮮に發展し鐵嶺地方水利組合に入つた。最近では東拓木浦支店に勤務してゐる。謹嚴な紳士である。

◎中島百喜君 一時海外貿易に従事し、南洋邊に雄飛したが、家事の都合で歸省、現在は島原に在つて製絲會社に勤めてゐる。温厚篤實、中々の勤勉家で内外の信賴を博してゐる。

◎内田牛一 學校を出てすぐ小栗小學校代用教



員となり、次いで母校助手を勤め大正四年の春支那山東省青島守備軍附屬農場主任として赴任大正六年陸軍技手任命、青島軍政署農事試驗場勤務、此間中部支那一帯の農業を踏査し、守備軍食糧品の現地需給を建言す。大正八年職を辭し軍經理部の指令により軍需食糧品の製造加工に従事、陸海軍へ納入す。偶々大正十年山東還付に伴ふ、守備軍の撤退により、事業を中止して故郷に歸る。大正十三年、朝鮮、滿洲、中支方面を視察し再び海外渡航を企てたが、家事の事情で志ならず、大正十五年一月、長崎農民新聞を起し、農業鼓吹に努む。經營七ヶ年、漸く事成らんとするに及び健康を損ひ爾來三ヶ年を病床に呻吟す。大正十年三月、漸く死線を突破して再び人生の春に遇ふ。爾來百姓道に精進し自給自足して體を養ふ。大正十一年の春より、長崎縣下の農村めぐりを企て、大正十二年春より朝鮮、滿洲、臺灣、九州、關西、關東を巡遊し、世間學をなす。大正十三年春著述に没頭今

日に至る。唯我獨尊を信條とし獨り超然、茶臼山城趾の一角に隠れて、晴に耕し雨に書く。白雲悠悠、自由自適の生活こそ内田昨今の眞の姿である。

◎野口重右工門君 北松教育界の元老、否名物男である。平戸島南端志々岐青年學校教諭として精進してゐる。其性格行藏に著しく現代離れのした處があり、飲めば磊落、醒むれば剛直、話せば中々味のあることを言ふ。風丰仙客の如し。又特異な人材である。

◎鍛塚哲太郎君 學校を出て教育界に入り、師範專攻科を出で、今、眞津山小學校の首席訓導である。溫手たる風姿、實直なる性行、好個世の師表である。校長候補の一人として將來を期待されてゐる。

◎山口彦三君 深海村助役として農村振興の第一線に起ち十年一日の如く精勵してゐる。眞面目で穩健で、堅實無比なところに村民の信頼がある。未來の村長であらう。

◎眞崎 猛君 最初農會技手として起つたが健康を損つて辭め、大靈道に歸依して健康をとり戻し、其れが動機で大靈道道場を開いて普及に努めた。其後滿洲に走り、劃策大に勉めたが、

今度の事變で皇軍に従ひ通譯として北支の戦線を馳けずり廻つてゐる。溫和な蟠りのない名刺に淡々たる風格の士、一面又氣骨の稜々たる處がある。何かやるであらう。

◎古川恒次君 最初蠶業方面に志し、蠶業技手として活動したが、其後朝鮮に發展、黃海道技手として、二十有餘年を半島蠶業開發のために盡した。最近では官界を勇退して、沙里院に居を構へ自適の生活を送つてゐる。朝鮮新聞沙里院支局長として操觚界にも活躍し、又地方の有志として公共のために盡力してゐる。よく談じよく飲む。性極めて溫良、愉快な男だ。

◎深見康信君 壹岐郡教育界の元老で、那賀青年學校教諭としておさまつてゐる。學生時代より已に一家の風をなした教育家肌の人、卒業後

北松郡下の青年教育に従事すること十有餘年、其れに貢獻する處があつた。資性溫厚、常識圓滿。識見手腕共に非凡のところがある。現代罕れに見る儀表である。

◎古川菊馬君 無口で溫順で頭腦明晰哲學者肌の秀才、初め長田村役場に勤め長らく村治にたつさわつたが、今は自營に没頭してゐる。善良なる模範農である。

◎藤田久一君 體軀堂々豪放磊落な荒武者だ。軍隊に志願して砲兵中尉に昇進した。歸郷して南高邊の農會に勤めたがあまりやり過ぎて職を辭めた。其後自村の役場に入て農村指導に當つたが、村會議員に押されてこれも辭めた。今は東彼聯合澱粉製造工場の支配人として専心努力して居る。よく談じよく飲む。時々は大砲のやうな皮肉彈を飛ばして敵の心膽を寒からしむる痛快な男だ。

◎小玉猿三君 最初の振り出しは森山小學校の先生、それから警察界に轉向し、巡査より出世



して縣下各地を歴任し、遂に長崎縣警視佐世保警察署長の重職に著いた。資性温厚篤實、頗る同情の念に富み、清廉潔白、自を持するに嚴である。度量もあれば膽力もあり、半面又情味豊かな文藻がある。急かす焦らず、兀々として二十幾年、只だ一筋に、熱とねばりで、精進して来た處に君の偉さがある。蓋し瑞穂が生める鐵中鏘々たる一偉材である。

◎江頭辰雄君 上田蠶絲専門學校を卒業して教育界に入り山口縣村山農學校、青森縣農學校、愛媛縣立松山農業學校を経て本縣農學校教諭に赴任、今日に到つた。資性温厚、篤學の士である。

◎七種歳一郎君 自家經營に精進し、殊に畜産に熱心で、有畜農業の合理化普及に努めてゐる。村内での篤農家として知られてゐる。

◎佐藤嘉久壽君 卒業後臺灣に航し、總督府糖業試験場に入り、爾來二十幾年終始一貫、糖業開發のため献身的に努力してゐる。質實剛健、清廉潔白、職務に對しては魂の凡てを捧げて奮

資性温良、博學宏才、識見手腕共に備はり、風姿端然として春風面を吹くの感がある。徳分の厚き先生である。

◎壽柳茂君 好漢壽柳の名は學生間によく親しまれたものであつた、學校を卒へて陸軍に入り輜重兵中尉となる。其後北高郡農會に入り、活躍大に努めたが、偶々母校三島事件に捲き込まれ、御蔭で職を棒に振つた。其後青年學校に入つて農村青年の指導に努めたが、當時青年男女の血を湧かした希望社に共鳴し、つひに東京に上つた。そして得意の辨論と文筆とで全國を廻り大に腕の冴を見せた。偶々希望社が法規に觸れて解散の憂目にあうや、君は獨立して歡喜社を創立、今、東京初臺明治神宮のほとりに居を構へ、一家族をあげて、神の使徒として、人を助け世を救ふの道に精進してゐる。話術の大家で、淳々乎として説く處洵に精練されたもの、朝に祈禱し夕に思索し人生の苦惱と、歡喜とを體得して、勇敢に神の道へと進みつゝある思想界

闘してゐる。かつて日獨戰に青島の花と散つた壯烈佐藤少佐の令弟だけに凛乎、犯し難き武人の佛がある。今や糖業試験場では、なくてはならぬ活字引として、農場總監督の重任に當つてゐる。稀れに見る人格の士だ。

◎木下佐吉君 長崎縣農産課農林技手として令名がある。若い頃、江ノ浦小學校農科教員を振出しに北高郡農會を経て、縣農林課に入り、穀物検査實施と共に佐世保出張所長となり次いで本所に轉じて今日に到つた。孜々營々、堅實無比の精勤家である。

◎三原福重君 一時農産物の海外貿易に従事したが中途で廢めた。後長崎農友新聞社に入つて大に勉めたが廢刊と同時に退き、今は長崎市役所に職を奉じて海運交通取締の任に當つてゐる眞面目で實直な努力家である。

◎宮川龍也君 東京農業大學を出て朝鮮に發展し農業教育界に入つた。爾來廿幾年、各地を歴任して現在平安北道寧邊農業學校教頭である。

の戦士輝峰道人の姿こそ敬虔そのものである。

◎白川堅重君 佐世保郊外日字に在つて、平和な田園生活を送りつゝあつたが、大佐世保發展に伴ふ地區改正から、農地の大半を失ひ佐世保市内に轉居、實業に従事してゐる。

◎森永正雄君 青年學校教員養成所を卒へて西浦上青年學校に勤め爾來十有幾年一日の如く精勵し功績顯著、遂に奏任待遇の榮冠を贏ち得た蓋し異數である。資性温厚篤實の士で又處世の機微も中々に辨へてゐる。其後北松皆瀬青年學校を経て、東彼大村青年學校長として光つてゐる。

◎諸岡政一君 本縣立農事試験場練習生として實地に腕を鍛ひ、各地の農會を歴任して、長崎中川園藝分場長を勤め、其後轉じて西彼郡農會に入り敏腕を揮つた其後間もなく東彼郡農會技師として榮轉今日に到つた。頭腦明晰、博學多才、果樹園藝にかけては斯界の權威とされてゐる。霸氣あり、識見あり、談論風發、意氣中々



當るべからざるものがある。直情徑行敢て人に下らざるも、又人情豊かでよく後進のため勞を吝まざるの美德を有する。本縣農界の重鎮である。

◎諸岡要忍君 鴨綠江畔安東縣の法華寺住職要忍師が、我が諫早農學の出身だとは唯れも知るまい。農業界から宗教界に轉向したのも家庭的に人生の無情を感じたからだといふ。今は斷然俗界を去つて、日蓮宗門の教法に歸依し經文三昧に三十年の精進を續けてゐる。法衣の襟を正しつゝ端然として苦き日の憶ひ出でを語る、道師の眼には熱き泪が光つてゐる。矢張り人の子である。師は日宗大學院の出身である。

◎森本治平君 長らく消息不明であつたが、現在朝鮮釜山で醬油醸造業を営み、傍ら養鶏業に精出してゐる。初め木浦福田農場支配人として活動したが、其後獨立して今日に到つた。苦勞人だけに世間が中々よく解かつてゐる。今や老熟して些の圭角なく、温乎たる風年は人をして春

風に座するの思ひあらしむる。敏活なる手腕と不斷の努力とは、必ずや釜山實業界に飛躍を見せるものと期待されてゐる。

## 第二回卒業生

(明治四十四年) 四八名

◎井添磯右工門君 東彼下波佐見村の豪農、農會副會長や村會議員を務め、専ら村の發展に盡してゐる。長らく小學校に奉職したが勇退後は自ら農園に起ちて範を示して居る、寡慾活淡郷人に厚く德行稀に見る温良な紳士である。

◎井上守夫君 本縣農事試驗場を経て北松郡試驗場長となり、後佐世保市農會に入り、爾來勤続二十余年、累進して勸業課技師となつた。如才のない常識人で、手腕力量共に備つてゐる。最も堅實に世を渡つて來た惻巧者だ、己に佐世保では相當な地盤を作つてゐる。

◎入江武夫君 學生時代から豪放磊落、荒削り

の人間だが、性格は到つて堅實である。若い頃滿洲や臺灣に發展したが、家庭の事情で引き戻された。後南高神代村農會に入り、修業して更に南高郡農會に轉じ、今日に到つた。公職の傍、鶏養を研究し、自ら範を示し成績頗る良好である。感心な男だ。

◎岩崎政雄君 最初臺灣桃園地方の農會に勤めたが其後朝鮮に渡つて活動した。最近は再び臺灣に來たつて屏東農學校に奉職してゐる。健康勝れず動作の不自由勝ちなのは、洵に氣の毒だが、温かで物資の豊かな、南國は君にとつては最も住みよき天國だろ。

◎陣内與三君 農業大學耕地整理講習科を出て長崎縣耕地課に入り、後愛知縣に轉じ、更に農林省技手として本省に勤務した。其後官界を辭して日本勸業銀行に入り、土地鑑定役を勤めて今日に到つた。年中各縣出張に追はれ、日本國中を東奔西走席温まる違なしと言つてゐる。

◎緒方菊馬君 北高深海村の精農家特に養鶏養

蠶に熱心である。温厚篤實、村民の信望厚く、村會議員として村の發展に貢献してゐる。

◎脇川安三郎君(舊姓吉井) 北松中野小學校教員を振出しに教育界に入り、其後佐世保海軍工廠に奉職、教育部方面を擔任して今日に到る、資性温厚、眞面目な人格者である。

◎神崎農次君 諫早町新橋通りに在つて農産物商を經營してゐる。初め堂崎産業組合に入りて實務に當り其後上海に航し、更に南洋に發展し著々地歩を開拓したが、病氣のため歸國した。其後西彼方面で農會に勤めたが、程なく辭して獨立經營今日に到つた。地味で實直で掛引がなく、誠實一片の遣り方だから益々信用を博してゐる。

◎松尾寛太君(舊姓川副) 東京報知新聞社庶務課長として光つてゐる。最初學校を出ると眞津山西彼松島邊りの小學校に勤めたがうだつが上らぬので見切りをつけて、大阪に走り簿記學校に入つた。それから大牟田の某會社に勤めたが



數年にして辭めて上京、大隅伯邸に寄偶し、其の推挽を得て報知に入り、現在の地位をかち得た。東京丸ノ内報知社の三層樓上に頭張つて如才なく激務も裁斷して行くあたり、全く偉いものだ。

◎吉原宗右工門君 北松皆瀬村の篤農家學校を出ると、一時紐差邊の小學校に勤めたが、辭めて自家經營に移り、傍ら農會長をやつたり穀物検査員をしたり、農村開發の第一線に起つてゐる。磊落で頑丈な男、相當飲める適れ堂々たる農界の戦士だ。

◎高森十郎君 不詳

◎高原秀典君 神代村農會副會長を勤め、産業開發に努力してゐる。俊敏にして經濟的手腕に長けてゐる、と噂されてゐる。

◎竹下政男君舊姓(宮崎) 長らく小學校に勤めたが、今は勇退して、加津佐町會議員や、産業組合の理事などやつて、地方開發に努めてゐる、町内屈指の資産家で、理財方面には、

特種の眼識がある。濃厚篤實極めて人觸りのよい人物である。

◎内田米太郎君(舊姓山川) 學校時代神童を以てうたわれた秀才、學校を出ると南有馬農會技手となり勉勵大に努めたが甲斐あつて、内田家に迎へられた。後、縣立口加高等女學校に勤め十有余年一日の如く勤続してゐる。穎悟總明。識見抱負又豊かな人材だ。

◎野副八百衛門君 學校を出ると母校助手として農場に留まつた。それから江ノ浦、湯江、等の農會を経て、長崎縣農會に入り、販賣斡旋事業方面に敏腕を揮つた、その後、青森縣物産下ノ關販賣斡旋所主任として轉じ、大に業績をあげたが、同所の閉鎖と共に其地盤を引受け、下ノ關唐戸通りに青果問屋野副商店を開業、青森、朝鮮方面の苹果を取扱つて手廣く商戦を張つてゐる縦横の奇才、敏活な手腕、よく、關門の青果界に活躍し既に巨萬の財を作つてゐると噂されてゐる

◎野中清太君 振出しは南高三會小學校教員で

次いで西彼松島校に轉じた。其後志を立て、南洋に航したが、健康に適せず、歸國して上京、東京農業大學に入った。同校も卒へて更に、帝大耕地整理講習所に入り修業するや熊本縣耕地課に奉職した、爾來、大分、福岡、佐賀、愛媛等の各地を歴任し、今奈良縣耕地課技師として重用の地位にある、活氣縱横、男性的で、明快な敏腕家だ、順調に進んだ出色の材幹である。

◎久保要助君 優等で諫早農學を出で鹿兒島高等農林に入り、卒業後北高來郡農會に勤めた。其後東京西ヶ原農事試験場に入り化學肥料を研究し、次いで大日本人造肥料岡山工場に入社したが更に轉じて愛知縣農務課技師として精勤今日に到つた、頭腦明晰、識見高邁、溫雅な風采は人をして親しましむるの徳がある。名古屋市郊外に洒瀟たる文化住宅を新築し極めて平和な日を送つてゐる。

◎萬野徳治君 農商務省九州支場に入つて植物病理や害虫方面を研究し卒へて、門司税關植物

検査所に奉職した。眉目秀麗の好男子金筋卷いた制服姿の颯爽とした青年検査官は、出船入船毎に多くの旅人の目を引いたものだ。かくて華かな官吏生活も、家事の事情で切り上げ今は郷里雪ノ浦にあつて自家經營に没頭し尙消防隊長や、産業組合長として活動してゐる。

◎八木猪熊君(舊姓橋口) 兵庫縣龍野町福ノ神在任だが、最近の消息不詳。

◎松尾魁人君 最初西彼時津村農會技手を勤めたが辭めて南洋に飛躍し新嘉坡日新ゴム會社に入り、ゴム園の監督をやつた。其後香港橫瀾洋行に入り貿易に従事し、次いで大日本鹽業會社青島支店長として大に敏腕を揮つた、偶々今次の事變で青島を引上げ東京本社詰めとなつたが最近關東州三十里堡支店長として赴任した風采堂々たる快漢活氣縱横、明朗潤達、人に接して對應流るゝが如く中々の談論家である。資源豊富な關東州の鹽化工業は、滿洲北支の開發と共に、益重要性を帯びて來た。君の仕事はこれ



からだ資本金一千万圓の日鹽重役に漕ぎ付けるのも、敢て遠きではあるまいと見られてゐる。

◎松田郡四郎君 初め郷里世知原小學校に勤務したが、後農會に入り専ら農村振興に努力してゐる。代々地方での名望家で、畜産には特殊の知識があり眞面目な農村指導者である。

◎松島寅男君 學校を出て母校助手を勤め、更に九州支場に入つて病害蟲方面を研究し、卒へて、長崎縣農林課技手として奉職した。後病を得て退職したが全快後は、西有家農會に入り精勤今日に到つた、天心爛熳些の耶心なく、誠實其ものゝやうな人物だ、專賣特許の考案に熱心で、色々の發明をしてゐるがあまりものにならぬ。愉快な男である。

◎古川稻作君(舊姓中倉) 首席で學校を出で、其まゝ母校助手として踏み止まつた。其後江迎小學校農科教員を暫くやつたが、臺灣に雄飛し宜蘭農會に入つた、其後新竹州廳勸業課技手に拔擢され大に活躍しが家庭の事情で呼ひ戻され

歸國後北松柚木補習校に教鞭をとり、更に佐々口石、今福、等を経て、今では五島の岐宿青年學校長として收まつてゐる。頭腦明晰殊に識見高邁で俗流を抜いてゐる手腕力量あり氣骨稜々たる剛直の士である。

◎古川甚之助君 一時北松大野村農會技手を勤め、其後上京して實業につき奮闘努力數年にして確固たる地盤をつくつた。偶々震災に逢つて郷里に引上げた。それから諫早に在つて自動車運送業や其他色々事業をやつたりして相當活躍してゐる。

◎古賀覺一君 長崎縣耕地整理課に勤めたのが人生への振出しであつた其後辭めて北諫早村役場に入り、次いで父業を繼いで土木請負業に従つた其後暫く朝鮮に在つて活躍したが、歸郷して諫早町會議員となり、氣骨稜々、雄辯縱横、小壯有爲の闘士として名をなしてゐる。又傍ら新聞を經營し自ら第一線に立つて椽大の筆を揮ひ郷土開發の爲めに努力してゐる。

◎江島惣太郎君 朝鮮水原勸業模範場で長年腕を鍛つて、全羅南道光州種苗場技手となり、後官界を辭して、江原道鐵原、成業社農場主任として實業界に入つた。拮据經營大に業績をあげ認められて、京城殖産銀行土地鑑定役に引き上げられ重要な椅子に就いた。最近裡里支店に榮轉した。性温良極めて常識に長け、度量あり、膽力あり、明快に事を處斷する手腕は鮮かなものだ、既に廣大な土地を手に入れて確固たる基礎を作つてゐる。朝鮮に於ける成功者の隨一である。

◎荒木辰雄君 千葉高等園藝學校卒業、長崎縣立農事試験場技手を経て、農學校教諭たり、母校後進のため、十有余年熱心に教鞭を執つたが病のため辭して悠々自適してゐる。性極めて温厚恭謙入格の士である。

◎木下勝馬君 長田村役場在勤十年一日の如く村治に精出してゐる。村の有力者で中々信望がある。

◎宮田純一君 不詳。

◎溝越忠太君 千葉高等園藝學校出身、香川縣小豆郡農會技手を経て、長野縣南佐久家政女學校教諭に轉じた。温厚な先生である。

◎三田村鎮雄君 早稻田大學商科を出て松島炭坑會社に入り、後對島で實業に従事した。最近は東京帝國大學飛機研究所に勤務してゐる。

◎廣瀬良一君 岡山縣赤盤郡眞壁村六六園に入つて果樹園藝を研究し、歸郷して暫く神浦村役場に勤務したが、志を立て宮崎縣兒湯郡新田村に廣漠たる原野を開墾し果樹園を開いた。經營多年漸く結果するに到つたが、家庭の事情で、郷里神浦に歸つた。今は自家經營に死頭し傍ら村の爲めに働いてゐる。温厚篤實、人格の士である。

◎百技亘君 北松鹿町村の資産家、幼にして父に別れ早くから家計を治めた。卒業後役場收入役として精勤。弟妹の教育に全力を盡した。佐世保百技病院長醫學博士百技茂氏は、君が令弟に當る。最近は公職を辭し専ら自營に精出してゐる。



◎森清九郎君 北高古賀村の地主で、殊に廣大

な山林を有つてゐる。北高屈指の山林家である。早くから戸主としてよく一家を治め柑橘や植木の栽培に精出してゐる。資性濃厚些の蟠りがなく、淡々たる風格、春風に面するが如く、郷村では絶大の信望を得てゐる。長年村會議員として農村振興のため努力してゐる。眞の農村の中心である。

◎須山八百三君 帝國大學農學實科を出で、北海道廳林務課技手となり、轉じて室蘭營林區署に入つた。爾來精勤二十有余年、遂に累進して津別營林區署長の重責についた。今、北海廳技師として時めいてゐる。優雅にして應揚、歩一步氣強く人生の長途を辿つて來た處に、君の生命がある大器晩成遂に出來かした。異彩ある國家有用の材幹である。

### 第三回卒業生

學校教諭として精勤して居る。濃厚篤實學究肌の人で、眞面目な先生である。

◎陣野儀一郎君 北高森山の人、卒業後間もなく臺灣斗六帝國製糖農場に入り、次いで豊原農場に移り大に勉勵したが、病氣のため歸國して自營、昨今は養鶏に熱心し奮闘してゐる。眞面目に黙々としてよく働く人物である。

◎太田 博君 南高加津佐町、黒岩商店主として材木商を經營してゐる。以前は、加津佐小學校に教鞭を執つたが、辭めて父業を繼いで今日に到つた。淡泊な男、お世辭がないので、前受けはせぬが遣り口は健實である。

◎神崎三次郎君 學校卒業後新嘉坡ジャホールに渡航したが、健康に適せず、歸郷して郷里の有喜郵便局に入つた。其後朝鮮に發展してゐるが詳細は不明。

◎浦原政雄君(舊姓宮崎) 最初北高來郡農會に勤め、後辭して、滿鐵撫順炭坑に入つた。爾來精勵十余年、大に手腕を認められ重席に就たが、

(明治四十五年) 四二一名

◎井田健爾君 北高戸石の素封家、軍隊生活を了へて同村の小學校に教鞭を執つたが辭めて役場に入り、十有余年一日の如く、村治に精勵して居る。剛放磊落、明達な快男子で相撲道の熱心家である。戸石の親分を通つてゐる。

◎原田利平次君 南高千々石、舞子邊の小學校に勤め、次いで北高戸石、江ノ浦、等を轉々し今有喜小學校に奉職中である。

◎西岡 涉君 一時長田小學校に教鞭を執つたが辭めて、神戸ヒシカ園藝場に入つた。其後、奈良南大安寺の武野園藝場や、大阪天王寺和樂園などで、園藝の研究を續け今では、兵庫縣精道村に在つて、園藝の指導に努めてゐる。人物は極めて温順である。

◎泊本三郎君 東彼、彼杵村農會技手を振出しに、北松浦郡技手に任じ、更に佐賀縣多久の農會に轉じた。其後教育界に入つて北松佐々青年校に勤め、生月村山田青年學校を経て大島青年

計らずも病を得辭して内地に歸還別府に靜養した。かくて三年にして死線は突破したが、足部の固疾はつひに癒えず、自由を失つた。元來天資文筆に長け、殊に書道は一家の風をなしてゐる。再び渡滿して旅順民政署農會に入り、事務方面を擔任してゐる。子息悉く秀才である。其の將來を楽しみに、不自由な身に韃ちつゝ努力してゐる。感心なものである。

◎立石義雄君 西彼大串小學校農科教員として教壇に起つたが、後辭して、郷里の田河村農會に入つた。其後彼杵村農會、佐賀縣下農會を経て、再び郷里田河村農會に歸り更に北松紐差村農會にある。手腕力量共に認められてゐる。本縣農會技術員界の元老である。

◎高木政嘉君 南高北有馬町の資産家、卒業後酒造業を營み、芳醇なる清酒を醸造してゐる。最近は高木合名會社として益々事業を擴張してゐる。尙町會議員として町政にも關與し、地方關發に努力してゐる。濃厚篤實、度量あり、識



見あり、人物はしつかりしてゐる業界の闘士だ  
 ◎中富米市君 西彼瀬戸町にあつて自家経営に  
 精出したが、最近郷里の農會に入つて産業開  
 發に邁進してゐる。極めて眞面目で至誠一貫大  
 の努力家である。

◎永ノ尾春雨君 朝鮮京城植物園に入つて園藝  
 部に勤めたが、其後歸國して南高郡役所書記を  
 勤め、次いで大正村農會に轉じた。其後、農會  
 を辭し、兵庫縣に移住し、専ら美術調刻に獨特  
 の妙技を揮つてゐる。口八丁手八丁極めて器用  
 な男で明朗快濶な藝術家である。現左熊本縣人  
 吉下青井町珍竹林の假寓にある。

◎中古賀正之君 初め東彼千綿村農會技手とし  
 て農村指導に當つたが、後轉向して、長田小學  
 校に教鞭をとつた。爾來、小長井遠竹、を歴任  
 し、森山村鳥島小學校に勤務してゐる、溫良恭  
 謙經濟的知識に長け、理財の達人とされてゐる

◎内田重郎君 初め諫早倉庫會社に入り後諫早  
 村役場に勤めたが其後諫早商人銀行を経て諫早

銀行に入つた。十年一日の如く精勤してたが最  
 近辭めて悠々自適してゐる。頭腦緻密で溫厚極  
 めて堅實な人物である。

◎野田新八君 西彼日見郵便局長として、終始  
 一貫努力してゐる。又村會議員として、地方開  
 發のため盡力してゐる。溫厚篤實で郷人の信望  
 極めて厚い。清廉の士だ。

◎飯塚喜久治君 愛知縣農事試驗場技師として  
 重要な地位を占めてゐる。學校時代から己に秀  
 才を以て聞へ優等を以て鹿兒島高等農林を卒業  
 し、次いで 帝大農科植物病理研究室に入つて  
 病理學の奥蘊を極めた。それより静岡縣立農事  
 試驗場技師として敏腕を振ひ、更に愛知縣に榮  
 轉し今日に至つた。資性溫厚、博學多才、加ふ  
 るに高潔なる人格者で、本邦病理學界の權威と  
 して斷然光つてゐる。幾度か御前講演の榮に浴  
 した篤學の士である。

◎山口禎次郎君 初め北松世知原開校の農科  
 教員を勤め、次いで中野、星鹿等の補習校に

轉じた。其後教鞭を捨て、實業に志し、福岡縣  
 粕屋郡仲原村御所ノ陣に山禎養鶏場を開き、養  
 鶏業に努力したが、家事の都合で歸郷、小野村  
 で自營中である。

◎山崎逸夫君 最初の振出しは北松佐々小學校  
 農科教員、次いで軍隊に入り、歸郷して、北有  
 馬農會技手となり、轉じて、西彼郡農會に入つ  
 た。其後長崎縣農林課に勤務、更に對島支廳に  
 も駐在したが、佐世保、長崎穀物検査出張所を  
 經て、更に本所に轉じた。勤勉の士で處世  
 の要諦を辨へた社會通念の深い常識人である。  
 ◎松尾豊喜君 早稻田大學専門部卒業、博學宏  
 才、辯論の雄、この世の中になくはならぬ千  
 倆役者である。

◎松本熊市君 京都帝國大學農學部助教とし  
 て今を時めく本邦農産加工界の權威である。學  
 生時代より頭腦明晰を以て聞へ、成績優秀で諫  
 早農學を卒へ、直に興津園藝試驗場見習生とし  
 て入つた。修了後、静岡柑橋同業組合聯合會に

聘せられ、大に敏腕を揮つたが、偶々柑橋の米  
 國輸出に關する事情研究調査の必要を感じ渡米  
 の志を立て恩田博士の推薦を得て、農商務省海  
 外實業練習生として北米に航し、愈々彼地の園  
 藝事情研究に没頭した。或は學校に入り、或は  
 農場に勤め、或は農産工場に職工と伍して勞働  
 に従事するなど、あらゆる辛苦と闘ひつゝ實地  
 研究を了へ、在米八ヶ年完く所期の目的を達し  
 て無事歸朝した。當時日本は、農産加工業の機  
 運漸く動いて、新知識の人材を要望せる折柄と  
 て早速、京都帝大の講師として招聘せられ、次  
 いで助教として累進、今や本邦農産加工界の  
 權威として盛名を馳するに到つた。穎悟俊敏、  
 篤學の士で、又謙讓の美德を有し、學生間に絶  
 大な信賴を博して居る、瑞穂が生める誇るべき  
 人材の一人である。

藤瀬四郎君(舊姓松尾) 鹿兒島高等農林學校教  
 授として斷然重きをなしてゐる。小柄で上品な  
 溫厚其ものゝ様な、優さ男だが頭腦明晰、識見



高邁 學者肌の白哲である。鹿兒島高等農林を首席で出て茨城縣日立鑛山農事試験場に入り、社會への第一歩を踏み出した。次いで、臺灣總督府中央研究所工業部へ轉じ、みつしり腕を研いて、再び母校鹿兒島高農に招聘され助教として教壇に立つた。爾來十有餘年専念子弟の輔導に努め、今や果進して教授たり、農藝化學の大家として肥料、土壤、氣象などの造詣深く、學生の絶對信頼を得てゐる。罕に見る逸材である。

◎有田順三郎君 佐賀縣杵島郡旭村の人、家は代々素封家で、先代は縣會や國會で鳴らした政界の巨頭であつた。けれども子は親に似ず、實業を以て身を立つべく諫早農學を出ると、すぐ養鶏に志し、爾來二十餘年側目もふらず兀々として斯業に熱心し、今や佐賀縣第一の養鶏場として、飼育羽數約二千、二萬個入スミス式孵卵器によつて、年間約二十萬の初生雛を縣下一圓に配給してゐる。家に餘財あり、而かも事業成

功の域にあるも敢て驕らず、弊衣破帽、一農夫として一意専心よく働いてゐるところに、君の偉さがある。溫和從順、人に篤く、郷黨の信望を一身にあつめ、佐賀縣養鶏王として嘖々たる名を馳せてゐる。

◎酒井五八君 南高西郷村ネーブル三丁園主として長崎縣果樹園藝界の明星である。學校を出ると、先代の事業を繼ぎて、改善努力、よく守成の大業を完うした、最近は加工方面にも手を擴げ、ジュースの製造に成功し好評を博してゐる。又農村問題の研究家で理想農村建設に向つて精進しつゝある。賦性溫良、家を治むる勤儉己を律する端莊、眞に農村の模範人物である。

◎佐藤與助君 千葉高等園藝學校を出て、臺灣嘉義農林學校教諭として、二十餘年終始一貫、子弟育英の業に當てたが、最近辭して郷里北高小野村に起臥してゐる。謹嚴篤學の士である。

◎下村久雄君 長らく郷里有喜小學校に教鞭を執つたが、勇退して自家經營に當たる。除虫菊

栽培普及に熱心し自ら組合長となつて、斯業の發達を期してゐる。濃厚篤實の好人物である。

◎重野進君 南高愛野村の資産家、學校を出ると家政を繼ぎ、愛野産業組合長として、産業の開發助長に努めて居る。資性濃厚、經濟的手腕は鮮かなものと言はれてゐる。

◎久田新一君 東京農業大學を出で、北松浦郡農事試験場技手に任ぜられ、次いで、北松郡農會に入り、長らく敏腕を振つた。其後長崎市農會技師に轉じ、精勵大に努めたが、辭して實業界に入つた、今、長崎昭和無盡會社の中堅として活躍してゐる。濃厚にして謹嚴、又半面には極めて明朗な社交の妙技に通じてゐる。

◎大島 壽之君 豪放にして磊落、頭腦極めて明晰、何事に對しても獨特の意見を有する奇骨稜々たる快男子である。初め臺灣新竹帝國製糖の農場に入り、大に快男子振りを發揮したが辭して郷里に歸り、日宇小場校に農業の先生をやつた。其後教鞭を捨て、朝鮮蔚山に雄飛して農

業經營を始めたが、家事の都合で歸郷、目下西彼日見村農會に勤めてゐる。

#### 第四同卒業生

(大正二年) 四五名

◎今里右衛二君 初め三菱造船所書記として、畑違ひの仕事に就いたが後、長崎市役所に轉じ、更に長崎縣農會に入つた。其後本縣産業組合聯合會佐世保販賣斡旋所に轉勤、庶務を擔任してゐる。沈默寡言、溫健にして眞摯、事務的才幹がある。

◎伊藤保雄君 長崎縣立農事試験場助手を振出しに、長崎稅關植物検査所に勤め、其後軍隊生活を了へて、西彼郡農會に入り、大に敏腕を揮つた。茂木枇杷や、長浦西瓜の出荷統制による大發展は君の努力に俟つものが多い。其後、郷黨の懇望により、守山村助役に就き大に治績をあげたが、本縣物産上海販賣斡旋所の新設さる



ゝや、再び縣に拔擢されて商工主事補として彼地に駐在した。偶々今次の事變に遇ひ、決死的奮闘を續けて、大に業績をあげた。學校時代からの秀才で、人物手腕識見、共に非凡のところがあり將來を期待されてゐる。

◎西川平吉君 郷里瀬戸小學校教員を振り出しに瀬戸町農會に入り、後七釜補習校に教鞭を執り次いで又郷里農會に歸つた。昨今又崎戸町農會に轉任した。極めて實直で、努力家である。

◎堀池邦雄君 往年竹松村堀池梨園として有名であつたが後大村に移住、各方面の事業に關係してゐる。大村町會議員として自治方面にも盡力し、町での顔役である。頭もよし腹も出來てる。風采堂々たる、温厚の紳士である。

◎堀貴矩君 諫早町出身、學校を出ると軍隊生活を了へ、西彼矢上村農業技手に就任した。程なく朝鮮に發展して、平安北道泰州郡技手となり、半島農業開發の第一線に立つた、後、宜川郡産業技手に轉じ、益々敏腕を振つたが、遂に

推されて、古邑農業倉庫長として最も重要な職務に就いた。取扱高年間五十萬圓、米穀の出荷販賣及金融を支配して居る。性活達健實にして仁俠に富み農民の信頼甚だ厚く、牢固拔く可らざる地盤を作つてゐる。瑞穂朝鮮進出組の錚々たる精銳である。

◎梁鳳華君 朝鮮濟州島出身、長崎農學への第一回留學生である。卒業後忠清南道景江公立普通學校に教鞭を執り、次いで全羅南道光州公立農學校に轉じ爾來精勤十年一日の如く、大に事蹟をあげた。其後全羅南道學務課に入り、果進して道視學官となり、農業教育の大綱を統ぶるに至つた。洵に異數の榮進である。偶々咸平に、道立實修農學校の創立さるゝや、君、推されて第一代の校長となり、今全幅の力を注いで、創業時代の困難と戦つてゐる。日鮮同和は君が常に主張する處で、其後朝鮮留學生は君が派遣によるものが多い。資性温厚、正義の念に強く、實踐篤行、眞の農業教育者として南鮮にかく

くたる聲名をあげてゐる。瑞穂の至寶である◎小楠直孝君 最初南高愛野小學校に奉職し、次いで北高小野小學校に勤めた。其後臺灣に航

し臺南州斗六郡斗南公學校に入り、轉じて虎尾郡東勢厝公學校に教鞭を執つたが、成績優秀、拔擢されて、馬公厝公學校長となつた。資性温厚容姿閑雅、貴公子の如く。而も謙讓の美德ありて子弟の信頼を一身にあつめてゐる。

◎大島堯助君 農學を出て、再び師範校に入り、教育界に轉向した。初め有喜小學校を振出しに長田、江ノ浦、諫早第一、等を歴任、箔を付けて再び郷里の有喜校に歸つた。温良恭謙加ふるに社交に巧みでよく偶黨の間を融和明朗化してゆく妙味がある。

◎鬼山榮三郎君 學校時代から級の兄貴株で通して來た社會通念の人。學校を出ると、南高串山小學校農科教員を勤め、後杉山村農會技手を經て、島原町農會技手に轉じ敏腕大に揮つた。其後職を辭し實業に志し、文具店三榮堂を經營した

が再び臺灣に雄飛し、總督府學務課に勤めてゐる。性温厚朴訥邊幅を飾らざるも、確固不動の信念あり、中々の剛膽者である。

◎渡邊一郎君 長崎縣穀物検査所諫早出張所長として好評がある。學生時代から成績優秀、初め郷里の小長井村勤業係を勤めた。其後職を辭して諫早に出て、牛乳屋を始め奮闘努力、大に業績をあげたが、色々の事情で遂に廢めて、南高口ノ津村農業技手として起つた。精勵格勤、幾程もなく手腕を認められ、本縣農林課産業組合に迎へられ、次いで壹岐支廳農林技手に拔擢、更に穀檢諫早出張所長として榮轉して來た。温厚篤實、至誠一貫、よく仕事はさげける。信仰厚く常に神の使徒して、日夜精進してるところに君が人格の閃きがある。處世の達人だ。

◎加藤清久君 南高犬三東、加藤酒造場の次男、學校を出ると分家して湯江に支店を出し、酒商を營んでゐる。實直でよく家業に精出し、銘酒は芳淳、あさひ登で名を賣つてゐる。



◎吉田英一郎君 學校時代から、才氣喚發、中々の快男子で學校を出ると、郷里の吉井村農業技手を振り出しに、次いで補習校に轉じた。其後佐賀縣に發展し、東松浦郡有浦農會に入り、次いで東彼大村町農會に轉じ、現今南松三井樂村に勤務してゐる。性果敢剛毅手腕あり、力量あり、仕事はよく捌ける。男らしい男だ。

◎横田敏雄君 學校卒業後暫く、長崎藤田農場に入つて園藝の研究をやつたが、卒へて、臺灣に雄飛、臺中二份埔、帝國製糖農場に勤めた。次いで、大甲郡沙轆製糖に轉じ、後臺南州新化郡玉井の昭和製糖農場に移つた。爾來十有餘年精勵奮闘、大に手腕を認められ、農場主任の重責にある。資性濃厚清廉の士で、些の蟠りなく明快其ものである。又後進に甚だ厚く、現に六百町歩の農場管理を瑞穂同人で固めてゐる。人間味豊かな人格の士だ。

◎田中友信君(舊姓吉谷) 農學を修めて畑違ひの鐵道に志し、諫早驛員として、スタートを切

つたが、激務健康を損つて辭めた。其後西浦上農業技手をやつたが、之れも辭めて、八幡製鐵所購買會事務所に入つた。爾來孜々營々精勵二十年、遂に累進して麵麩製造工場主任の要職に在り、非常時下に躍る。八幡製鐵幾萬の工場戰士に配給する。パンの製造を司つてゐる。資性濃厚、優雅にして人に對する春風駘蕩を想はしむるあり。よく人氣を博してゐる。毛色の趣つた出色の偉材だ。

◎武田十苗君 體軀堂々六尺豊かの偉丈夫、剛放磊落、よく常識に長けた農界の闘將だ。學生時代から已に儕輩を壓するの快男子で、學校を出ると、北海道に雄飛、函館營林區署に入り累進して技手に任せられ、更に森林調査官として北米ヤンペリヤ方面へも出張し大に活躍した。其後家事の都合で辭めて實業に志し、北松調川炭坑を引受け、奮闘努力したが、偶々暴風出水に遇つて、折角よくなつた炭坑を臺無しにした。それから、再び出直して、南高南申山農會に入り、

澤次敏腕を揮つて馬鈴薯、百合などの栽培や切干芋の販賣統制などに異常なる成績をあげ、村民の絶對信任を得てゐる。今や農會を辭して各種の組合長を務め、傍ら養鶏場を經營、常に七八百の成鶏を飼育、實蹟をあげてゐる。博學宏才 識見卓抜、常に時流を抜いて、農界の一角に萬丈の氣を吐いてゐる。痛快な先生である。

◎田中丈三君 北高小野村出身、最初長田小學校農科教員を勤め、軍隊生活を了へて、再び小野小學校に奉職した。其後實業に轉向して、自動車業を開始して、奮闘してゐる。眞面目で、堅實一方、間違ひのない人だ。

◎高橋司郎君 初め臺灣總督府臺北農事試驗場昆蟲部に入つて病害蟲方面を研究し、業を了つて臺南州麻荳支廳に奉職した。次いで大目降糖業試驗場に入り、大に敏腕を揮つたが、家事の都合で郷里に歸つた。暫く江ノ浦農業技手を勤めたが後奈良縣に進出して、高取町農會や、畝傍町農會で活躍し、其後、佐賀縣春日町農會に轉

じ、非常なる腕の冴へを見せた。再び家庭人として郷關に歸り、今は森山村農會に在つて健闘を續けてゐる。識見あり抱負あり。手腕力量兼備はる農界の闘士。一農村の指導者としては勿體ない人物だ。

◎辻 弘君 兵庫縣實業。

◎鶏田 清君 郷里有喜産業組合事務員として第一歩を踏み出し、次いで北松上志佐村農業技手に轉じた。其後教育界に志して、有喜小學校に教鞭を執り、爾來十有餘年精勵、最近江ノ浦校に轉任した。濃厚實直の先生である。

◎中里敏郎君 學生時代から、學業優秀品行方正で通うした。志願兵として軍隊に入り成績拔群砲兵中尉である。歸郷後は、専ら自家經營に没頭し、溫室栽培に非常なる成績をあげてゐる。在郷軍人分會長を務め地方のために盡してゐる。

◎中路仁吉君 初め朝鮮蔚山東柘支所に入つたが、後轉じて龍山の滿鐵京城鐵道管理局工務課に奉職し、爾來引き續き、朝鮮總督府鐵道經理



課屬として今日に至り高級の地位にある。温厚篤實人格の士である。

◎永尾筆次郎君 教育界に入つて已に二十餘年専ら育英に當つてゐる。最初の振出しが、西彼失上小學校の農科教員で、爾來長田、竹松、今福、口石、等の青年學校教諭を歴任して、現在千綿小學校に在る。勤勉の士である。

◎迎勇一郎君 北松世知原村の篤農家、學業を了へて終始一貫、農業經營に邁進してゐる。實直の士で、蠶業組合や、農會の中堅となりよく努めてゐる。最近では開墾事業に渾身の勇を振つてゐる。多忙な人生の一面に解脱した大悟徹底の妙味があり、常に明朗な話題を世に投げる愉快な男だ。

◎上原又助君 北松鷹島小學校農科教員として初めて世に出で、次いで郷里の江ノ浦小學校に轉じ、爾來十有餘年一日の如く、精勵今日に到つた。性極めて温厚、實直の士で徳化郷黨に普く稀れに見る農村の師表である。

だ。未來の村長である。

◎藤田常二君 北米に航して已に二十幾年、最近の消息は杳として不明。

◎古賀留一君 諫早目代出身だが、本明川の上流本野村で水車業を營んで居る。處世は地味で、仕業は上手、来る日もく、休みがなく淀の川瀬の水車で、間斷なく働いてゐる、安氣なものだ。

◎佐藤忠壽君 初め深海小學校農業教員を勤めたが後、轉向して農事試験場練習生となつた。業を了へて西彼松島農業技手を勤めたが、小さな島の生活が窮屈でたまらず、飛び出して朝鮮に走つた。それから、巡查を志願して、全羅南道靈光警察署勤務となり、精勵恪勤十有餘年、累進して警部補として、今、谷城警察署の司法課長を勤め、敏腕を揮つてゐる。朝鮮農事の指導には劔と鋏とが必要で堆肥の製造も、害虫驅除も、警察官兼農業技師が歓迎される。昔、朝鮮王族の住んだ大邸宅に頑張つて、人民保護と農業開發の兩刀使ひをやつてゐる。劍道は有段

◎八木正保君 長崎縣農會技師として本縣農會を統帥してゐる。今賣出しの花形だ。優秀で學校を出ると、一年志願で砲兵中尉の成績をあげた。歸郷後、大村小學校農科教員をやつたが、後轉じて郷里北有馬村農會に入つた。それから、更に同村農業補習學校に教鞭を執り、郷關子弟の爲め號令大に努めた。其の後長崎縣農會に拔擢されて今日に到つた。頭腦明晰、剛腹で霸氣があり思慮分別も確乎りしたもの、腕は切れる。農界の主將として適材適所、充分信頼するに足る棟梁である。

◎山本鷹次郎君 在學當昨から秀才で早やくから頭角を現した。學校を出ると其の英才を買はれて、瀬川小學校農科教員として郷里の教壇に立つた。それから隣村大串村農會技手として聘せられたが、再び瀬川村助役として呼び戻され、理想農村建設のために日夜努力してゐる。村長を助けよく一村の切り盛りを一手に引受け、快刀亂麻、難局を處理して行く手際は鮮かなもの

格の豪の者だ。

◎木下良五郎君 南洋シンガポールに航したが最近の消息は不明。

◎北御門徳雄君 北高小江村の素封家、鹿兒島高等農林を出て、臺灣に發展し、臺中州大南庄蔗苗養成所に入りて技手を勤めた。其後臺南嘉義喜南大圳本部に轉じて、水利事業に精勵十年、大に業績をあげ、臺南州廳技師水利課長として最も重要な地位に在る。寡黙多くを語らず、社交場裡の人ではないが、己を持する謹嚴、事に當つて眞摯、部下に對しては情味があり好個事業界の統領として信頼されてゐる。

◎木下幸八君 西彼喜々津小學校農科教員から諫早第二、眞津山校を歴任し、精勵勤績十有餘年、今、長田小學校訓導として令名がある。篤學の士である。

◎島田昇君 臺灣を旅して鐵道本線を南下すれば臺南州新營街の一角に宏壯なる白聖の一大城廓がある。これぞ臺灣糖業界の雄、塩水港製糖



會社の本社及工場の全景である。この會社の所管する、農場及原料區は、約五千餘町歩に及び臺灣南部の沃野を包擁してゐる。この農耕地を一括總統するのが、會社の農務部で部長には會社の重役が据はり、部長の下に農務次長があり、事實次長が一切を切り廻してゐる。故に農務次長は、實際會社の興廢に關する重要な鍵を握るので職責も又頗重大である。島田君は、この重職農務次長として縦横無碍の快腕を揮ひつゝある。洵に破格の出世振りだ。然らば快漢島田君は如何にして、今日の地位をかち得たか。島田君、成績優秀で、諫早農學を卒へると、暫く鹿兒島高等農林に入つて實務の研究をやつたが、間もなく、飛び出して、多年憧れの臺灣に航し、當時人跡稀れな、東部臺灣の花蓮港に入り、鹽水港製糖會社の鯉魚尾工場に入つた。資性濶達明朗で英邁な青年、體軀又頑丈な闘士である。力の限り働いた。漸次非凡な手腕を認められて、拔仔庄原料區駐在所の主任となり、更に壽村農

場長となり、二十幾年の苦闘酬ひられて、遂に幾百の同僚を排し農務次長の、最高地位を獲得するに到つた。而して又、漸次同社の株を賣收して大株主の列に連り、又東部臺灣花蓮港廳一帶に廣漠たる土地を買收して、他日の雄飛に備へてゐる。又資本金百萬圓の臺灣農産株式會社を起し重役として臺灣事業界に乗り出し、今や私財數十萬と噂せられ、牢固拔く可らざる盤石の基礎の上にある。瑞穂が生める事業界の大關である。君、一見朴訥、粗野なるが如きも、博學多才、頗る常識に富み、殊に經濟的眼識に至りては極めて透徹した處がある。裸一貫から身を起し、遂に臺灣事業界の曉將となる。又君も一世の快傑だ。

◎久田義衛君 佐世保市日宇の精農家として自家經營に没頭したが、家事の都合で志を轉じ、北鮮羅津方面に事業を計劃した、事思ふ様に行かず、其後、西彼大串村農會に入り更に北松中野村農會に轉じ一意農村指導に當つてゐる。溫

厚實直で、人格圓滿の士である。

◎森東一郎君 最初古賀村小學校農科教員をやつたが、教鞭を捨て、縣立農事試驗場練習生となつた。業を卒へて、南高採種圃に入り、南高郡農會技手に任用され、次いで縣農林課に轉じ南松支廳農林技手に拔擢された。其後穀物検査所島原出張所長を経て佐世保出張所長となり今日に及んだ。溫厚篤實、人觸りがよく、事務的才幹がある。萬人から信賴される徳の人である

### 第五回卒業生

(大正三年) 四五名

◎一瀬由夫君 初め西彼大串小學校に教鞭を執り、爾來、式見、黒崎、雪ノ浦、瀬戸の諸校を歴任して、郷里龜岳校主席訓導として、子弟教養に當てる。性溫厚、人格の士である。

◎今吉文雄君 鹿兒島縣出身、長らく小學校に教鞭を執つたが最近の消息不明。

◎池田政雄君 一時北高森山驛前にて運送店を營み、米穀商をもやつたが、最近の消息は不明

◎原口武喜君 臺灣臺北州海山郡勸業課主任技手として活躍してゐる。早くより臺灣に航し、臺北州宜蘭廳蠶業教師を勤め、次いで宜蘭廳農會技手に轉じ、其後文山、羅東、宜蘭の各郡廳を歴任し、海山郡に榮轉した。總明穎悟、常識に長け、事務的才幹あり、多くの業績を残してゐる。

◎西山勇君 南洋シンガポールに渡航し、炎天下、奮闘を続け、大に業果を收めて歸國した。爾來郷里長田村に在つて自營に當つてゐる。勤勉力行の士で、村會議員として村治にも盡してゐる。

◎西山六郎君 消息不明。

◎朝永覺二君 東京農業大學卒業、軍隊に志願歩兵中尉となつた。後郷里竹松驛前に運送店を開業し、傍ら産業組合、トマト加工場等に關係し、産業界に活躍してゐる。性剛放磊落、明快



な紳士で狩獵の名人である。

◎泊 熊衛君 南洋セレベスに渡航中

◎陣野今朝雄君 最初北松前津吉小學校農科教員を勤め、後教鞭を捨て長崎三菱造船所に入つた。それより再び、西彼瀬川村農會技手として赴任したが、間もなく上京して實業界へ入り、奮闘幾年事成らんとするに及んで、病を得今は靜かに故郷の山川に身心を養つてゐる。

◎小野春喬君 東京麻布獸醫學校卒業、爾來自宅にあつて、獸醫を開業し 好評を得てゐる。資性、温厚篤實、勤勉家で、家は先代から名望家として聞へてゐる。

◎川口官八君 卒業後郷里有喜村農會技手を勤め、次いで森山、眞津山を歴任し、大に農村指導に努力した。其後家事の事情で職を辭し、川口屋旅館を經營し、更に自動車業をも兼營、大に活動して居る。極めて實直なる人物である。

◎横田千太郎君 一時西彼式見村農會技手を勤め更に北高本野村農會に轉じ、大に精勤したが、家

事の都合で自營に入つた。最近健康を害し専ら靜養中である。

◎田中堯治君 南高愛野村の素封家、縣下屈指の大地主で、多額納税者である。先考は當世稀に見る篤行家で、其の徳化は近郷に普ねかつた君學校を出ると、志願兵として軍務につき山砲中尉である。歸郷後は、専ら家政を治め、傍ら農會長や村議を務め農村振興に盡してゐる。尙長崎縣耕地協會副會長として 耕地改善に努力してゐる。學校校代常に首席で通した逸材、識見高邁、剛健質實。體軀又堂々、適れ國家有用の材幹、其將來は多大の期待を以て矚目されてゐる。

◎瀧口志三郎君 東彼川棚町農會技手として農業指導の第一線に起つてゐる。農村問題の解決は、まづ農民の心の建て直しからと、勤儉力行の美德涵養に全力を注いでゐる。學校卒業後長らく自營に努力したが郷黨に押されて、農會に入つた。信念の人で凡てが誠心誠意、全く人格

高潔の士である。

◎歴伊久四郎君 學校卒業後直に臺灣に雄飛して、新竹、帝國製糖試驗地に入り、以來、吉羊崙農場、水田出張所を経て、臺南、嘉義郡大林庄大浦美、新高製糖農場主任となり、新高の白糖に合併するや、大日本製糖に所屬し 現に約五百町歩の原料區を支配してゐる。資性極めて温厚、至誠一貫、大の奮闘家で、又明朗快潤、敬愛すべき人物。家は諫早の名門である。

◎辻久美君 北松皆瀬村の精農家、農會長として農村振興の重職に在る。在學時代から學術優等品行方正の模範生、業を終へると終始一貫自營に精勵して今日に到つた。

◎辻 正君 卒業後北松山口小學校農科教員を勤め其後軍隊に入り一年志願兵として輜重兵少尉である。歸郷後は暫く自營に努めたが、其後朝鮮に航し、警察界に入つて目下、平安北道石下警察署の要職に就き國境警備の任に當つてゐる。質實剛健の士である。

◎中島啓造君 麻布獸醫學校出身、暫く小栗村役場に勤めたが、後支那青島に航し、獸醫及搾乳業を經營した。其後、大阪に移住、實業に従事理財家として知られてゐる。

◎村里茂樹君 島原鐵道保線課長として、工務を統師してゐる。學校卒業後軍務につき一年志願兵の歩兵少尉である。爾來、島鐵に入り、精勤十年、今日の地位を勝ち得た。堅實にして明朗、親しみある人物だ。家は南高多以良の素封家である。

◎宇野靜得君 初め北高眞津山小學校に教鞭を執り後、辭して臺灣に雄飛、臺中、帝國製糖試驗場に入つた。其後臺灣を引上げ、更に、山東省青島に航し林務署に奉職した。後歸郷して湯江小學校に入つたが再び青島に發展、現在第一小學校に勤めてゐる。温厚篤實、到つて物優しい順和の士である。

◎内田輝男君 消息不明。

◎山本觀一君 一風變つた男で、天上天下唯我



獨尊主義の信奉者、日宇の山中に引籠つて自給自足、浮世の風波を白浪とさけ、超然生活を續けてゐる。

◎山口稜君 長らく北高深海村助役として精勤したが、家事の都合で辭め爾來自營に専念してゐる。元來人物は溫良、清廉の士である。

◎山中茂君 西彼矢上村の収入役を勤めてゐる。諫早農學を出ると母校助手として三年間腕を磨いて、南洋シンガポールに飛躍した。健康適せず幾程もなく故郷に歸り精米業に従事し傍ら収入役を勤めてゐる。人格圓滿の士で村民一般の絶對信望を得てゐる。

◎山崎儀八君 北高湯江村の資産家、學校を出ると、郷里の小學校に教鞭を執り、爾來二十幾年、精勵勤績して今日に到る。溫厚篤實、村の名望家である。

◎山田邦治君 臺灣製糖新豊郡安順農場長として六百餘町歩の大農場を支配してゐる。初め學校を出ると、臺灣總督府大目降糖業試驗場に入

つて、實務を修得し、了るや高雄州橋子頭臺灣製糖に入つて懸命に奮闘した。それから漸次手腕を認められて、臺南三崁店製糖所農場に轉じ更に新化郡道爺農場長に拔擢され、最近新設の新豊郡安順農場長として、最も重要な職責に就いた。資性、豪放磊落、腕つ節の強い荒武者で、幾百の農夫たちを、手足の如く、驅使してよく業績をあげて行くあたり、全く堂に入つたものだ。半面有情の涙もろいたちで、部下を心服させて行く統御の手際も鮮かである。渡臺當に二十年、年來の努力實を結んで、今や確固たる基礎を作つた。偉いものだ。

◎長谷川質君 南高西有家の資産家、學校卒業後自家經營に従事、資性溫厚目下東京澁谷區幡ヶ谷笹塚町一二四在住である。

◎古賀利明君 本縣農事試驗場練習生を経て、助手となり、更に佐賀縣立農事試驗場技手として園藝を専攻した。後郷里南高加津佐町農會に入つて農業技手を勤めたが最近獨立して、玉園

農藝私塾を開設し理想實現に精魂を打ち込んで邁進してゐる。思想健實、信念に燃え、實行性に富む、罕に見る農會の戦士だ。

◎有村武雄君 鹿兒島縣出身、最初、北松皆瀬小學校教員を勤めたが、間もなく郷里に歸り薩摩郡川内町小學校に奉職、其後轉じて日置郡日置青年學校教諭として青年指導に當つてゐる。資性溫厚、謙退、武道の達人で人物は確乎りしてゐる。

◎坂田 實君 東彼大村出身、初め北高小野小學校に農科教員を勤めたが、後辭めて南洋に航した。二ヶ年餘にして再び歸國、諫早實業補習學校に教鞭を執り、更に瀬戸校に轉じた。其後朝鮮に發展し、全羅南道谷城郡三岐公立普通學校に勤め、續いて、光州郡林谷校を経て、東城郡東化公立普通學校長に榮轉、今日に到つた。誠實勤勉の士で氣宇濶達、早くも半島教育界に重きをなしてゐる。

◎酒井磯衛君 長崎縣立農事試驗場助手から、

師範專攻科に入り、業を了へて。小野小學校訓導に任せられ精勵十餘年、遂に小長井村長里小學校長に拔擢された、篤學の士である。

◎木村豊助君 最初東彼大村吉野澱粉製造所に入つて働いたが後、諫早倉庫會社に轉じた。其後、東彼上波佐見農會技手を勤め業績を残して北高小野村農會に轉じ敏腕を揮つた。次いで拔擢されて北高郡農會に入り、更に本縣産業組合に榮轉して、大に活動してゐる。寔悟聰明經濟的手腕に長けてゐる。

◎島田鹿一君 消息不明。

◎森國三郎君 本縣立農事試驗場見習生を卒へて、同場助手となり、次いで北松小佐々村農會技手を勤め、後西彼時津村農會に轉じた。其後本縣農林技手に技擢され、爾來十有餘年勤績して遂に農林技師に累進した。性伶俐、圖轉滑脱處世の妙諦を會得し、よく時代の流れに棹すの明があり、幾多の先輩同僚を押しつけて、最後の目標月桂冠をかち得たのは兎に角偉い練達の



士である。

## 第六回卒業生

(大正三年) 四五名

◎石田嘉次雄君 北高小野村出身早稻田大學專門部政治科卒業。

◎原田爲繁君 久しく長崎醫大藥草園に勤務したが其後滿洲方面に發展目下大連市久方町關東製藥所にある。濃厚篤實學究肌の人で又商才に長けてゐる。

◎長谷川秀志君 郷里崎針尾小學校教員を勤め後一年志願兵として歩兵中尉に昇進した。歸郷後 自村役場に勤務し、精勵多年、助役として村治を掌握しよく實績をあげてゐる。質實剛健極めて淡白で一村の信望を一身に負ひ未來の村長として目されてゐる。

◎原口利雄君 初め江ノ浦小學校農業教員を勤め後一年志願兵として軍務につき、輜重兵中尉

に昇進した。歸郷後、湯江小學校に入り、専心育英に努めたが家事の都合で退職家業木村屋旅館の經營に當り傍ら、又村會議員とし村政に參與し或は在郷軍人分會長として、公職に盡し、最近是多良山麗を開拓して栗の栽培に熱心してゐる、資性濃厚恬淡にして明朗、村での中心人物である。

◎濱田庄一君 南高大正村の篤農家、暫く自村農業補習學校に奉職したが其後家事の都合で退職自營した。最近、北串山農會技手として再び農村指導に當つてゐる。溫和至誠の人、手腕力量共に確乎りしてゐる。

◎橋口智行君 本縣農事試驗場見習生から助手を勤め後長崎市立神小學校に教鞭を執つた。其後メキシコに雄飛し、實業についた。苦闘幾年大に成績をあげたが、家事の都合で歸國した。其後南松濱ノ浦農會技手として農村指導に當つて居る。手腕あり、力量あり、識見又卓拔、一小天地に配するにはは餘りにも惜しい人物だ。

◎富本清作君 帝國農會販賣斡旋所長崎出張所

長として活躍してゐる。若い頃、北松田平補習校教員となり、後大野村農會枝手に轉じ、次いで縣農會農產物販賣斡旋所技手に拔擢され更に帝國農會長崎出張所長に任命、今日に到つた。資性濃厚、常識に富み複雑多端な、委任販賣行為を快刀亂麻と裁斷して行く腕の冴へがある。就任以來十年一日の如く微動だにせないのは君が信任を裏書するもので、斯界に絶對信望をかち得てゐる。

◎大町正文君 長らく朝鮮總督府營林署官吏として新義州に在勤したが、勇退して郷里南高深江に歸省、自營中である。養蠶に熱心し傍ら保險代理店を取扱ひ、好成績をあげてゐる。溫良なる人物で、村での舊家である。

◎川下六郎君 農業教員として、北松、宇久、神浦、吉井、柚木等の各校を歴任したが最近勇退して自營に入り、宏大なる温室を建設し、高等栽培を始めた。明快なる男で、仕事は捌ける

家は北松江迎の名望家である。

◎具田四郎君 初め南高愛野小學校農業教員を勤め後、朝鮮三浪津朝鮮興業會社に入つた。其後、釜山刑務所武道教師として奉職、傍ら製作品販賣部を經營した。現在では岡山縣津市伏見町に移つて、海陸物産問屋を經營してゐる。堂々たる體軀、腕力無双、柔道の達人である。

◎瀧園甚吉君 鹿兒島專賣局技手として、樟腦課の重要な地位に在る。始め諫早農學を卒ゆるや、暫く母校助手を勤めたが、辭して郷里日置郡串木野小學校に教鞭を執つた。其後、笈を負ふて上京、東京農業大學農藝化學講習所に入り修了後直に、鹿兒島專賣局に就職、爾來十年一日の如く精勵してゐる。性極めて濃厚實直勤勉家で、常識圓滿高潔な人格の士である。

◎田中富士松君 東京農業大學卒業後、東京市役所に入り、稅務部證券課主席として、大に敏腕を振つたが、最近勇退して、東京杉並區下井草町に居住してゐる。



◎永田英治君 早くより教育界に入り、西彼黒瀬、茂木、等の諸校を経て郷里矢上小學校に在り穩健著實なる教育家として令聞がある。

◎中村重義君 本縣農事試驗場助手より南高北有馬村農會技手を勤め、後、大村町農會に轉じた其後、産業組合中央會長崎支會に入り、更に長崎縣經濟更生課、農林主事補として精勵してゐる頭腦明晰經濟知識に長け事務的才幹がある。

◎中村清太郎君 郷里有喜小學校に教鞭を執つてより、爾來十有余年、鳥島、小野 等を経て現在森山村鳥島小學校訓導として精勵してゐる善良な先生だ。

◎上原龍夫君 鹿兒島縣伊作の人、家は代々篤農家として知られてゐる。卒業後、南洋に航しマレーゴム會社に入つて、奮闘したが、家事の事情で、歸國爾來専心家政に當つてゐる。性極めて温順、動作又物柔かでの主角がない、人望厚く、村の中堅として地方發展に盡してゐる。

◎野田傳三君 一年志願兵輜重兵少尉である。

處断して行へ手際は鮮かなものだ、練達堪能の士である

◎山部美喜雄君 諫早町八坂神社の社掌である以前長らく長田小學校に教鞭を執つたが、父業を嗣いで、神前に奉仕してゐる。謹嚴にして恭謙神の使徒として且夕精進してゐる。

◎山崎貞雄君 朝鮮慶尙南道普州苗圃見習生を卒へて、統營郡廳に勤務、次いで、慶尙南道廳林業課産業技手となり、更に蜜陽煙草耕作組合技手に轉じ、後、太田專賣局に榮轉、現在金州專賣局禮山出張所勤務である。極めて眞面目な努力家である。

◎山崎利七君 農商務省農事試驗場九州支場見習生を卒へて、軍隊に入り、一年志願兵の歩兵少尉である。歸郷して埼玉縣立農事試驗場技手に任ぜられ、玉井種藝場に勤務爾來二十余年技師に累進した。質實剛健眞面目な奮闘家で、學生時代から成績良好の人物である。

◎西村己代治君 北高小野村の精農家、學業を

初め北松平戸農業技手を務め其後朝鮮に雄飛し朝鮮總督府農林局米穀課に奉職してゐる。眞面目な誠實一方の勉強家である。

◎野口鐵郎君 一時大連に在り實業方面に志したが最近の消息不明。

◎山下和三郎君 學校時代から、學業優秀の模範生學校を卒へると、其まゝ助手として母校に残り實力を練つた。それから西彼龜岳農業技手として赴任、次いで同村農業補習學校教員に轉じ、精勵數年大いに業績をあげた。其後拔擢されて本縣農會技手となり販賣斡旋方面の事務を擔任したが、成績頗る良好、偶々滿洲事變直後本縣物産滿蒙進出の機熱して視察調査團の派遣あるや之れに加り、貝さに滿鮮を視察報告した。結果大連に長崎縣物産販賣斡旋所の設置さるゝや君撰ばれて貿易主事として駐在することゝなつた。爾來幾年よく敏腕を揮つて激烈な他縣物産と角逐し多大の業績をあげてゐる。資性温厚、博學多才、常識圓滿でよく物事を適切に

了へて、終始一貫農業經營に邁進してゐる。温厚篤實な好人物、村の中堅層で頗る信用がある

◎前原正平君 北高本野小學校農科農員より眞崎小學校に轉じ後師範專攻科を卒へて、再び本野校訓導となり、其後深海校を經歷して諫早第一小學校に榮轉した。十有余年の教育精進に玉成されて、人格圓滿名訓導として好評を得てる。

◎松田幾逸君 北松世知原村農業技手を勤めたが再び笈を負ふて京都に上り高等蠶業學校に入つた、卒業後、京都郡是製絲會社に入り、岡山支所や、靜岡沼津支所を歴任し、現在京都綾部の郡是製絲蠶事所に在る。頭腦明晰學研肌の人で温厚篤實の士である。

◎松永繁一君 長崎縣耕地課農林技師として、重要な椅子に在る。農商務省耕地整理講習所卒業後熊本縣耕地整理技手に就任、後、本縣耕地課に轉じ、爾來十有余年一日の如く精勵し累進して農林技師となり今日に到つた蓋し異數である學校時代から學業品行共に優秀で資性温良聰明



穎悟勤勉家で上役の受けはよし同僚か後輩にも敬愛されよく人望を得てゐる。瑞穂の偉材だ。

◎松尾喜惣次君 北高森山村の素封家である。學校を出ると暫く西彼瀬戸小學校に農業教員を勤めたが、其後、北高湯江村農會に轉じ、更に北松南田平村農會に入り大に敏腕を揮つた。其後、家事の事情で職を辭して自營銳意家業に精勵し更に村會議員として村治にも盡瘁してゐる最近、諫早町に營業所を置き、農産物を取扱ひ活發な動きを見せてゐる。頭腦明晰、霸氣滿々手腕識見又非凡の處があり、曠達英邁現代稀れに見る押しの強い傑物である。相撲道の達人で母校相模部の相談役であり又狩獵の大家で常に多くの優秀犬を愛育してゐる。

◎松崎辰雄君 鹿兒島縣伊作村の人家は代々精農家である温良の好人物で村の中堅目下健康を損ひ、靜養中である。

◎綾香正直君 北松上志佐の出身終始自營に没頭し、精米業をやつてゐる。温厚著實村の有志

として評判がよい。

◎佐木重成君 西彼杵郡農會技手として令名がある。長浦の出身で學校を出ると、尾戸小學校に教鞭を執つたが、間もなく辭めて、練習生として農事試驗場に入つた。修了後、臺灣に雄飛し、帝國製糖新竹農場に勤めたが健康適せず、辭して上京、東京巢鴨日本化學製粉會社に入つた、程經て郷里に歸省長浦鎮西酒造株式會社に勤め、傍ら家事を援けた。其後長崎市農會技手に任ぜられ次いで茂木町農會に轉じ、再び西彼郡農會技手に拔擢 今日に到つた。性沈着剛毅而も事に當るや熱心トコトン迄やるねばりの人物である。枇杷、梨、柑橘にかけては特種の技倆がある。温和明朗にして、時に月下船を舁べて鯛を釣るの風流氣もある愉快な男だ。

◎木下藤喜君 北高眞津山の出身初め鳥栖大正園藝養蜂場へ研究生として入り次いで、長崎田中果樹園に轉じ、實務を練つた。其後、シンガポールに渡つて、大に活動したが家事の都合で

三年余にして引き上げた。それより再び農事試驗場に入り助手として勵いたが、間もなく、南高南有馬村農會技手として赴任した。由來南高南部地方は氣候温暖にして稲作螟蟲の被害頗る多つた、君はこの慘禍を救ふには晚植の外なきを確信し、苦心慘憤萬難を排して、之れが實行を試みた果然驚くべき好成绩を示して多年螟蟲に悩んだ白穂全く跡を斷ち、金波穰々として太平を壽くの秋を迎へた。村民の歡喜たとうるに

ものなく、感謝の念はこゝに凝つて頌徳碑となり。君が功績は有馬街頭永へにたゞえられてゐる。農界に於ける眞の先覺者である。

◎佐木篤二君 北高來郡農會技師として、北高農界を統帥してゐる。西彼長浦村出身、學校を出ると、崎戸小學校や長浦小學校農業教員を勤め、次ぎに轉じて北松吉井村農業技手となり、時津村農會を経て後長崎市農會技手に拔擢され更に北高郡農會に榮轉し技師となつた。性、温厚篤實、世事に長け常識圓滿よく事物を正視し

て適切に善處して行く明がある。容姿端麗貴公子の如く瀟洒たる風格の士だが一片耿々たる男性的氣魄を有する熱情漢で正義硬直の士人物は確乎してゐる。

◎重野忠義君 南高守山小學校教員より神代小學校教員に轉じ今千々石小學校訓導として勤務してゐる、温厚篤實の先生である。

◎平野茂君 臺灣總督府殖産局米穀課の重席に光つてゐる。東彼西大村の産だ。學校時代より學業優秀の逸材、最初大村小學校農科教員として教鞭を執つたが、辭して臺灣總督府臺北農事試驗場に入つた。其後嘉義農事試驗場に轉じ更に臺中州廳勸業課に赴任精勤幾年月遂に主席技手に累進した。今春拔擢されて員林郡廳庶務課長の榮職についたが間もなく殖産局米穀課に榮轉した。破格の昇進である。温厚にして誠實聰明穎悟手腕識見卓絶してゐる、頗る友情に厚くよく同僚を賑はしてゐる臺灣新進組の花形である。



◎平川信吉君 出身は諫早、學校を卒へると、長崎に出て實業に志した。後、臺灣嘉南大圳測量班に入つて水利事業に係り大に活躍した。其後管理課に轉じ爾來十有餘年、精勵恪勤、新營から今春、虎尾水利支部に榮轉した。性溫良恭謙、常識に富み、誠實勤勉、土木水利の技術に至つては一種非凡の才能を持つてゐる。又多忙なる人生の半面、常に風流を愛し、明朗、洒脱、淺酌微吟、人をして春風面を拂ふの思ひあらしむる。親しむべき人物であらう。

◎森川洋至君 學校時代、常に首席で通した秀才だ。暫く東都に遊學したが、後朝鮮江原道勸業課に入つて産業開發に努力した。其後前長官の臺灣專賣局長官として赴任するや、君は特に其英才を買はれて臺灣總督府酒課に入つた。其後再び總督府會計課に轉じ、精勵恪勤十有餘年一日の如く勤めて其首席にゐる。異數の榮進である。資性溫厚、聰明穎悟、博學多才にして、特に事務的才幹に長じてゐる。又、哲學に通じ

姓名學の奥蘊を極め、事物を豫言すること神の如く一家の識見を有つてゐる。得易からざる人材である。臺灣瑞穂會長として同窓のためよく盡力し幾多後進推挽の勞をとつて惜しまない、一同から慈父の如く敬慕されてゐる。

### 第七回卒業生

(大正五年) 五一名

◎伊東茂夫君 始め茂木小學校農科教員を勤め後、郷里矢上小學校に轉じ、數年間育英に従事したが、家事の都合で辭して自營に入つた。其後再び出で、西彼式見補習學校に勤務最近北松佐々青年學校教諭として榮轉した。資性溫厚實直、識見あり、抱負あり、手腕力量共に充分なる練達の士、青年教育界有數の材幹である。

◎池田實君 東彼大村町池田製材所及造船所を經營し、尙貨物自動車部を置き運輸業にも手を擴げ、八面六臂の活躍を續けてゐる。資性卒直

中々あつさりした人物である

◎畠中辰藏君 北松宇久平村の舊家に人となる始め北松浦郡農事試驗場に入り大に勉勵したが後、郷里に歸つて教鞭を執り、爾來十有餘年勤績、宇久青年學校教諭として、令名を馳せてゐる。曩きに青年教育功勞者として表彰された。溫厚篤實、穎悟聰明、手腕あり、力量あり、徳望一村に普く未來の村長を以て目されてゐる。人格の士だ。

◎濱長松君 北松黒瀬小學校農科教員より師範二部に入り、北高古賀、眞津山、江ノ浦、有喜長里を経て田結小學校主席訓導となる。性極めて正實、溫厚の師表である。

◎西田義夫君 佐賀縣大浦小學校農業教員より臺灣守備軍に入隊、歸郷後再び教育界に入り、瀬戸、蟬浦等を経て、佐世保八幡小學校訓導となる。精勵恪勤、至誠の人として聞へてゐる。

◎本田龜八君 西彼龜岳の篤農家である。學生時代より秀才を以て聞へ、卒業後、推薦されて

農商務省興津園藝試驗場に入り實務を研究した歸郷後は専ら普通農事に精勵、業蹟をあげてゐる。溫厚篤實、村での名望家で大の努力家。正義觀念に強い人である。

◎土肥正義君 師範二部出身、北高長田村の自家經營。

◎大塚静夫君 北高小野村篤農家、終始自家經營に没頭す。溫厚實直の士である。

◎緒方數間君 初め西彼龜岳小學校に教鞭を執つたが、辭して、京都佐藤養鶏場に入つて實務を研究し、歸郷養鶏に従事した。最近は、深海郵便局に勤務してゐる。正直勤勉の士である。

◎太田 茂君 消息不明。

◎吉野美芳君 臺灣農會に勤務してゐる。始め臺南埔里社支廳に勤め、後臺北農事試驗場に入り次いで中央研究所農業部を経て總督府植物検査所新竹支所に奉職大に手腕を揮つた。精勵十有餘年、勇退して實業界に轉向し臺灣冷凍會社に入つたが再び臺灣農會に勤めた。溫和柔順。頭



腦致蜜、事務的才幹がある。蘭花植物の大家で、數百の高級品を栽培してゐる。價數千金に上るといふ。

◎吉野富太君 初め臺灣臺北製糖會社錫口駐在所に入り數年間いたが、働後歸郷して自營、其後教育界に入り、小濱青年學校を経て北高長田青年學校に精勵してゐる。勤勉家として令名がある。

◎田中多久平君 長らく南洋マニラに雄飛、活躍したが目下歸郷自營である。

◎田中虎夫君 長崎刑務所書記として十有餘年精勵してゐる。寡言多くを語らざるも、頗る研究心に富み、曩きに汽車の自動制動機を發明した。獨創に富む特異の人材である。

◎田中藤吉君 郷里南高愛野小學校に教鞭を執つて爾來十有餘年、育英に従事してゐる。資性濃厚、誠實の士で、一般の信賴篤く、名訓導として聞へてゐる。

◎田口愛吉君 鹿兒島縣日置郡伊作町産業組合

に勤務、郷里の産業開發に當つてゐる。往年臺灣銀行嘉店義支に勤め、其後、臺中州北斗郡後洲庄、林本源製糖會社に入り、健闘多年業績をあげたが、家事の都合で歸省、今は郷里に在る家は地方での名望家である。

◎造酒美三君 初め北海道廳土木部土地改良課に勤務、其後、室蘭土木事務所に轉じ、更に釧路土木事務所に奉職してゐる。

◎中村正廣君 南高北有馬の素封家、終始一貫自營に努力、村の有志として重きをなしてゐる濃厚篤實、悠揚迫らざる大家の風格がある。

◎中村榮治君 農事試験練習生を経て、東彼早岐小學校に農業教員を勤めたが、辭して、實業に志し、長崎に在住する。

◎室田正人君 南高山田小學校に教鞭を執つたが、其後朝鮮に雄飛し、平安北道博川郡廳に勤め、更に義州郡廳に轉じ、十有餘年、精勵してゐる。剛放磊落、腕つ節の太い男で仕事はテキハキ捌ける。

◎野口勝太君 朝鮮平北中江鎮警察署勤務。

◎山崎千代太君 北高湯江小學校農業教員を勤め後、軍隊に入つて臺南に駐屯、退營後、鹽水港製糖壽農場に勤め後轉じて、賀田村農場に入り其後更に目的を變更して、鹽水港農業學校に奉職し今日に到る。濃厚著實な人物である。

◎山本定夫君 教員養成所及び水産講習所出身瀬戸、川原、前津吉の補習校を歴任し、現日字青年學校教諭である。資性濃厚、學究肌の人で博學多才、泰然自若として、おちついてゐる。生徒の信賴が厚い。

◎山口友四郎君 上波佐見小學校農業教員から後郷里下波佐見小學校に轉じ育英に當つた。其後辭して、自營に入り、傍ら産業組合事業に關與し、産業開發に努めてゐる。實直で、勤勉家人望がある。

◎牧瀬彦一郎君 南高土黒村長として令名がある。同村屈指の資産家で代々舊家を以て聞へてゐる。初め自村農業技手を勤めたが後家事の都

合で辭め、肥料販賣に努めた。其後村會議員に押され、村政に參劃したが、遂に衆望を負ふて村長の要職に就いた。資性濃厚にして聰明、至誠の人で敵がない。政争免れざる村治の上に、よく圓滿に掉して行く手腕は老巧なもの、將來を期待されてゐる。

◎松添健次君 東彼上波佐見の人、自營。

◎牧島利一郎君 初め臺灣に航したが、間もなく歸國、西彼長與小學校教員を勤め、後長崎監獄書記に轉じた。其後朝鮮に發展し、現に江原道原州郡廳産業技手として活躍してゐる。

◎福田源一君 本縣穀物検査所壹岐出張所長として納まつてゐる。農商務省農事試験場九州支場見習生を修了して佐賀縣小城郡三里村農會枝手となり、後東彼上波佐見村農會に轉じた。其後東彼郡農會に入り續いて對島支廳農林技手に拔擢され穀物検査實施と共に平戸出張所長に任ぜられ更に壹岐所長となつた。體軀堂々動ぜざること山の如く、一見凡にして非凡、鈍に似て



鋭、不得要領の裡に要領を得、度量あり、手腕あり、よく儕輩を壓して行く處大したものだ。痛快な男である。

- ◎福田安一君 西彼喜々津の人、成績優秀組の一人だ。初め北松柚木小學校農業教員を勤めたが後南洋に發展した。居ること數年、多大の業果を得て歸郷、今は専ら、自營に精勵してゐる。
- ◎兒玉高郎君 鹿兒島縣串木野出身、學生時代優等生である。學校を出ると臺灣に雄飛、臺灣島樹庄東洋製糖農場に入り、爾來二十有餘年精勵して、現在明治製糖、島樹林農場主任として活躍してゐる。溫厚篤實、穎悟聰明、誠に懇勤にして和平、友情厚く、よく部下をいたわり業績をあげてゐる。會社の至寶とされてゐる。
- ◎幸田喜久雄君 南高守山村助役として、自村の發展に努力してゐる。初め暫く自營したが後村役場に勤め、収入役から次いで助役に推された。資性溫厚、圓滿なる人格の士で、信望郷關に高い。學校時代、優秀生の一人である。

南埼玉農會技手に轉じ、爾來精勵努力數年、大に名聲を馳せた、後家事の都合で歸郷、今は専ら家政に當つてゐる。資性、溫厚、實直、農政に對する識見頗る該博なるものがある。主張又堂々一家の見を有する。

- ◎佐藤善平君 母校助手から北諫早村農會技手となり、後諫早町農會技手となつた。精勵十有餘年、多大の業績を残して、郷里小栗村農會に轉じた。性、剛直機を見る敏、經濟的手腕あり最近小栗産業組合の發展に努力してゐる。縣下有數な農界の鬪士である。

- ◎佐田三作君 卒業後南洋に發展し、奮闘幾年よく業果を收めて歸國した。爾來郷里江ノ浦に在つて自營に没頭し、尙マオラン其他各種の事業にも手を出して活動してゐる。敏活な事業家である。

- ◎里森吉壽君 北松調川小學校首席訓導として令名を馳せてゐる。初め今福小學校農業教員を勤めたが、後師範二部に入つて、金泊を付け、

- ◎天雨泉三郎君 教育界に入つて十有餘年、北松宇久、大野、佐々、小佐々を歴任し専ら青年教育に當つたが、今は勇退して自營してゐる。溫厚な勤勉家である。

- ◎佐藤長藏君 小栗村の徳望家、學校を出ると師範二部に入り、卒へて諫早小學校に教鞭を執つた。爾來精勵格勤、名訓導の名を馳せ、後郷里小栗村に轉じた。最近再び諫早小學校首席訓導として迎へられ敏腕を振つてゐる。溫厚篤實聰明穎悟、よく陶冶された人格の士で、前途有爲の小壯教育家として期待されてゐる。

- ◎松尾篤君 南高多比良町の舊家出である。學校を卒へると、家業肥料商を営んだが、其後役場に入つて勸業方面の事務を司つて居る。謹直至誠の人である。

- ◎酒井久雄君 南高西郷の人、學校を出ると、佐賀縣藤津郡能古見小學校に勤め、後教鞭を捨て、農商務省農事試験場九州支場に入つた。修了後、北高來郡農會技手となり、次いで埼玉縣

御厨、上志佐、田平の諸校を経て調川校首席に轉じた。溫厚篤實極めて優雅な貴公子型で常に春風の感を人に抱かしめる。福徳圓滿の先生である。

- ◎佐藤秀風君 暫く母校助手を勤めたが、後田結小學校に教鞭を執つた。爾來、有喜、小栗、古賀、本野、鳥島の諸校を経て小栗校に在る。實直で地味な勤勉家である。

- ◎三浦基君 臺灣大日本製糖島日製糖所農場本部主任技手として、三千餘町歩の農場總監督の重要な地位に在る。學生時代から、體軀堂々たる偉丈夫、學業共に優秀、學校を出ると母校助手として居残り、二年餘り腕を鍛へて、軍隊に入り、退營後、すぐ臺灣に雄飛し、嘉義東洋製糖に入り、次いで會社の合同と共に大日本製糖に所屬し、精勵二十餘年、今や非凡の才能を認められ、多くの儕輩を壓して、斷然今日の榮位をかち得た。六尺豊かな快男子、剛腹果敢、頭腦明晰、加ふるに豊き人間味があり、よく幾百



の部下を統御してゐる。開拓者としての模範的人材である。鹿兒島縣申木野出身。

◎宮崎基四郎君 長崎縣立島原高等女學校教諭として令名を馳せてゐる。最初學校を出ると、笈を負ふて上京。麻布獸醫學校に入つたが、都合によつて中途退學、歸郷して、北松紐差小學校に教鞭を執り、次いで北高湯江小學校に轉じた。其後再び上京、麻布區東町小學校に奉職し、夜は日本大學の夜間部に通ひ、震災直後のあらゆる困難と戦ひつゝ、苦闘遂に國漢の檢定試験を見事通過した。それから錦を飾つて歸郷、縣立五島高等女學校教諭として赴任、昨年島原高女に榮轉した。資性温厚、博學宏才、誠實勤勉の士で、又一面温き人情美があり子弟の信望を一身にあつめて居る。敬愛すべき人格の士である。

◎壽柳伸一君 本縣農事試驗場練習生を経て、西彼茂木町農會技手を勤め、後轉向して小江補習校に入り、壹岐香椎村翠霞小學校石田青年校

を経て沼津青年校に轉じ今日に到つた。温厚實直な勤勉家で手腕あり、力量あり、農村教育界稀れに見る師表である。

◎久松津多衛君 西彼三重小學校に教鞭を執つたが、後南洋に航し、シンガポールに活躍すること多年、多くの業果をあげて、歸國した。爾來自營に精進し、村の中堅として公共のため盡してゐる。氣宇潤達、進取的氣象に富み、業界の戰士として好評がある。

◎平井保男君 長崎市出身、一時北松志々岐小學校に教鞭を執つたが辭して、三菱造船所に入り、後、三菱航空機株式會社名古屋製作所に轉じて今日に到る。温和實直研究心に富み技術家に必要な細密な素質を持つてゐる。適材適所、毛色の異つた人材である。

◎廣田香苗君 農商務省興津園藝試驗場練習生を経て、鹿兒島楫宿郡役所に入り、後鹿兒島縣農會に轉じ、薩南の農界に盡すこと實に二十餘年、多大の業果をあげ今や確乎たる地盤を作つ

◎岩崎 涉君 鹿兒島縣肝屬郡西申良村出身自營。

◎井元實行君 鹿兒島縣師範二部出身、同縣噺喉郡西志布志村蓬原小學校、大崎小學校を経て肝屬郡始良小學校訓導として精勵してゐる。謹直温厚の先生である。

◎諫見 勝君 學校卒業後北高深海小學校に奉職し爾來小野、田結、小江等の諸校を経て長里小學校主席訓導として精勵してゐる。頭腦明晰學究肌の秀逸、謹直清簾の士である。

◎原田早苗君 初め北松御厨小學校に教鞭を執つた後、師範二部に入り卒業後、小長井、諫早第一、湯江の各校を経て、長田小學校訓導として精勵してゐる。温厚篤實、謙讓の士で一般の信賴を得てゐる。

◎林田丑間君 卒業後諫早銀行に入り、爾來十有餘年よく實直に精勵し、拔擢されて、小濱支店長及び喜々津支店長を歴任しよく金融界の難局を切り抜けて任を完了した。現在再び本店詰め

てゐる。最近では、薩摩物産の滿洲進出に乗り出し潑刺たる躍進振りを見せてゐる。圓熟せる常識、加ふるに經濟的手腕あり、鹿兒島產業界の中心人物として重きをなしてゐる。

◎森 進君 北松南田平實業青年學校長として光つてゐる。初め學校を出ると直に平戸小學校に勤め、後一年志願兵として軍務についた。成績優秀、歩兵中尉である。歸郷後世知原補習學校に勤め、爾來、上志佐、今福、柚木の各校を歴任し、昨年、現學校長の榮職についた。學業手腕、共に優秀、幾度か當局から表彰を受けた質實にして剛健、識見常に時流を抜いて超然たる處があり、朴訥な簡素生活の裡に人間處世の妙諦を會得してゐる。本縣青年教育界の重鎮である。

### 第八回卒業

(大正六年) 五〇名



として重要な席に在る。資性温厚、極めて謙退、事務に當つて眞摯、責任感の強い人で頗る信用を得てゐる。

◎馬場重雄君 北松中里村の人、自營。

◎原田勇太郎君 初め郷里北高江ノ浦小學校に教鞭を執り、後同村農會技手に轉じた。爾來精勵幾年、よく業績をあげたが、後職を辭して開墾事業に志し、奮闘努力よく十餘町歩を開拓し枇杷、柑橘等を栽培した。事業完成後再び出て有喜村農會に勤め、敏腕を揮つたが、後長崎大農貿易會社に入り、海外貿易に當つてゐる。資性英邁才氣横溢經濟知識に長け、面も對應流るが如く、圓轉無碍の外交手腕があり實業界の新進として將來を囑目されてゐる。

◎馬場潤君(舊姓金子) 初め臺灣宜蘭廳公共坡埠聯合會に入り、次いで、臺北頭園米穀検査所技手に轉じ、更に臺南州斗六郡斗南庄、高雄州検査出張所を経て宜蘭郡廳に轉じた。後、家事の都合で郷里に引上げ、今は小濱町役場に入り

觀光係主任として國立公園雲仙小濱の宣傳に努めてゐる。温和の氣に富み、蟠りのない、淡々たる風格の士で、人間はよく洗練されてゐる。

◎橋本厚海君 初め北高有喜小學校に教鞭を執り、後本野小學校に轉じ精勵十餘年名訓導として令名がある。温厚篤實勤勉の士である。

◎林田 貢君 南高土黒村出身、卒業後軍隊生活了へて山田村農會に入り農村指導に當つた。滿洲建國直後、新京關東軍司令部功績班に入り後黑龍江省實業廳農林課に轉じ、現在黑龍江省立農事試驗場に勤務してゐる。性剛毅銳進、氣骨稜々の快男子である。けれども又一面情にもろく、人間味豊かなところがある。體軀頑丈、輻重兵少尉の古兵。滿蒙開拓には詭向きである。

◎西川武治君 長崎農學が生める、唯一の童謡作家である。學校を出で、母校助手となり、次いで北高本野小學校に教鞭を執り爾來諫早第一小學、佐世保夜間中學、白南風小學を経て今長田小學校訓導である。資性温厚、國文學に長

じ情操豊かな詩歌、童謡を發表して常に文壇を賑はしてゐる。特異な田園詩人である。

◎堀池鎮雄君 本縣青年教育界の功勞者として幾度びか當局に表彰された代表的人物である。

初め、國立蠶業試驗場熊本支場見習生となり次いで朝鮮總督府水原勸業模範場蠶業研究生として實地を修得し終了後、北高、北諫早村蠶業技術員となつた。次いで北松郡役所に轉じたが後教育界に志し、大島補習學校に教鞭を執つた。爾來、一村の産業開發に全力を盡し、殊に麥の黒穂豫防に成功して島民の信頼を博し、一躍名聲をあげた。其後南田平高等國民學校長となり次いで竹松實業青年學校長に轉じ、今日に到つた。資性聰明、博學宏才、識見常に俗流を抜く剛腹にして思慮あり、體軀又堂々として風采一段の重きを加ふ。輪廓の太い男、當代稀に見る偉材である。

◎陣野勇三君 朝鮮慶尙北道阿火陣野醫院長として半島刀圭界に活躍する種變りの人材である

初め學校を出ると、佐賀縣藤津郡鹽田小學校に教鞭を執り、次いで北高田結、江ノ浦校を経て郷里小栗村、土師ノ尾小學校に勤務した。この間寸暇を惜しんで、醫學を研究し獨學自習あらゆる困難を克服し、遂に醫術檢定試験を通過、開業醫の免許を得て朝鮮慶北阿火に醫院を開き仁術を施してゐる。資性温厚、恭謙にして驕らず、博愛義侠よく患者の信頼を得てゐる。蓋し異彩ある立身傳中の逸材である。

◎小川廣作君 初め朝鮮總督府水原勸業模範場に入つて實務を練習し、後、總督府咸鏡南道德源種苗場に勤務、次いで咸鏡公立農學校を経て咸興農業學校に轉じ精勵格勤今日に到つた。

◎勝山喜久間君 諫早町勝山製網所を經營し精勵一貫、隆昌を示してゐる。頭腦明敏經濟的手腕あり將來ある青年實業家として期待されてゐる。

◎金原卓治君 師範二部出身、北松南田平小學校を振出しに、北高湯江、長田、深海、北松福島の各校を経て、世知原開知小學校主席訓導と



して精勵してゐる。資性温厚篤學の士で、神佛敬信の念に厚く、清麗潔白、眞に敬愛すべき人格の士である。

◎神田幸男君 北松今福青年學校教諭として令名がある。卒業後北松鷹島小學校農業教員となり、北松浦郡農事試験場に入った。間もなく一年志願兵として軍隊へ入り、成績優秀、任官歸郷して再び教鞭を執り、生月、中里、小江の各校を歴任して北松今福青年學校教諭となつた。性豪毅果敢、嚴格にして信念に生き、武人の血潮が横溢してゐる。歩兵中尉である。

◎吉田精君 母校助手から森山小學校農業教員となり、後一年志願兵として軍務につき首尾よく任官、歸郷、再び教鞭を執つて、湯江、諫早小江の青年學校教諭を勤め、よく業績をあげた。後家事の都合で辭め諫早町會議員として町の發展に盡してゐる。最近母校に教練を擔任して後進のため指揮刀を執つてゐる。歩兵中尉である。性聰明伶俐、人物として健實味がある。

願兵として重砲隊に入った。重砲兵少尉である。後、朝鮮に航し、警察界に入り、各地を歴任して、馬山署に敏腕を揮つてゐる。質實剛健、人格高潔、恩威並び合せての民衆保護に頗る人望あり、上下の信頼をあつめてゐる。

◎村上尙武君 長崎縣立農事試験場技手として養鶏部主任の椅子に在り、長崎縣養鶏組合聯合會技師として孵卵事業の一切を司配してゐる。最初、東彼下波佐見村農會技手として赴任したが後本縣農事試験場に入り、助手として勉勵、漸次成績をあげ技手に昇任し、養鶏部を擔任した。爾來幾年日夜研究努力して遂に今日の大をなして、本縣養鶏界の第一人者となつた。穎悟聰明、研究心に富み、業務に熱心で手腕力量非凡のところがある。温厚にして健實、得易からざる人材である。

◎上山篤二君 初め西彼式見小學校に教務を執り、後郷里鹿兒島に歸り、哈良郡山ヶ野小學校に勤めた。其後、宮崎營林區署に入つて、宮崎

◎淺川三郎君(舊姓高見) 長らく朝鮮に在り實業に従事したが、最近は福岡縣直方市に在住する。

◎高山省三君 初め北松宇久島小學校農業教員を勤め、轉じて志佐小學校に入り後一年志願兵として軍隊生活、成績良好、歩兵少尉である。歸郷、再び教壇に起ち、生月山田校を經、今は生月小學校訓導として勤務してゐる。温厚にして潤達、勤勉努力家として令名を得てゐる。

◎竹内 葉君 夙に教育界に志し、東彼福重小學校農業教員を振り出しに爾來、北松中野、小佐々、世知原、度島の諸校を歴任し、更に縣立五島高等女學校教諭を勤め聲名を馳せた。其後家事の都合で職を辭めたが再び教鞭を執つて、富江町盈進小學校に主席訓導を勤めてゐる。資性温厚、篤學の士である。

◎中村武雄君 朝鮮馬山警察署警部として半島警備の重職にある。卒業後南洋に發展し、シンガポールに活躍したが、兵役のため歸郷一年志願

熊本の各事業區を歴任し、現在、熊本營林區署久木野擔當區に在勤してゐる。篤實なる勤勉家である。

◎熊澤 正君 北松福島村の名門で、先代は平戸藩の重臣、福島の開拓使であつた。君、學校時代より學業優秀、業を卒へると、農商務省幾内支場見習生として入り、卒へて福岡縣立農事試験場技手に任ぜられ大に敏腕を揮つた。其後家事の都合で辭めて歸郷、自營に當り傍ら郷里養源補習校に教鞭を執り次いで農會に轉じて産業開發の第一線に起つてゐる。資性温厚玉の如く、容姿端然として貴公子の倂がある。英邁にして博識、よく農政に通ず。隠れたる農界の逸材である。

◎山口富雄君 西彼白似田小學校を振出しに教育界に入り、川棚校を農て、郷里下波佐見實業青年學校教諭として勤めてゐる。温厚篤實、精勵格勤の士として信望がある。

◎山口雅信君 初め母校助手を勤め後軍隊に入



り、歸郷後、北高本野小學校に教鞭を執つた。次いで諫早第一、眞津山、眞崎校を経て、古賀小學校訓導となつた。温厚、勤勉、郷黨に厚くよく衆望を得てゐる。

◎藤川 茂君 東彼川棚青年學校教諭として高評がある。始め農事試験場練習生となり卒へて郷里鈴田村小學校農業教員を務めたが辭めて補習學校教員養成所に入り、金泊を著けて、川棚補習校に赴任した。爾來十有餘年一日の如く、精勤努力、よく業績をあげて今日に到つた。温厚にして謹嚴、努めて倦まざる勤勉の士で、幾度か教育功勞者として表彰された。優秀なる師表である。

◎藤崎清太郎君(舊姓幾度) 對島の人、成績優秀を以て、學校を卒業し、對島皆勝小學校に農業教鞭を執り次いで對島島農會技手に榮進した。爾來十有餘年、或は産業指導員として、或は産業講習所教師として奮闘、對島産業史上赫々たる功績を残したが、家事の都合で勇退自營し

た。其後、再び郷人に押されて嚴原町農會に入り更に島廳農會に轉じた。性、穎悟聰明、博識にして時事に通じ、清廉潔白、剛直の士である。

◎藤江忠一君 折尾瀬小學校農業教員を振り出しに、大村小學校、壹岐郡立農事講習所、南松浦郡農業技手を経て本縣農林課に入り、轉じて兵庫縣農林主事として赴任した。才子肌の男で事務的才幹があり、處世道にかけては一種特別の精妙さがあるといはれてゐる。

◎近藤常雄君 郷里中里村農會技手として大に事蹟をあげたが辭して、自營し、其後再び出て對島佐須村農會に入り大に健闘した。最近再び郷里に自營してゐる。勤勉力行の士である。

◎秋丸 巖君 鹿兒島の人、消息不明。

◎崔季淳君 朝鮮濟州島の名門、先代は知事の顯職にあつた。初めは郷里にあつて教育に従事した。人物手腕顯はれ、後濟州邑長の重職についた。精勵多年大に治績をあげたが、今は勇退して専ら子弟育英に當つてゐる。温厚篤實、長者の風

格を有し情操豊かな徳望の士である。

◎峰 定知君 初め東彼折尾瀬小學校農業教員を勤め、後臺灣高雄州鳳山郡後壁林臺灣製糖農場に入つた。居ること三年、家事の都合で呼び戻され、農業教員養我所に入り、卒へて、北高小長井補習校に赴任、次いで、東彼折尾瀬、崎針尾を経て、萱瀬青年學校教諭となつた。温厚篤實、些の蟠りなく、實直其ものである。研究心に富み養鶏智識頗る該博。好個青年の良師表である。

◎御手洗與君 對馬佐須奈出身、消息不明。

◎島田秀男君 卒業後直に教育界に入る。北松大島小學校より、北高島島、田細、小野を経歴し、鳥島校訓導として精勤してゐる。資性剛直勤行の士である。

◎鹽見前延君 農事試験場練習生から助手を経て、南松福江町農業技手を勤め、爾來、下波佐見、小野、時津の各地農會を歴任、今郷里雪ノ浦農會に在る。英敏にして常識に長け、經濟的

手腕に秀でて居る。氣骨あり所信に向つて敢然邁進するの勇がある。農界の闘士だ。

◎新宮與太郎君 早くより教育界に入つて、北高深海、小長井、小江、湯江の訓導を勤め、中途臺灣に發展して、臺南永康公學校に在つたが再び歸郷して現在湯江校訓導を務めてゐる。温良恭謙勤勉努力の士である。

◎世知原修吉郎君 學校時代優秀生であつた。卒業後専ら自營に精進した。最近穀物検査員として奮勵してゐる。村の中堅をなす眞の農業戰士である。

◎吉富新一君(舊姓末永) 始め北松上志佐村農業技手を勤めたが後轉向して、師範二部に入つた。卒業すると吉井村福井補習校に教鞭を執つたが、暫くにして辭め、上京して東洋大學に入り、専心勉強した。錦衣歸郷。今は長崎鶴鳴高等女學校教諭として令名がある。温厚にして英邁、篤學の士で、子弟の敬仰を得てゐる。

◎菅原紀思夫君 學校を出るや、朝鮮水原東山



農場に入つて、大に働いたが、家事の都合で歸郷、大草郵便局に入つた。爾來十年一日の如く遞信事務に邁進し大草郵便局長として光つてゐる。尙、傍ら柑橘園を經營し、優秀な成績をあげてゐる。快活明朗、極めて淡白な好人物、村の有志として重きをなしてゐる。

### 第九回卒業

(大正七年) 五六名

◎稻葉正行君 南高千々石の名士である。學校を出ると、すぐ郷里の農會に入り、爾來二十有餘年、一日の如く精勵して居る。資性濃厚至誠一貫よく村の爲めに活動して居る。罕に見る農界の先達である。

◎池田愛七君 北松世知原小學校農業教員を振り出し、小佐々農會、小江校、茂木農會、湯江校、本野校を歴任し、現在壹岐田河青年學校教諭として、献身的努力を續けゐる。頭腦明晰

頗る霸氣あり正義剛直の士である。

◎橋本常雄君 早くより教育界に志し、長田、諫早、森山校を経て、有喜小學校首席訓導である。師範專攻科出身。資性濃厚篤實、英遭にして業務に對し頗る熱誠、一般の信望を得、將來の進境を約束された新進であ。

◎西村友圓君 初め北高有喜小學校に教務を執り、次いで日見農會技手に轉したが、辭して上京、東京千駄ヶ谷小學校訓導として進出した。現在は東京中野に在住する。

◎西山豊太君 始め小値賀小學校に奉職したが後辭めて、朝鮮警察界に入り、數年を半島警備に捧げた。現在は勇退して歸郷自營である。

◎西山利勝君 西彼瀬川青年學校に教鞭を執り、命名を馳せてゐる。學校卒業後一年志願兵として軍務につき歩兵中尉に累進す。後、瀬川補習校に勤め爾來勤續十餘年、多大の成績をあげ今日に到つた。剛毅果敢、才氣横溢、職務に忠實で、村民の絶大な信賴を得てゐる。

◎本田 要君 京都府殖産課産業技師として重要な地位に在る。鹿兒島高等農林出身、諫早農學時代よりの秀逸、高農を出て、農商務省畜産試験場技手を勤め、爾來、愛知縣立農事試験場技手、農商務省熊本種畜場技手、大分縣農林技師を経て、京都府産業技師と榮進した。頭腦明晰極めて眞摯な學究肌の人、濃厚な人格者である。南高口ノ津の出身である。

◎富崎八重光君 南松富江町農會技手として令名がある。剛毅にして果敢、識見あり、手腕あり、本縣農界の中堅人物である。初め農事試験場練習生から福重小學校農業教員となり、次いで宮村福重の農會で十有餘年の健闘を経て現在に到つた。僻遠の一小天地に配するにはあまりに惜しい人材だ。

◎朝永俊市君 北松世知原村収入役として、村治の樞機を握つてゐる。村での名望家、野砲兵少尉である。

◎朝永安馬君(舊姓藤川) 師範二部出身、西大

村、大村の諸校を経て、千綿小學校主席訓導として精勤してゐる。評判はよろしい。

◎徳住新一君 朝鮮京城東洋專門協會學校出身久留米五五聯隊主計を経て、京城府漢城銀行に入り、本町支店次席から南大門支店長となり、敏腕を揮つた。最近銀行を辭し酸素工業株式會社創設に奔走してゐる。近く半島事業界に名乗りを上げるだらう。前途有爲の青年實業家だ。

◎大坪 豊君 南松岐宿の名士である。初め有川補習學校に教鞭を執り、次いで、富江補習學校に轉じ、爾來、拮据勉勵十有餘年富江青年學校長として今日に到る。濃厚篤實、清廉潔白、又體驅堂々として一見長者の如く郷村の信望を一身にあつめてゐる。曩きに教育功勞者として表彰された。

◎渡部直市君 卒業以來終始一貫自營農業に邁進してゐる。志操堅實、勤勉努力、精農家として模範的戰士、北高小長井村の中堅である。

◎龜川富雄君 南松福江町郊外に農場を經營し



果樹花卉等を栽培し相當成績をあげてゐる。初めから自營で弊衣破帽、自ら車を挽いて生産物の販賣に市場に出かける。感心なものだ。濃厚篤實、誠實勤勉、信念に生きる眞の勇士である。

◎川野龍雄君 北高小長井村の人、初め長崎朝日町小學校に教鞭を執り、後轉じて南大浦小學校に入り訓導として精勤してゐる。濃厚篤實勤勉家として聞へてゐる。

◎吉永源八郎君 九州支場見習生を修了、郷里佐賀縣西松浦郡二里村農業技手となつた。後志を變じて、本縣教員養成所に入り、卒へて二里補習校に勤め、現在伊萬里青年學校教諭である。學生時代から學業優秀の逸材、人物、手腕共にしつかりしてゐる。家は村での名望家である。

◎高名麒久雄君 師範二部出身、北高小江、小野、森山校を経て、諫早第一小學校主席訓導である。濃厚篤實、勤勉家、親切な先生として子弟から敬慕されてゐる。

◎高井佐彌太君 初め北松大島農業教員となり、

其後自營に入り、爾來精農家として奮闘してゐる。

◎辻 頼道君 初め北松長坂補習校の農業教員を勤め、後軍隊に入つて一年志願兵の小尉となつた。其後朝鮮に發展釜山公立中學校の書記を拜命暫く辛棒したが先年慶尙南道金海郡に轉じ洛東の江畔大沃野で産業開發に努力してゐる。至誠的人物である。北松佐々村出身。

◎内田 保君 長らく朝鮮警察界に在り國境警備に當つたが辭めて鐵原不二農場に入り奮闘した。其後家事の都合で歸國、北高湯江村農業技手となり、更に北松小値賀村農會に轉じた。從順で卒直、人物は几帳面で、氣一本の男である。

◎浦 猛君 北高有喜村自營

◎山下利徳君 鹿兒島縣谷山町出身學校を卒へて、暫く北松志々岐小學校に教鞭を執つた。後一年志願兵として軍隊に入つた。成績優秀、任官して歸郷、専ら家治に當つた郷黨に推され谷山町青年學校教諭として育英に當つてゐる。體驅

後教員養成所に入り、卒へて稻佐小學校に勤めた。其後勝山校を経て今、龍ノ浦小學校に在る。英敏伶俐、學究肌の才子、名訓導である。

◎立石俊一君 北松世知原村篤農家、卒業以來一貫して農業經營に精進、眞個農界の戰士として銃後の護りに、張り切つてゐる。

◎立石菊雄君 岐阜名和昆蟲研究所出身、研究を了へて、教育界に入り、北松志佐、大野下波佐見校を経て、北松佐々村口石青年學校教諭として聲望を得てゐる。實直勤勉、學究肌の人、人物はしつかりしてゐる。

◎田川敬六君 最初江ノ浦小學校教員を勤め、後志を轉じ朝鮮全羅北道益山郡五山里不二興業會社農場に入つた。其後鐵原農場を経て、平北龍川郡府羅面不二西鮮農場に榮轉支配人として小作田管理指導等の一切を司つてゐる。勤勉努力家で中々の敏腕家、北高小江の出身である。

◎辻準一郎君 北松吉井村の人、始め郷里の農會に勤めたが後轉じて、補習校に教鞭を執つた

堂々二十餘貫の偉大丈、資性、豪放磊落、溫和明朗で人觸りがよく、郷關では「今西郷どん」に綽名がある。在郷軍人分會長として郷軍を統轄し、青年訓練官として後進を指導してゐる。功績顯著幾度びか當局から表彰を受けてゐる。陸軍歩兵中尉で、出で、は國家の干城たり、入つては郷關の師表眞に立派な農村の統帥である。

◎山口狂介君 一時朝鮮拓殖會社に在つたが最近の消息不明。

◎山本 保君 南高千々石町の有志、前長崎縣會議員として政黨華やかなりし時代の寵兒であるが今は時を得ず靜かに雌伏してゐる。明治大學政治科出身千々石町會の花形である。軀幹長大、容貌魁偉、直情逕行で苟も他に屈するを好まず、常に政界の情弊を指摘し、三寸不爛の快舌を揮つて、猛虎の如く咆哮する、正に一世の壯觀である。そこに快男子山本の面目趨如たるものがある。偉い男だ。



- ◎山崎 勇君 佐賀縣藤津郡壺田村自營。
- ◎矢内宗武君 東京花王石鹼本舗長瀬商會に在り實業に従事してゐる。
- ◎松本 榮君 早くより教育界に入り初め鹿町を振出しに、黒嶋、相ノ浦、等を経て津吉小學校訓導として現在に到る。前後二十餘年間の勤績功勞者である。資性温厚、實直謹行の士北松黒島出身である。
- ◎松尾熊四郎君 佐賀縣杵島郡若木村小學校教員から轉じて、佐賀縣耕地整理課に入り、精勵して技手となり、更に熊本縣耕地課に轉じ、農林技手として活躍してゐる。人物手腕共に好評がある。
- ◎松尾肥富君 北高古賀村の篤農家園藝業に努力し業蹟をあげてゐる。温厚誠實勤勉家で一般の信用を得てゐる。
- ◎牧島市左工門君 日宇小學校教員より、長崎市役所に入り、後、臺灣に發展した。最近は大連に在つて、法律事務を取扱つてゐる。資性敏

- 活、才氣縦横、よく社會通念に明るい。型の變つた人物である。
- ◎藤田長生君 多年長崎市山里藤田果樹園を経営し大に奮闘したが其後癩めて和歌山縣宇須高松に轉住してゐる。
- ◎藤宮宗成君(舊姓鮫島) 長崎縣立農學校教諭である。初め學校を出ると、北松山口小學校教員となり爾來、福島村養源補習學校、佐賀縣杵島郡若木補習學校、武雄補習學校、牛津補習學校等を歴任、其間中等教員檢定に合格して、母校に迎へられ今日に到つた。才子である。
- ◎古川徳身君 縣立農事試驗場練習生終了後軍隊に入り歸郷後、北高小江、小野村等の農業技手を勤め次いで縣農會に入り技手として敏腕を揮つてゐる。謹直誠實の士で信望がある。輕重兵少尉郷軍の精銳である。
- ◎香田豊太君 長崎縣立大村中學校教諭として博學宏才の譽れが高い。北松山起小學校農業教員より身を起し、喜々津小學校に轉じ此間獨學

- 勉勵、遂に中等教員檢定を通過し大村中學校に博物を擔任す、罷勉倦まざる努力家で又、温和明快な人格の士である。
- ◎小嶺幸彦君 曩きに南高有家第一小學校訓導として多年精勤業蹟を残したが、今や勇退して家政に當つてゐる。温厚篤實、有家町の有力者として郷關に重きをなしてゐる。
- ◎御所良一君 北高小江青年學校教諭として令名がある。學校卒業後、上波佐見、鹿町、生月山田、佐々口石の諸校を經歷し、今日に到つた至誠一貫十年一日の如く育英に精進し、多く貢獻をして來た努力家賦性温良清簾の士である。
- ◎佐藤孝男君 初め本縣農事試驗場練習生から昇進して技手に任用された。其後佐賀縣に向大に敏腕を揮つたが、再び本縣に歸つて、北松中里村農會に入り、次いで東彼上波佐見村農會に轉じ、縦横無碍の手腕を伸べた。業蹟認められて縣に入り、南松支廳へと榮轉し五島産業開

- 發に當つた。偶々家事の都合で退職自營してゐる。剛放磊落屑々たる些事にこだわらぬ男便々たる太鼓腹を叩いて談笑の裡に萬事を處斷して行く手際は鮮かなもの、清濁併せ呑む度量がある。線の太い一種の人材だ。
- ◎七種精雄君 朝鮮慶尙南道廳技手として、半島産業開發に當てる。始め郷里黒島村役場に勤め後、彼杵村農會技手となり、次いで大村町農會に轉じた。其後、朝鮮昌原郡技手に就任し、數年にして、慶尙南道産業技手を経て更に慶尙南道技手に榮進し、今日に到つた。人物手腕共に高評がある。
- ◎佐々野伴次郎君 南松大濱小學校教員から起ち佐世村農會、奈留島小學校等を歴任し富江小學校訓導として今日に到つた。温厚實直の先生として好評を得てゐる。
- ◎金元 鐘君 朝鮮濟州島の人、初め全羅南道彌島公立普通學校に教鞭を執り、後大靜、長興濟州、等の各校を歴任し、次いで、水原高等農



(大正八年) 六八名

林實業教員養成所に入り、卒業後順天を経て、珍島郡公立普通學校に轉補今日に到つた。誠實勤勉の士で半島教育界の新進である。

◎重村重二君 鹿兒島縣出身、母校助手を経て鹿兒島縣西志布志補習校、財部公民學校、指宿青年學校教員を歴任し、現在今和泉青年學校教諭を勤めてゐる。人物手腕共に高評を博してゐる。

◎柴田鹿男君(舊姓森) 南高三會村出身。後長崎柴田家を繼ぎ、酒醬油等の卸商を經營し誠實勤勉を以て世の信用を博し、今や少壯實業家として崎陽業界に潑刺たる活躍を續けてゐる。

◎森勝 已君 西彼喜々津の精農家出身、初め農會に勤め穀物検査に従事したが、轉じて教育界に入り、大草青年校を経て茂木町早坂青年學校教諭を勤めてゐる。温厚篤實頗る勤勉家で養鶏の知識が深い好個農村青年の指導者である。

## 第十回卒業

◎岩元榮一君 臺灣臺南州産業技手として東石郡に駐在してゐる。初め斗南の雄志を抱いて臺灣に航しまづ臺南州農會育種場に入つた。それから漸次成績をあげて北港郡役所技手となり、更に臺南州産業技手に果進し臺灣唯一の穀倉東石郡に駐在今日に到つた。體軀堂々鋼鐵の如く、豪毅磊落、よく談じよく飲む。痛快無比の快男子で渡臺以來、十有八年末だ一度も、故郷に歸つた事はない物の豊かな南の國、紅い爽竹桃の咲く朴子の里で艶麗花の如き夫人と共にいとも平和なホームを作つて力一ぱい働いて居る。眞に海外發展者の代表戦士だ。

◎池田末市君(舊姓山口) 初め西彼瀬川小學校教員となり次いで北松志佐を経て、山田小學校に轉じた。精勵格勤十有餘年、名訓導として好評を得てゐる。北高小野村出身、温厚實直の先生である。

◎羽佐古多喜治君 對島支廳農林主事補として蠶業指導に當つてゐる。最初東彼宮村農業技手を勤めたが後東京に遊學し京都府農林課蠶業係を経て本縣に歸つた。東彼松原出身實直勤勉の士と噂されてゐる。

◎荒木寅太郎君 曩きに北高森山村農會技手として、勤績大に盡す處があつたが、其後勇退して村會に出で、農村振興に努めてゐる。最近再び、穀物検査員として山田村に通勤してゐる。謹嚴卒直、眞面目な人物である。

◎西村一九君 北高有喜村自營。

◎邊勇 元君 朝鮮濟州島の人、學校を出ると故郷濟州島廳に入り、爾來十餘年専ら産業指導の任に當つてゐる。

◎大野音一君 初め長崎刑務所看守を勤め後上京して法律を研究した。其後臺灣臺北地方院宜蘭支部に勤務したが數年にして辭し、今は花蓮港で、法律事務の仕事をやつてゐる。開放磊落才智に長けた敏腕家として、聞へてゐる。

◎渡邊秀三郎君(舊姓山室) 佐賀縣立牛津中學校教諭、博物學の大家として令名がある。學校を出ると、今福補習學校に教鞭を執り、後、佐賀縣有田實業補習學校に轉じた。此の間、刻苦精勵、中等教員檢定試験を通過し、一躍して、廣島縣立庄原實業學校教諭に榮轉し、更に滋賀縣立今津中學校佐賀縣立武雄中學校を経て牛津中學校教諭となつた。資性温厚篤學の士で人格圓滿罕に見る先達として敬慕されてゐる。

◎渡邊仁三郎君 大阪府豊能郡東能勢青年學校教諭として令名がある初め母校助手を勤め次いで北松皆瀬小學校農業教員となり、後長坂世知原、波佐見の各補習校を歴任し、大に業績をあげ教育功勞者として表彰された。偶々大阪府より、實業教員の招聘あるや拔擢されて、現在に到つた。性俊敏世事に通じ、社交に長け、事業經營には非凡の手腕を有つてゐる。今や關西實業教育界の新人として才華煥發、巨星の如く光つてゐる。



◎金澤比良技君 卒業後朝鮮總督府茂山營林支廠、長州棉作業場に入り、其後、長沙得作業場に轉勤精勵したが、最近勇退して歸郷、小濱に自營中である。

◎吉川政市君 滿鐵公主嶺農事試驗場技師畜産課獸醫部主任として最も重要な職責にある。東彼大村の出身、諫早農學及び盛岡高等農林を優等で卒業し、更に北海道農科大學に入り、黒澤博士に師事して獸醫學の蘊奥を極め、後滿鐵公主嶺農事試驗場に入つた。爾來十有餘年一意専心。畜産研究室に立て籠つて刻苦精勵漸次地歩を占め、今日の榮位に進んだ。資性溫良、穎悟聰明研究心に富みこれ迄多くの學說を發表し貴重な資料を世に提供した。新興滿洲産業の母體である、畜産業の開發に最も重要な役割を務めて來た。時局展開と共に更に君の其前途は大多の期待を以て矚目されてゐる。

◎吉原 實君 臺灣總督府技手殖産局高雄州屏東萬丹鳳梨種苗養成所主任である。初め臺北州

羅東章林作業場に入り、次いで總督府中央研究所嘉義農事試驗場に轉じ、其後殖産局高雄州鳳梨種苗養成所を経て、現地位に拔擢された。風もなくジリ／＼と照る南國眞夏のバイン畑は、じつとして居つても流汗三斗、實に暑い。君はこの苦熱の裡に、よく奮闘して何百町歩かの農場監督に拔目なく馳驅してゐる。堂々鋼鐵の如き偉丈夫であればこそ、この大事業が出来るのだ、資性溫厚よく、部下を愛し、事業を愛し、人と交る極めて謙讓、頗る上下の信頼を集めてゐる、海外雄飛に詠へ向きの材幹である。

◎吉崎實之助君 西彼西浦上農業技手から、長崎市坂本町長崎縣立開成學園教員となり、後式見補習校に轉じた。其後群馬縣立群馬學園教諭に榮轉したが、程經て歸郷長里小學校に教鞭を執つた。其後勇退して自營。溫厚篤實の士として知られてゐる。

◎高見林君 初め北松楠栖小學校に教鞭を執つたが、後、教員養成所に入り、卒へて北高古賀

補習校に勤めた。其後郷里湯江校を経て有喜青年學校教諭として榮轉した。頭腦明俊英邁にして博學宏才、篤學の士である。

◎田中豊吾君 長崎縣農林技手として肥料検査官の要職に在る。學校を出ると、東都に遊學し、後長崎植物検査所技手となり其後更に長崎縣農林課技手として現在に到つた剛毅果敢正義の念に強く、一面研究心に富み、常に研鑽を怠らない、好個の検査官である。

◎高橋直人君 本縣農事試驗場助手から 東京肥料分析講習所に入り、卒業後鳥取縣肥料検査所技手に任せられ今日に到つた。諫早の人、溫和恭謙、精勵家として聞へてゐる。

◎早田久雄君 對島船越の有志家、學校卒業後軍隊生活を終へ、歸郷して自營に當り、其後小船越郵便局に入つて、爾來十有餘年、専ら信通事務に盡してゐる。

◎津田三義君 北米カリフォルニア、サクラメント、在住熊本縣出身。

◎中山常雄君 臺灣臺中師範學校に教鞭をとり

附屬校主事音樂の教授を兼任してゐる。初めは臺中二份埔、帝國製糖農場に入つたが、過勞健康に適せず、轉じて、臺北師範に入り、教育人となつた。豊原郡岸裡 大雅の公校學を経て、臺中師範に榮轉今日に到つた。順良溫乎閑雅な風多は人をして春風に寛ぐの思ひあらしむる。而かも音樂に興味を有し且つ天分的な情熱的詩才がある。かつて、臺灣教育會の懸賞で『南國の春』を作歌作曲して一等賞を獲得した。今や君の名は、臺灣樂壇の雄として、將又民謡の詩人として檳榔香る南國の學園に烈々若人の血を湧かしてゐる。

◎中野 元君 農事試驗場助手から、佐賀縣鹽田町小學校教員となり其後朝鮮咸鏡南道德源郡廳に奉職し、更に安邊郡廳に榮轉産業指導官となつたが、最近自營である。

◎中尾次郎治君 始め朝鮮慶尙北道尙州郡廳に勤めたが、家重の都合で歸省、郷里小野小學校



に教鞭を執つた。其後教員養成所に入り、卒へて、守山、補習校に勤め、更に眞津山校を経て東彼下波佐見實業青年學校教諭に榮轉した。資性濃厚學究肌の人で極めて眞面目な、良師である。

◎中道範治君 農事試験場練習生を経て、東彼川棚村農會に勤め數年にして辭めて自營した。其後再び出で、南有馬村役場に奉職したが最近自營に熱心してゐる。性、磊落、物に頓著せず、到つて淡懷な働き人である。

◎向井作松君 朝鮮江原道平康、東光商事株式會社平康農場支配人として潑刺たる活躍振りを見せてゐる。初め母校助手を勤め、後朝鮮に飛び出し、黃海道金川郡技手に奉職した。それから、咸鏡南道種苗場德源支場、全羅南道光州郡廳、咸平郡廳と漸次榮進したが後官海を辭し、江原道平康朝鮮煙草興業株式會社に入つた。それから漸次手腕を認められ、遂に、東光商事會社平康農場に迎へられ今日に到つた。千町歩の

小作田管理である。君資性聰明、頗る氣概あり正義剛直の士で又仁侠に富んでゐる。今や、郡會議員や學務委員等に推され、地方發展に盡力してゐる。半島に於ける立身傳中の一人だ。

◎氏福 清君 長らく郷里千綿村農會技手を勤めたが、後辭して、彼杵銀行千綿支店に入り、精勤十餘年現在大村銀行千綿支店の重鎮として光つてゐる。資性濃厚、頭腦明晰、理智に長じた經濟的の手腕家である。

◎栗林富貴男君 學生時代から痛快無比な男、學校を出ると、すぐ臺灣に飛出し、初めは臺南大目降糖業試験場に入つて働いたが、家事の都合で引き上げた。其後佐賀縣三養基郡上峰村農會技手を勤めたが、間もなく職を捨て、東都に走つた。爾來苦學力行あらゆる難關と戦ひつゝ、遂に大學を卒へ法曹界に進出した。後、滿洲電信電話株式會社に入り、更に、滿鐵總務部人事課に轉じ、最近は滿洲飛行機製作會社に在つて得意の飛躍を續けてゐる。性、開放磊落、頭腦明晰、

法理に通じ世事に長けてゐる。滿洲事業界の新進人物として明日の登場を期待されてゐる。

◎山口泰作君 東彼千綿村の精農家を以て聞へてゐる。初め、農事試験場に勤め、後西彼瀬戸補習校教員となり、次いで西大村農會技手に轉じ大に精勵したが其後勇退して専ら自營に當つてゐる。濃厚實直、村の有志として、地方に重きをなしてゐる。

◎山下俊市君 東彼松原の人、村での名望家で學校卒業後、一年志願兵として軍務につき、山砲中尉となる。爾來終始一貫自營である。資性溫良にして剛毅、家を治むる勤儉、己を律する端莊、出で、は國家の干城たり入りては郷民の中堅たり、國家非常の場合、最も有用な軍國の精銳である。

◎山田龜一君 長崎縣耕地課助手から、朝鮮忠清南道廳水利係に轉じ、爾來十年餘精勵勤績、現在は農務課に勤務、高評を得てゐる。

◎柳原政之君 臺灣、大日本製糖會社昆蟲部長

として重要な地位にある。北松鹿町の出身、諫早農學校時代から、英才を以て聞へた。卒業後岐阜名和昆蟲研究所に入り研礎六年、後臺灣總督府中央研究所臺南糖業部に入り、精勵多年、遂に糖業試験場技手に榮進、堂々頭角を現した最近、大日本製糖に迎へられ、虎尾製糖所病害蟲部長として從横の手腕を揮ふてゐる。頭腦明晰英邁曠達語學に秀で又文筆をよくし常に研究論文を發表して學界を驚かしてゐるよく談じよく飲む、明朗快潤、人に厚く衆望を集めてゐる。眞に得難き瑞穂の逸材である。

◎山浦勘利君 朝鮮郡山府水道課長の榮職にある。初め諫早を出ると、札幌農大に入り土木學を研究し、卒へて北海道土木部土地改良課に勤め、數年實地で腕を叩き上げた。それから朝鮮郡山府水道課に入り、水道設計施工監督一切を指導し今日に到つた。資性英敏、度量あり識見あり。努めて熄まざる事業家肌の男性的氣魄が横溢してゐる。加之に口八丁手八丁の豪の者、



氣の弱いものは一寸呑まれて了う。氣骨稜々たる快男子、眞に土木界の統帥として斷然重きをなしてゐる。東彼大村の出身である。

◎松尾寅一君 長崎市西浦上、篤農家として終始一貫都會園藝に精進してゐる。濃厚篤實、中々の勤勉家、郷村のためにも献身努力、眞に理想的農業戰士として信望を得てゐる。

◎松竹晃弘君 臺灣總督府專賣局技手屏東支局の醸造部主任である。初め臺中帝國製糖分析場に入り、實地研究を了へ後總督府臺北專賣局新竹出張所に入つた。次いで屏東出張所に轉じ、更に埔里出張所を経て、再び屏東支局に歸り、爾來十有餘年精勵格勤、今や酒類醸造部技手として最も重要な地位にある。資性溫厚明朗にして、人間味豊かな常識人、職掌柄役徳か、酒は百樂の長と禮賛するところ洵に堂に入つたもの眞に親むべき福徳圓滿居士である。

◎松竹義治君 長崎縣立農事試驗場助手から主事補に任用され、後朝鮮に發展し、江原道春川

種苗場に入つた。其後、江陵種苗場を経て江原道農事試驗場技手となり、よく精進したが家事の都合で勇退歸郷諫早町農會に入り、間もなく本縣農事試驗場技手に轉じた。濃厚篤實極めて眞面目な人物である。

◎松本國光君 壹岐石田村の人、初め自村農會技手を勤めたが、後軍隊に入り、退營後再び役場に入つた。後田川補習校に轉じ、次いで朝鮮京畿道驪州郡占東公立普通學校に轉出、今日に到つた。

◎松本良藏君 南高守山小學校から、有家小學校に轉じ、爾來十有餘年一日の如く精勵、名訓導の名を馳せたが、今や勇退して悠々自適の境地に在る。濃厚篤實、清廉の士である。

◎前田繁信君 初め北高森山小學校に教鞭を執り、田結校を経て、湯江小學校に轉じ、名訓導として十有餘年攸々營々育英に當つてゐる。濃厚篤實、廉坦の士である。

◎松尾政喜君 初め南高島原蠶種製造株式會社に

入つて蠶種製造業を研究し、東彼上波佐見村蠶業組合に務めた。其後獨立の旗をあげ大村武部に蠶種製造所を建て大に奮闘したが、養蠶界の不況にあひ、旗を卷いた。今は雌伏して捲土重來再建の日を俟ちつゝ在る。東彼三浦の人である。

◎松尾新太郎君 本縣信用販賣購買利用組合聯合會佐世保支所主事として潑刺たる躍進振りをを見せてゐる。東彼萱瀬の出身、最初教員養成所を卒へて、上波佐見補習校の先生となつた。後、教鞭を捨て、北高長田村農會技手に轉向、間もなく其の才鋒は認められて、一躍南松浦郡農會技手に拔擢された。次いで縣聯組合に入り爾來十有餘年、組合の智囊として、よく劃策して來たが、軍都佐世保支所の事業擴張と共に、推されて其の主腦となつた。異數の榮進である。性俊敏卑の如く、頭腦明晰、よく事物の判斷を誤らない。而かも順和の裡に熱あり、膽あり、一片耿々の氣魄は脈々として總身に流れてゐる。日々の難問題も快刀亂麻の如くに處決する腕の

牙へは確かなものだ。芋れに見るやり手である

◎松本 武君 臺灣臺北師範學校に奉職してゐる。初め臺中製糖農場に働いたが、後、轉じて總督府學務課に入つた。爾來幾年月、精勵して重要な地位を占めてゐる。資性溫良、誠實勤勉よく人のために力を盡して、いとほざる仁俠の士である。誠實勤勉、謙讓の美德あり。閑雅な風采と共に世人の敬愛を一身に聚めてゐる。瑞穂臺灣支部の中心人物である。

◎古川力太君 西彼龜岳青年學校教諭である。初め北松田平補習校に勤務、後東彼上波佐見女子補習校に轉じ最近龜岳に榮轉した。資性濃厚篤實、極めて眞面目な勤勉家である。

◎藤崎八郎君 一時北海道廳土木部土地改良課に在つたが、最近の消息不明。

◎藤山力太君 北高小野村の資産家である。初め母校助手を勤めたが後辭して自營、傍ら村役場に勤め、十年一日の如く公事に盡してゐる。資性溫良明朗にして蟠りなく、物事の解りが早



い。常識圓滿、八面玲瓏の社交人、郷村に信用されてゐる。

◎郡亮三郎君 北松相ノ浦の名望家。初め、本縣農事試験場練習生を經後更に教員養成所に入つて、北松楠栖補習校に教鞭を執つた。其後辭めて、専ら自營精勵してゐる。農政に對する識見あり抱負あり、將來長崎縣農界の一角に一旗あげるものと見られてゐる。

◎古賀信夫君 長崎縣下隨一の肥料商、諫早鶴川商店の販賣主任で、敏腕縱横よく業界を活歩してゐる。穎悟聰明、經濟知識に長け、商機を見るの明があり、快活明朗、人に對する應酬流るゝが如く一種非凡の外交手腕がある。罕れに見る業界の新進だ。

◎小無田善七郎君 南高愛野村の人、暫く愛野小學校に教鞭を執つたが辭めて自營、濃厚篤實村での有志格である。

◎自見滿衛君 臺灣花蓮港廳庶務課屬である。初め臺灣新竹帝國製糖農場に入つて働いたが、

後官界に轉向、花蓮港廳に奉職し、爾來十有餘年精勤して、現在の地位に到つた。佐世保日宇の出身。

◎青方麟太郎君 若い頃大連方面に發展して居つたが、後歸郷して青方小學校に教鞭を執り、其後、有川東浦校に榮轉した。容姿端然、貴公子の如く、氣品風韻、百萬石の殿様の趣きがある。而かも資性溫良恭謙にしてよく子弟を輔導し、一般の敬慕を受けてゐる。

◎城戸祝治君 南高千々石の資産家、先代の餘德を受けて、一時實業界に花々しき發展振りを見せたが、財界不況に崇られて、今は翼を休め捲土重來の日を俟つてゐる。細心で時に大膽な處があり、消極の様だが時に積極に動く處がある。人間は頗る善良に出來てゐる。

◎小林辰藏君 長崎市銅座町豪商小林商店の若旦那である。北高長田村の人、其の人物に見込まれて、長崎の小林家に迎へられただけに、人物は確實味がある。果報者だ。

◎志田重一君 西彼面高村助役として、村治の樞機を預つてゐる。一と頃時津村農會技手を勤めたが、郷里に歸つて役場に入つた。爾來精勵幾年、成績を挙げ、助役に累進し、よく事務を切り廻してゐる。濃厚篤實、冷靜な思慮分別家無批判に、自判を押す様な凡庸の吏ではない。

◎神宮正樹君 農學を卒へて、更に佐賀高等學校を經、帝大法科を卒業、大阪毎日新聞に健筆を揮つてゐる。年少時代からの秀才で、前途に多大の望みを有する人だ。對島鷄知の出身である。

◎平松享一君 北松御厨村の人、一時平戸小學校に教鞭を執つたが後辭して自營に精進してゐる。

◎東 又雄君 滿洲國奉天日本總領事館警察部在勤、日滿融和の楔として司法警察の衝に當つてゐる。北高有喜村の人、初め軍隊生活を了へて、有喜小學校に教鞭を執つたが、後滿洲に入り、安東領事館を經て、奉天に轉じた。資性溫

厚にして眞摯、清廉潔白の士、陸軍歩兵少尉である。

◎東隆一君 東彼大村の人、初め朝鮮全羅南道莞島郡莞島面、殖産局山林出張所に勤めたが辭して歸郷、自營に精進してゐる。

◎須崎滿雄君 北高小野青年學校教諭として令名がある。資性濃厚、勤儉努力の人、模範的人物とされてゐる。

### 第十一回卒業

大正九年三月 六〇名

◎彌永朝喜君 卒業後、門司植物検査所に勤めたが、其後家事の都合で自營、最近は神戸方面で働いてゐる。

◎出口久勝君 教員養成所を出でて、神代補習校に勤め、後千々石校を經て、北串山小學校に轉じ、育英に當つたが後、勇退して自營してゐる。北串山村の有力者である。



- ◎池田徳雄君 消息不明
- ◎原田良助君 南高西有家町の資産家、祖父傳來の餘澤に恵まれた人である。東京農業大學卒業後専ら家事に當つてゐる。資性温厚にして謙讓、郷黨に厚く地方の爲めに盡してゐる。園藝に興味を有し、温室や庭園は頗る豪壯なものである。
- ◎濱野由雄君 北松鹿町の人、農事試験場練習生を経て、鹿町小學校に教鞭を執り、爾來下寺、開知、口石校を経て西彼瀬戸青年學校に榮轉した。温厚篤實を以て聞へてゐる。
- ◎橋口始藏君 暫く郷里眞津山小學校に勤めたが、辭して大坂に出で、大阪毎日新聞社營業部に入り大に奮勵した。最近は大坂精版印刷株式會社に在り印刷界に活躍してゐる。熱意の奮闘家である。
- ◎大石 茂君 臺灣臺南州斗六郡古坑庄浦子大日本製糖農場主任である。東京駒場農科大學實科卒業後、朝鮮平壤船橋里大日本製糖會社に入

- り、甜菜栽培に従事したが後、臺灣虎尾の本社に轉勤、其後斗六農場に駐在今日に到つた。博學宏才、聰明で極めて淵達な奮闘的快男子である。南高守山の出身、尙多くの未來を有する。
- ◎大我達二君 千葉畜産試験場練習生修了後、教員養成所に入り、式見小學校に勤めた。爾來、矢上、時津、南串山第二青年學校を経て北高江浦青年校教諭として勉勵してゐる。資性温厚篤實、勤勉家として令名がある。
- ◎貝田和夫君 臺灣臺南州虎尾郡海口庄梓海厝嘉南大圳水利組合監視所に勤務してゐる。北高森山の人、初め花連港鹽水港製糖大和農場に入り奮闘したが、辭めて上京、農業大學耕地整理講習所に入り、終へて臺南嘉南大圳に務め、現在に到つた性剛放磊落、明快で中々の働き手だ。
- ◎川添正雄君 西彼三重小學校訓導として令名がある。農事試験場練習生より助手を勤め、後郷里福田小學校に教鞭を執り、次いで式見校を経て三重校に赴任した。温厚著實、勤勉家を以

- ゐて聞へてる。
- ◎吉田 忠君 北海道室蘭築港事務所在勤、初め北海道廳土木講習所を卒へて、天鹽留萌郡郡留萌築港事務所に入り、次いで室蘭に榮轉今日に到つた。東彼大村の人である。
- ◎吉原五郎君 在滿洲
- ◎吉元寛一君 一年志願兵の輜重兵少尉である。退營後暫く實業に従事したが、後教育界に入り神浦小學校を経て、郷里小値賀小學校に轉じ今日に到つた。性極めて快活、英敏、勤勉の士で郷土では非常に信賴されてゐる。
- ◎吉田幸秀君 學校時代秀才を以て聞へた。卒業後上京、農業大學に遊び、歸郷後は専ら家事に當つてゐる。南高有家の資産家である。
- ◎立木一男君 優秀を以て諫早農學を出で、次いで、師範二部に入り、卒業後佐世保八幡小學校に勤めた。後、吉井校を経て、小佐々校主席訓導に榮轉、温厚篤實の士として聞へてゐる。
- ◎鶴田政男君 初め長崎植物検査所に勤め、其

- 後東京稅務監督局に轉じた。其後歸郷して自營佐賀縣佐賀郡嘉瀬村の人である。
- ◎鶴田百喜君 北高小栗村出身、初め佐賀稅務署に勤め、其後大牟田稅務所を経て福江稅務署に轉勤したが、最近の消息不明。
- ◎鍋島英雄君 佐賀縣神崎郡蓮ノ池村出身、學校卒業後、臺灣に雄飛、新竹州農會育種場に勤務、後轉じて桃園郡役所に入り、更に大溪郡役所を経て、大湖郡役所に榮轉し、今日に到つた。温厚篤實、敏腕家を以て聞へてゐる。
- ◎中野宅一郎君 初め南松榎津小學校に教鞭をとりに後、北魚目、船廻校を歴任した。後辭めて、郷里北魚目村農會に入り精勵してゐる。性極めて温厚、職務に忠實で頗る郷村に信用がある。
- ◎中島一之君 教員養成所卒業後、東彼廣田補習校に勤め、後、西大村、時津を経て西彼瀬戸校に教鞭を執つたが、辭して熊本縣天草郡宮地村農會に入り。最近西彼面高村農會に轉じ。鋭意精勵してゐる。温厚篤實、眞面目な勤勉である。



東彼彼杵村出身。

◎上野末隆君 北松世知原青年學校教諭として令名がある。初め吉井補習校を振出しに下寺、波佐見、鈴田の諸校を歴任し、世知原青年學校教諭に榮轉した。濃厚篤實、至誠の人として一般の信望を得てゐる。

◎野田正行君 北松鹿町小學校名訓導として知られてゐる。柚木小學校より轉じて鹿町に來任已に十餘年、一意専念育英に當つてゐる。花卉園藝に精通し、其の該博なる學説は常に東都の學界を賑はしてゐる。罕れに見る篤學の士である。

◎野口忠鹿君 本縣農事試験場練習生を経て北松前方小學校に教鞭を執り、後有喜村農會技手に轉じ、其後再び教育界に入り、星鹿・調川、古賀青年學校教諭として精勤した。偶々健康を損ひ暫く退職靜養したが、最近調川農會技手として復活してゐる。濃厚篤實、實直な勤勉家である。

一げい蒐めて居る。痛快な男だ。

◎山口治平君(舊姓川原) 諫早青年學校教諭として嘖々たる名聲を馳せてゐる。志願兵として軍務に就き累進して歩兵中尉となる。質實剛健軍人精神の横溢した偉丈夫で英邁の資、活達の才、行く處として可ならざるはなく郷軍青年團の統帥として地方に重きをなしてゐる——確乎りした人物である。

◎松本惣八君 初め大村小學校教員を勤め、後教員養成所に入り卒へて富江補習校に赴任した。其後教鞭を捨て、長崎製絲會社に入り更に南高有家蠶業技手として勤務したが、現在は南松本山村農會に勤めてゐる。

◎松本豊夫君 北松上志佐の有志者 卒業以來終始一貫農事に精勵してゐる。信望郷村に厚く眞の農村中堅である。

◎古川木一君 本縣農産課勤務、農林技手として活潑な働きを見せてゐる。農事試験場見習生から助手、技手と累進して、縣農林課に入り今

◎山浦福一君 西彼龜岳村の資産家で、代々精農を以て聞へてゐる。東京農業大學を卒へ、爾來一意専心自營に邁進し西瓜作りの名人で、毎年優品を生産し、非常な好績を擧げてゐる。濃厚篤實、人格圓滿、郷村の中堅人物である。

◎山口福馬君 西彼大草の人、千葉高等園藝學校出身、初め山口縣大島郡天満、久賀、油田等の實業學校教諭を経て、後、山口縣立安下庄中學校教諭に榮轉今日に到つた。濃厚篤學の士として令聞がある。

◎山口皓一郎君 臺灣新竹市勸業課主任技手として潑刺たる活動を見せてゐる。生れは北高長田だが、臺灣に飛び出して十有八年、未だ一度も故郷の土を踏まないといふ。初め新竹州中歴郡役所に入り、其後、新竹市勸業課に轉じ産業技手として主席の要職に在る。資性俊敏、氣宇宏量、明快にして霸氣滿々、畜産に通じ殊に競馬にかけては獨特の見識を持つてゐる。又一面臺灣古代文化の研究者で、生蕃人の刀や用具を家

日に到つた。穎悟聰明、至誠の人で、又勤勉努力家である。常識圓滿、上にも下にも受けがよい極めて健實性に富む人物だ。

◎松尾重一君 壹岐石田村の助役として、村治の實際を握つてゐる。初め北松鷹島村農會技手を勤め後壹岐柳田補習校教員に轉向した。其後再び武生水町農會に入り、次いで石田村農會に轉じた。精勵多年大に業績をあげ遂に石田村助役に推擧された。資性温良、見識あり、抱負あり、よく村民と接渉して、事を圓滿に收めて行く手腕は鮮かなもの。北松大島の出身である。

◎近藤政英君 北松猪調小學校首席訓導として重きをなしてゐる。始め實業に志したが後教育界に入り、佐世保福石小學校から郷里小値賀校を経て猪調校に轉じた。濃厚著實、純情の人で又勤勉努力の人である。

◎古賀順治君 朝鮮馬山で實業に従ひ後警察界に入つて、咸鏡北道慶興郡西水羅造山駐在所に



勤務したが、最近の消息不明。

◎小森繁六君 長崎縣耕地課農林技手として縣營北松柚木村用水幹線改良事務所に敏腕を揮つてゐる。東京農大耕地整理講習所卒業後、兵庫縣耕地課に入り、次いで長崎縣に轉じ技手に昇進し、其後、奈良縣に向向したが、再び本縣に歸任して今日に到つた。性剛放磊落、氣宇活達仕事はテキハキやつてのける。明快な事業家肌の男、人物は至つて健實清廉である。

◎古賀虎雄君 中央大學に學び、歸郷して自營實業に終始してゐる。諫早町の出身。

◎古賀敏之君 佐賀縣西松浦郡有田の人、初め臺灣總督府中央研究所に入つて、勉強したが、後辭めて大阪に出で、操觚界に轉向し、「實業の大坂」東京支社長として、帝都に活躍してゐる。

◎有浦 正君 北松鷹島の人、早くより教育界に入り、佐世保福石、北松生月、等の小學校に教鞭を執つたが、其後勇退して、自營に精進してゐる。

◎相良千里君 壹岐郡農會技手として潑瀾たる活躍振りを見せてゐる。初め諫早製絲場に入つて工場監督を勤めたが後、有喜村農會技手に轉じ精勵多年大に成績をあげて優秀技術員として表彰された。次いで北高郡農會技手に拔擢され更に壹岐郡農會技手に榮轉、今日に到る。資性濃厚、恭謙己を持する人格の士で勤勉力行の行者である。

◎指方一君 北高本野小學校訓導として信望を得てゐる。早くから教育界に入り、北松福島補習校、北高眞崎小學校を歴任して現在に到つた。溫良實直、熱意の人で、一村の師表として敬愛されてゐる。

◎貴志雪太郎君 東京府下八王寺市外川口在、片倉製絲紡績株式會社裁桑試驗所長農學博士として錚々たる名聲を馳せてゐる、本邦農學界有数の新進學者である。北高有喜村の出身、幼にして英邁、諫早農學を優等で卒業、直に佐世保宮田養豚場に入り力役大に努めた。けれども向

學の念止みがたく去つて北高小栗小學校代用教員となり、傍ら進學の準備を整へた。それから首尾よく京都高等蠶業學校に入り、匪勉努力優等で卒業した。暫く囑託として母校高蠶に踏み止まつたが、再び大學に進むの機會を得て九州帝大農學部に入り農藝化學を専攻し、又々大學でも優等で卒業、直に片倉製絲に迎へられた。

片倉は我國最大の蠶絲會社であり、八王寺裁桑試驗所は我國唯一の裁桑研究所である。設備萬端整頓して間然する所がない。今は自由に研究することが出来る。君は全力をあげて研究に没頭した。肥料と桑、桑と營養、營養と蠶絲、この關係を最も學理的に探究して、純良な生絲を産み出す其根本原理を發見し、これを世界の學界に發表した。果然斯界の衝動を捲き起し、遂に農學博士の學位を得るに到つた。入間の運はどこに轉んでゐるのか解らない。神のみが知る人の行く末だ。君天資聰明、頭腦明晰、勤勉努力の權化である。加ふるに溫手たる風采、謙讓の

美德は、何人をも魅するかの力がある。諫早農學校時代の舊師橋本與次左工門先生は、君がこの天分的な美質を伸ばすべく、蔭になり日向になり、授助を與へて、この非凡の英才、玲瑯玉の如き全人格を磨き出され日本一の年少農學博士と名を成さしめられたことは、人情紙より薄き現代に於て寔に感激すべき教育美談である。無限大なる學林の曠野、未開の扉は君の如き天才的な學者の出現によつて始めて開かるゝもので君の仕事はこれからである。瑞穂が生める多くの人材中斷然群を抜く最高峯であらう。

◎木人哲郎君 初め本縣農事試驗場助手より、面高村農業技手となり後佐賀縣藤津郡吉田補習校に教鞭を執つた。最近は辭して自營である。

◎木村龍海君 當初有喜小學校に奉職、其後朝鮮に發展京城櫻井小學校訓導として令名がある。北高湯江の人である。

◎滿野辰雄君 北海道廳土木講習所卒業、後、北海道土地改良課に入つて、活動したが最近は



歸郷して自營である。大村の人。

◎宮田 孝君 母校助手から、西彼三重補習校に農業教員を勤め、後辭して長崎刑務所看守を勤め精勵を以て聞へてゐる。

◎宮崎日本太郎君 教員養成所出身、初め郷里南高西郷村小學校に勤めたが、後、佐賀縣西山代補習校に轉じた。後、長崎製絲會社に入り、大に敏腕を揮つたが、最近朝鮮京城大成製作所に入つて、産金事業に従事してゐる。識見、手腕、共に勝れ、人物は確乎りしてゐる、一年志願兵の歩兵少尉である。

◎新堂 傳君 當初朝鮮に渡航實業方面に活動したが數年にして歸省専ら自營今日に到る。

◎平古場多四郎君 長崎縣師範學校教諭として令名がある。諫早農學、鹿兒島高等農林を共に首席で通うした秀才、其後九大農學部農藝化學研究室に入り、研礎を續けたが卒へて後長崎師範に奉職し今日に到つた。性極めて溫良篤實の士で、學識手腕共に圓熟し其の溫然たる容貌は

思想生活の成熟期を示す超達の表情を遺憾なく現してゐる。人情美に富み殊に孝養に厚く、宏莊な新邸宅を構へて父君を慰めてゐる。敬愛すべき師表。罕れに見る人格の士である。

◎森田義人君 南高土黒村、自營。

◎本野一男君 鹿兒島縣哈良郡蒲生村自營。

◎本石惣作君 對島豆酸の人、卒業後郷里役場に勤め、累進して助役となる、村での有力者で人望が厚い。

◎末永 郵君 南松濱ノ浦村の人其昔松浦藩公の家臣として、島に光つた。由緒ある家柄である。學校を出ると東都に遊學、青雲の志を伸べんとしたが家庭の事情で故山に歸り、今は村場役に入つて産業振興に努めてゐる。溫厚篤實極めて物靜かな村の先達である。』

## 第十二回卒業

(大正十年三月) 六四名

◎稻葉荒太郎君 南高千々石の人、千葉高等園藝學校出身である。大分縣立玖珠農學校教諭として敏腕を揮つてゐる。

◎岩田唯四君 消息不明。

◎磯本新一君 佐世保市福石小學校訓導として令名がある。初め北松田助小學校に教諭を執り後、山口、相ノ浦、八幡、の各校を歴任し、郷里福石校に榮轉、今日に到つた 資性極めて溫厚、恭謙にして容姿閑雅、親しみがあがり、人格圓滿を想はしむる。子弟の信賴極めて厚い。

◎林田迪夫君 北高小栗青年學校勤務、郷黨のため教鞭を執つてゐる。初め、母校助手を勤め後兵役に服し山砲兵少尉となる。退營後、東彼廣田村農會、鳥島小學校、小栗村農會、本野青年學校を歴任し、郷里小栗青年校に轉任した。資性溫厚、勤勉努力極めて健實な人物である。

◎本田芳久君 佐世保市農會技手として、活動してゐる。農事試驗場練習生修了後佐賀縣西松浦郡曲川農會に勤め、後、佐世保市農會技手に

榮進、今日に到つた、實直勤勉、至誠の人である。

◎豊田康明君 諫早農學時代から學術優秀、鹿兒島高等農林を首席で出た逸材、初め奈良縣立農學校教諭として赴任し、其後愛知縣立西尾中學校教諭に榮轉し今日に到つた。人物、見識、手腕、共に噴々たる高評を得てゐる。北松平戸の出身である。

◎徳村征二君 北松御厨青年學校教諭、教員養成所出身、鷹島、御厨、星鹿、田助の諸校を歴任、現御厨校に榮轉今日に到る、溫厚勤勉の士として知られてゐる。

◎鳥山 武君 大村女子職業學校々主として同校を經營し、教諭として直接育英に當つてゐる東彼千綿の資産家である。穎悟聰明。見識あり抱負あり非凡なる事業的才幹があり、敏腕家を以て聞へてゐる。

◎吉岡龍海君 北高湯江の人、教員養成所出身獅子、富江、有川の青年校を歴任後、北松津吉



青年學校教諭として榮轉今日に到つた。資性聰明常識に富み學究肌の人で人物は確乎りしてゐる。

◎田川關雄君 教員養成所卒業後、諫早補習校に教鞭を執つたが後爰を負ふて上京、農業大學に入つた。業を卒へて歸郷再び西彼龜岳補習校に勤めた、後家事の都合で辭め、専ら自營に當つてゐる。剛放磊落、人物は荒削りだが、經濟的手腕あり、ラビット事業では大に好蹟をあげてゐる。又信念の人で農政問題にも特殊な見識を持してゐる。長田の人である。

◎棚橋一郎君 北松鹿町の精農、終始一貫農事の振興に盡してゐる大の勤勉家で村での中心人物である。

◎立川保夫君 初め諫早小學校に教鞭を執り、後長田、森山、深海、湯江の諸校を歴任し、鳥島校訓導に轉じ今日に到つた。濃厚實直の精勤家として好評を得てゐる。

◎武部海郎君 北松今福の素封家で本家は醫を

以て聞へてゐる。東京農業大學卒業後、郷里に溫室園藝場を開き専ら促成栽培に従事、莫大な収益を擧げてゐる。資性濃厚、清廉の士で、事業に對しては頗る熱心な努力家である。又半面には時に淺酌微吟陶然として月に嘯き花に語り一人勝手な、ユーモアを發散して超然たるの雅懷がある。家に叔徳優美の賢夫人があり常に君を補佐して怠らざるところに事業達成の力があつた。確かに本縣農界の一異彩だ。

◎竹内英俊君 教員養成所卒業後、對馬佐須奈補習校に勤め、轉向して、鷄知村農會に入り、農村指導に當つた。今は職を辭して自營、佐須奈の中堅人物である。

◎田中政吉君 朝鮮京城師範學校教諭として令名がある。初め本縣教員養成所卒業後、西彼瀬川補習校に勤め、次いで式見補習校に轉じた。後朝鮮京城師範農場に入つて實習部を擔任し精勵果進して教諭となり、今日に到つた。式見の人である。

◎園部重太郎君 北高湯江村自營。

◎塚島重富君 南高島原町自營。

◎中村禎治君 當初西彼時津小學校に教鞭を執つた。其後兵役に就き、時津村農會に勤め大に農村指導に當つた、了へると、幾程もなく辭めて、自營奮闘。現在は長崎に在り實業界に活動してゐる。英邁の資、縦横の才、練達の手腕家で、明日の日を期待すべき快男子である。

◎中古賀繁雄君 朝鮮黃海道黃州郡産業技手として活躍してゐる。母校助手より軍隊に入り、一年志願兵の歩兵少尉となつた。退營後、朝鮮に渡航、黃海道沙里院西厚支場に入り、後平安南道江西郡廳に勤め、更に黃海道黃州郡廳に榮轉した。濃厚篤實勤勉努力の人として頗る好評を得てゐる。北高長田村出身。

◎中島只夫君 東彼大村銀行に勤務してゐる。初め教員養成所を出で、福重、西大村の補習校に勤めたが、後實業界に轉向、今日に到つた。頭腦緻密、經濟的手腕の人である。

◎中村悅治君 諫早小學校訓導として令名がある。師範二部出身、同校勤務既に十有餘年一日の如く精勵してゐる。濃厚篤實、至誠の人で、情味豊かな良師として敬愛されてゐる。北高田結村の人である。

◎永田義重君 北松世知原村の篤農家、一時村役場に勤めたが、辭して専ら自營に當つてゐる村での有力者である。

◎村上 量君 東京農業大學耕地整理講習卒業一時福岡縣耕地課に勤務したが、最近の消息不明。

◎上田龜起君 教員養成所出身、杉谷、長野の各校を歴任し、次いで西有家青年學校教諭として令名を馳せた。今、南松魚目青年校に在る濃厚清廉の士、頗る文學に長じ幽腕なる筆致と、熱烈なる情緒とを以て、若人の血を躍らす田園詩人である。

◎上杉憲造君 南松岐宿小學校訓導として光つてゐる。早くより教育界に入り、宮村、黒瀬、



川原、玉の浦、濱の浦の諸校を歴任し、岐宿に榮轉した。東彼彼杵の人、資性濃厚篤實、勤勉努力の士で、一般の信頼を得てゐる。

◎内野正義君 北松江迎青年學校教諭である。

始め長坂小學校に教鞭を執り、猪調を経て、江迎校に轉任今日に到る。資性濃厚人格圓滿の士で、郷村での有力者である。

◎野澤榮治君 東彼下波佐見青年學校教諭として多年精勵してゐる。師範二部出身で同校初任以來の勤績功勞者である。

◎野田春一君 長崎縣經濟更生課農林主事補として、農村經濟振興の企劃に當つてゐる。東京農業大學卒業後本縣產業組合に入り、爾來十有餘年、精勵勤績して今日に到つた。濃厚篤實、聰明にして事理に明るく、農政經濟に關する學殖が頗る深い。人物は確乎りしてゐる。東彼廣田出身である。

◎野田重三君 沖繩縣那覇稅關植物検査支所勤務の検査官である。本縣農事試驗場練習生から

助手を経て、長崎稅關植物検査課に入り、精勵拔擢されて、那覇に轉じた。極めて實直な學究肌の人で、溫和聰明な人物、諫早名門の出身である。

◎黒田三八君 大阪天王寺師範學校教諭として

令名を馳せてゐる。本縣補習校教員養成所を出て、眞津山、江の浦の補習校に教鞭を執り、後東京農科大學農業教員養成所に入り、卒へて母校教諭として錦を飾つた。爾來勤勉努力よく業績を擧げたが、大阪に榮轉、今日に到つた。性俊敏、頗る氣慨あり、努力の人である。北高有喜村出身。

◎草刈英敏君 北松相の浦の大地主である。東京農業大學を卒へ、歸郷して、家治に當つてゐる。資性穎悟、博識にして、農政事情に明るい。從容迫らざるの態度は、閑雅端正の風姿と相俟つて、長者の俤を偲ばしむるものがある。將來本縣農界のため起つて巨腕を伸べる日も遠くはあるまい。

◎山田 尙君 東彼松原小學校訓導として十年一日の如く精勤、至誠熱心溫良の先生として子弟の信頼をかち得てゐる。家は千綿村の篤志家である。

◎山川若衛君 滿洲鐵路局牡丹紅驛勤務、北滿交通運輸界に重要な役職を務めて居る。北松南田平の人、初め教員養成所を出て、歌ヶ浦補習校に勤めたが、大陸發展の雄圖押へ難く、遂に教鞭を捨て、滿鐵に入り、長春驛に勤務した。

其後北滿鐵路の擴張に連れ、其重要地點たる牡丹紅に榮轉した。氣宇活達、敏腕家として同僚間に敬愛されてゐる。

◎山元宗熊君(舊姓蛟島) 金澤地方專賣局技師として煙草の鑑定役を務めて居る。鹿兒島高農を経て、九大農科を出で、東京專賣局に入つた爾來福岡熊本等を歴任現在に到る。鹿兒島縣出身である。

◎牧山正一郎君 教員養成所卒業後、北松小佐々補習校に教鞭を執つたが、其後辭して、東

京に遊學した。歸郷後、實業に従事したが、再び検査員として鹿町に駐在してゐる。濃厚實直勤勉の士である。

◎松本平八郎君 西彼矢上青年學校長として盛名を馳せてゐる。教員養成所を卒業、壹岐箱崎北松中津良、南田平、大島校、を歴任、現在に到つた。資性溫和、順良にして博學宏才、學校經營の手腕があり、優秀な青年教育家として表彰されたことがある。

◎松尾盛之君 熊本縣立熊本農學校教諭として令名がある。鹿兒島高農を出で、熊本縣立阿蘇農學校教諭として赴任、次いで熊本農學校に榮轉した。穎悟聰明、篤學の士で、農藝化學を擔任してゐる。北高古賀村の人。

◎松尾榮昌君 諫早町鶴川肥料店に在り、精勵格勤を以て聞へてゐる。溫良謙退の人物である。

◎間宮昌次君 北松吉井村自營。

◎間宮榮君(舊姓浦田) 西彼神の浦青年學校教



論、東彼大村の人、初め北松養源小學校に教鞭を執り、次で南田平村下寺、南田平青年學校を経て後西彼神の浦に榮轉した。濃厚篤實、高潔清廉の士、歩兵少尉である。

◎松井喜馬次君(舊姓北平) 北高諫早小學校訓導として令名を馳せてゐる。師範二部出身、森山村島島、小江、湯江校を歴任し、諫早に榮轉した。濃厚篤實、性極めて伶俐、精勵格勤の士で、子弟の信賴頗る厚い。北高眞津山の人である。

◎前田祐市君 長崎縣土木管區事務所長崎縣道路技手勤務 北松世知原出身、初め諫早土木管區所に勤め、後長崎に榮轉した。道路土木の技術に就ては、非凡の才幹があると言はれてゐる。

◎立川哲夫君(舊姓福田) 大阪地方專賣局製造課勤務、鳥取高等農林を出で、專賣局に入った頭腦明晰の秀才、西彼喜々津の人、諫早西郷立川家に迎へられ後を繼いでゐる。

◎福田三之助君 東彼千綿村精農家、勤儉力行

家として村の中堅人物である。陸軍歩兵中尉郷軍のため義勇奉公の誠を盡してゐる。眞の農村戦士である。

◎藤林與八君 北高江の浦小學校訓導として育英に當つてゐる。初め長崎市役所都市計畫課に勤め、後教育界に志し、戸石、田結、古賀の諸校を歴任、江の浦校に榮轉した。濃厚にして眞摯、情味ある先生として信望がある。

◎小柳千代三君 北高江の浦小學校訓導として精勵してゐる。田結、戸石、柚木、宇久、小長井等の各校を歴任して郷里に榮轉した。才子肌の常識人、性極めて快活、天人爛漫たる處がある。江の浦村の有力家である。

◎藤田忠員君 長崎縣農事試驗場技手、壹岐園藝指導所主任として、重要な地位にある。農商務省興津園藝試驗場、研究生出身。初め靜岡縣田方郡三島町伊豆蜜柑同業組合技手を勤め、後廣島縣御調郡三庄町を経て、福岡縣鞍手郡農會技手に轉じ、其後壹岐指導所開設と同時に拔擢さ

れ今日に到つた。頭腦明晰、思慮に富み、誠實勤勉の士である。園藝の實際家で、手腕力量共に備はり、所長としての貫録は充分とされてゐる。

◎荒木喜太郎君 本縣教員養成所を出で、小長井、湯江、長里の補習校を歴任し、後辭めて東京に走つた。今は郷里北高湯江にあつて自營である。

◎荒木定市君 北高小長井小學校訓導として、子弟の教養に當つてゐる。早くより教育界に入り、大村、崎針尾、眞津山、戸石、本野の諸校を歴任して今日に到つた。濃厚篤實、勉勵努力の人である。

◎佐藤寅雄君(舊姓野中) 北高有喜小學校訓導として令名がある。本縣養成所卒業後、獅子小學校に勤め、超へて志願兵として軍務につき野砲兵少尉となる。退營後、小栗校に勤め、湯江を経て、有喜に轉じた。資性濃厚實直にして情味あり、勤勉努力有徳の士である。

◎北尾一記君 沖繩縣農林技手として那覇に在

る。千葉高等園藝學校卒業後岡山縣立農事試驗場園藝部を経て、沖繩縣に出身した。南高北串山の人。

◎宮崎太郎君 南高西郷出身、當初朝鮮西鮮支場に勤めたが、後歸郷して西郷小學校に教鞭を執つた。其後辭めて實業に志し、北京で園藝に従事、後滿洲新京に移り、電機商店を開いてゐる中々の敏腕家だと噂されてゐる。

◎峰野庄藏君(舊姓吉原) 北松相の浦青年學校教諭として人望を得てゐる。本縣教員養成所卒業、大草、寶龜、生月、中里の諸校を歴任して相の浦校に榮轉した。至誠人格の士、陸軍歩兵少尉、平戸の出身である。

◎宮崎實君 南高加津佐町篤農家として知られてゐる。初め本縣教員養成所に入り、東有家津波見等の補習校に教鞭を執つたが家事の都合で辭めて自營に就いた。濃厚篤實、勤勉努力、眞の農業戦士である。

◎宮崎久良知君 臺灣總督府營林署技手、臺中



州虎尾出張所在勤である。北高有喜村出身、始め農商務省千葉畜産試験場に入り、畜産を研究した。後、臺灣に飛躍、總督府臺中州樟苗圃に入り、次いで臺中營林署に轉じ、豊原に勤務し今回虎尾に榮轉した。資性溫和實直、博學宏才又一面文藝に通じ詩歌に人生の歸趣を見出して青空萬里を行く。情熱的の俳人である。八面玲瓏、社交に巧みで君の在る處常に春心地だ。徳分の人である。

◎樋口六郎君 長崎縣社會教育主事として南松支廳勤務、令名を馳せてゐる。母校助手より、平戸町農會技手を勤め後、山口補習校に教鞭を執つた。其後相の浦校を経て中里青年校に轉じ更に現職に榮轉し今日に到つた。開放磊落氣宇宏量、穎悟聰明にして圭角なく、淡々たる物外の風格は、よく衆望を聚むる所以である。適材適所とされてゐる。

◎平川貞雄君 臺灣臺南市寶公學校長として、令名を馳せてゐる。臺灣師範を出て臺南州新化

郡善化公學校に赴任し、次いで曾文郡麻豆公學校長に榮轉した。其後更に臺南市寶公學校長に拔擢され、今日に到つた。明智英才、常識に長け、霸氣あり、談論風發、意氣天に沖するの概がある。常住、邊幅を修らず、飄逸洒脫、一言一行悉く禪味を帶ぶ。人生を達觀して悟入せる處に君の面目躍如たるものがある。

◎森 安雄君 北高小長井村、自營。

◎森 勇君 東彼竹松小學校訓導、師範二部出身、川棚、大村の諸校を歴任、竹松校に榮轉した。濃厚篤實、眞摯にして理性の人、極めて穩かな人物家、一般の信望頗る厚い。

◎須藤哲夫君 北松柚木村篤農家である。本縣農事驗場助手より、廣田村農會技手を勤め、次いで佐世保市佐世小學校に教鞭をとり大に精勵したが後家事の都合で辭めて自家經營に入つた頭腦明晰、識見卓抜、農政問題に通曉して、勤勉努力、模範農として知られてゐる。

## 第十三回卒業

(大正十一年三月) 六五名

◎伊東祐友君 朝鮮慶尙北道永川郡紫陽公立普通學校長として半島教育界に盛名を馳せてゐる。東彼西大村出身、初め本縣教員養成所を出で、東彼宮村小學校に勤め、次いで波佐見、中津良校を経て朝鮮に向向、慶尙北道永川郡新寧公立普通學校に轉任し、間もなく紫陽校長に榮轉した。新進氣英の教育家として地方民の信賴を博してゐる。

◎今泉志農夫君 朝鮮全羅南道靈光郡畝良公立普通學校長として、新進の名を擅にしてゐる。本縣教員養成所卒業後、高濱、多比良青年學校に勤め、後朝鮮全羅南道光陽公立普通學校に轉じ、最近畝良校長に拔擢された。資性濃厚、常識に長け、研究心に富み勤勉家である。北高湯江村の人。

◎岩田綱夫君 北松津吉村農會技手として一村の産業を背負つてゐる。縣下宇に見る農界の逸材だ。公務の傍自ら農業經營をやつて實際の範を示してゐる處に、君、千金の重みがある。性極めて穎悟聰明、奇略縱橫、明快で透徹、中々の敏腕家である。若い頃鹿ヶ浦校の先生をやつたこともある。

◎池田 馨君 臺灣新竹州新竹郡關西公學校勤務、本島人教化に盡してゐる。初め母校助手を勤め、後對島比田勝小學校に轉じたが、其後臺灣に雄飛、關西校に奉職今日に到つた。濃厚篤實、至誠の人で、勤勉力行家である。

◎諫見卓次君 臺灣澎湖島馬公第二公學校在勤である。其以前北高眞津山補習校に教鞭を執つてゐた。北高長田の人、篤學の士で頭腦明晰を以て聞へてゐる。

◎石橋武夫君 本縣教員養成所卒業、西彼黒瀬佐賀縣西松浦郡外尾の補習校を歴任して本縣社會教育課主事補に任ぜられ、次いで西大村青年



學校を経て、大村實業青年學校教諭に轉じた。資性濃厚眞摯な勤勉家として信望を得てゐる。

◎原 勝太君 北松中里青年學校教諭として、子弟訓育に當つてゐる。教員養成所を出で南松奈留島補習校、榎津校、魚目校を経て現在に到つた。濃厚篤實、勤勉努力の師表である。

◎原口正雄君 福岡縣山門郡三橋小學校訓導である。大の體育熱心家で、殊にフットボール競技に至つては、天才的技能を有し福岡縣下第一人者として知られてゐる。性 温順にして淡泊明朗なスポーツマン、福岡縣教員養成所出身である。

◎濱田重次郎君 南高大正村の人、教員養成所を出で、自村仙水補習校に勤め、次いで大正青年學校教諭として轉勤、爾來十有餘年一日の如く、郷黨子弟のため扶掖誘導大にこれ努めてゐる。濃厚にして眞摯、篤學の士で衆望頗る厚い。

◎西山孝徳君 臺灣澎湖島廳庶務課勤務、總督府森林主事として林業の指導に當つてゐる。初

め高雄州旗山郡役所に勤務し後澎湖島に轉任今日に到つた。實直な勤勉努力家、北高長田村出身である。

◎西 庫二君 長崎縣農産課勤務農林技手として精勵してゐる。初め本縣農事試験場練習生から助手を勤め、後千綿村農會技手として赴任した。次いで佐世保農會に轉じ、更に長崎縣農會技手を経て、西彼郡農會技手となり更に本縣農産課農林技手に昇進した。最も順調に進展してゐる。資性温和、八面玲瓏の明朗家、社交にも要領を得て、周圍から可愛がられる徳分がある。西彼龜岳の出身である。

◎朝永末雄君 西彼大串株式會社社長島眞珠場支配人として活動してゐる。長らく大串村補習校に教鞭を執つたが、後勇退して會社に入り現在に到つた。温順至誠の人で、人物手腕共に世に認められてゐる。

◎陣内七郎君 北高湯江青年學校教諭である。初め陸軍に一年志願して任官、歸郷後、北松佐

て大に將來を期待されてゐる。

々補習校に勤務、後吉井村農會技手に轉じた。其後再び教育界に入つて、北高小江補習校に教鞭をとり、更に有喜校を経て湯江青年學校教諭に任じた。社會通念に勝れた勤勉努力の士、工兵中尉として郷軍の中堅である。

◎吉谷友之君 中央大學を出で實業に志し、門司大里町吉谷藥店に在つて活躍してゐる。濃厚至誠、信用がある。諫早の人家は代々の舊家である。

◎吉田富夫君 南松福江農會技手として奮闘してゐる。農事試験場練習生より助手に進み、後千綿村農會技手を勤め、大村町農會を経て、福江町農會に轉じた。濃厚篤實、勤勉努力、優秀技術員とし信賴されてゐる。

◎横山政美君 西彼時津村村長として村民の絶對信賴の下に村治を司つてゐる。學校時代から學業優秀の逸材。卒業後、自村役場に入り、書記より收入役、助役と累進し、今日に到つた。資性濃厚、識見高邁人格の士で縣下青年村長とし

て大に將來を期待されてゐる。

◎高橋 清君 熊本縣菊地郡蠶業組合に勤務してゐる。鹿兒島高等農林出身、長崎縣蠶業取締所口の津出張所、島原取締支所等に勤め、後熊本縣に出向現在に到つた。北高小長井の人である。

◎高崎 充君 滿洲國實業部技佐として農林技術員養成所の庶出課長を勤め、錚々たる聲望を得てゐる。北高小栗村出身、初め農事試験場練習生として實力を養成し、後北松世知原、前津吉補習校に教鞭を執つたが、後滿洲に雄飛し、金州民政署に入り、大に敏腕を揮つた。其後滿洲建國と共に新京滿洲國實業部に轉じ、産業技術員養成所に入つた。頭腦明晰、聰明で快潤、事務的才能がある。清廉の人格者、字に見る有爲の人材である。

◎谷 定行君 北松皆瀬青年學校教諭として令名を馳せてゐる。教員養成所卒業後東彼杵補習校に勤め、精勵格勤大に成績をあげ、後上波



佐見青年學校を経て現在に到つた。曩きに青年教育功勞者として、當局より表彰された。職務に熱心で、氣骨稜々たる處がある。

◎荒木辰雄君(舊田中) 教員養成所出身、東彼彼杵青年學校教諭として好評を得てゐる。資性温良、聰明、冷靜に事物を正視して是非を判断するの明がある。篤學の士で、研究心に富み「農民の侶伴」なる著書がある。文藻豊かな熱血漢で、又、文筆をよくする。北高小栗村出身である。

◎武次徳太郎君 西彼蚊燒郵便局在勤。初め、西彼高島、蚊燒、爲石等の小學校に教鞭を執り多年育英に盡したが後勇退して自村郵便局に入つた。温厚篤實の士である。

◎種田作一君 北松世知原村篤農家として熱心農道に精勵してゐる。陸軍歩兵少尉、在郷軍人分會長として、よく努力してゐる。氣宇濶達、明快で、質實剛健の士、非常時下に於ける有爲の材幹である。

◎中里伊勢松君 南松有川警察署勤務、始め小學校に教鞭を執り、有家、三井樂等に奉職したが後警察界に轉向し、長浦、時津、式見、の駐在所を歴任して、今日に到つた。謹嚴にして温情ありよく民衆保護に努め、頗る信頼を得てゐる。

◎村田八郎君 諫早町クマヤ雜貨店を經營、非常なる發展振りを見せてゐる。誠實で頭が低く商賣は至つて上手である。

◎向島磨志男君 初め西有家農會などに勤めたが、中途雄圖を抱いて斗南の翼を伸べた。現在昭和製糖所新竹苗栗農場に入つて奮闘中である。南高神代の人。

◎上田 薫君 朝鮮江原道春川郡廳勤務、其以前は朝鮮總督府學務局に精勵した。勤勉篤行の士として好評を得て居る。南高湯江村出身。

◎上野敏雄君 母校助手を勤め、充分實力を養成して爾來自家經營に精進した、勤勉努力の士として好評がある。小栗村の人。

◎野田次三君 母校助手より佐賀縣神崎郡千歳

村農會技手を勤め、後三田川村農會に轉じた。其後、本縣面高村農會を経て南松支廳農林技手に抜擢され今日に到つた。極めて眞面目な精勵家で、仕事は出来る、人物は確乎りしてゐる。

◎野口末雄君 教員養成所卒業後、佐賀縣下の各地補習校に教鞭を執つたが、其後本縣に入り川棚、多比良等を経て、小野小學校訓導として精勵してゐる。極めて温厚篤實、努力家として聞へてゐる。

◎倉成吉助君 初め對馬奴加岳小綱、豆酸の小學校に勤務してゐたが、目下軍務につき某地にある。

◎黒岩國藏君 北滿三江省鶴立崗、森村部隊氣付湯原茨城村移民團長として、新天地開拓の第一線に活躍してゐる。當初、母校助手を勤め、後奈留島村農會技手となり、次いで奈留島補習校に轉じ、大に實績をあげ、後滿洲發展を決意し、今日に到つた。剛氣磊落、氣骨あり、熱血溢る快男子である。

◎山崎一郎君 長崎縣立農學校教諭として母校後進のため努力してゐる。學校時代からの秀才で、千葉高等園藝學校卒業後宮城縣廳勸業課勤務、次いで八幡市役所産業課に轉じ、後母校に聘せられ今日に到つた。資性温厚、穎悟聰明、一般の氣受けも到つてよろしい。蜜柑村伊木力の出身である。

◎山口 清君 朝鮮開城府大和町在任最近の動靜不明。

◎青木明朗君(舊姓山田) 朝鮮總督府群山穀物検査所技手として活躍してゐる。北高有喜村出身、水原勸業模範場練習生を経て、群山穀物検査所に入り、累進して技手となる。性温良勤勉一般の信望を得てゐる。郡山の實業家青木家に迎へられ同家を繼いだ。

◎松本行男君 南高北串山小學校訓導として令名を馳せてゐる。初め母校助手を勤め後佐賀縣杵島郡住吉補習校に教鞭を執り、更に長崎縣津波見、南串山、加津佐の諸校を経て北串山小學

波見、南串山、加津佐の諸校を経て北串山小學



校に轉任今日に到つた。性温厚、文藝に通じ多情多感な才子である。かつて艶麗な筆を振つて大毎の懸賞小説に一等を獲つたことがある。

◎松尾 量君 南高愛野村素封家で代々村の有志である。學校を出ると家業米穀肥料商を繼ぎて活動し、又温室經營に特殊の手腕がありメロンは品質優良天下一品で、雲仙の外客を喜ばしてゐる。温厚篤實、勤勉努力の人である。

◎松竹貞喜君 長崎縣産業組合聯合會在勤、産業發展に努めてゐる、農事試験場練習生から農業大學に遊び更に宮崎高等農林化學教室に入り研究を卒へて、宮崎縣廳農林技手を経て現在に到つた。温厚誠實人情美に富み、親しむべき謙讓の士である。北高長田村の出身

◎松永 實君 暫く諫早製絲場に勤めたが、後京都高等蠶絲學校に入り、卒へて石川縣蠶業試験場農林技手を勤め後岐阜縣大井蠶業試験場に轉じ今日に到つた。精勵實直の士として評判がよい。

◎佐藤武夫君 教員養成所を出て、東彼福重補習校に教鞭を執つたが、後盛岡高等農林別科に入り、卒業後北松皆瀬補習校に勤務、更に南田平、長田、箱崎、等を歴任し、現在平戸町田助青年學校教諭である。至誠勤勉努力家人物は確乎りしてゐる。

◎笹田 榮君 農事試験場練習生修了後東彼江上村農會に赴任次いで北松御厨村農會に轉じ大いに實績を挙げた其後教育界に志し、南高南有馬青年學校に入り、専ら農村青年の教導扶掖に當つてゐる、眞摯熱誠の師表として評判がよい

◎佐藤寅男君 教員養成所を出て、東彼折尾瀬西彼面高、の補習校に勤め其後滿洲に發展してゐる。東彼三浦の出身。

◎酒井 屯君 教員養成所卒業後軍隊に入り一年志願兵の騎兵少尉である。其後暫く朝鮮の警察官を勤めたが今は郷里南高西郷村で自營、村の中堅として働いてゐる。

◎北御門友治君 島根縣耕地課農林技手として

◎古賀安正君 北海道農事試験場に入り勤續十餘年、現在上川支場勤務北高小長井の人である

◎小柳寶作君 佐賀縣の豪農に生れ、東京農業大學を卒へて歸郷専ら自家經營に當つてゐる。

◎江崎勝也君 曩きに北松世知原村農會技手としてよく活動したが後郷里山口縣厚狹郡吉田村に歸省自營。温厚篤實勤勉努力の實際家である

◎淺岡克次君 盛岡高等農林獸醫科を卒業し鹿兒島縣立鹿屋農學校教諭として多年精勵したが後宮崎縣立農學校に轉じ、現在は福島縣立農學校に榮轉勤務してゐる。北松平戸の人、學生時代よりの秀才である。

◎貞方孝之君 南松岐宿村名門の出、前縣會議員貞方留之助氏の御曹子である。學校を出ると、乃父に隨ひ南米視察に行つた事もある。歸省後暫く三井樂補習校に教鞭を執つたが、後轉じて青方農會技手となり、更に北松鷹島村農會に轉じた。資性温厚恭謙の士で、極めて實直な勤勉家である。

活動してゐる。東京耕地整理講習所出身、長らく長崎縣耕地課に在勤業蹟を残した。資性英敏剛毅、仕事は出来る。野砲兵少尉である。

◎城戸君藏君 陸軍歩兵中尉として軍務につき某地に在る南高千々石の人剛直武勇の青年將校である。

◎溝上英文君 西彼喜々津小學校訓導として令聞がある。早くより教育界に志し。日見手熊伊木力等の各校を歴任し、現在に到つた。資性温厚恭謙、快明にして人情味あり。よく子弟から敬慕されてゐる。

◎宮原一男君 臺灣總督府專賣局高雄支局の監視課長として、眼光炯々威風堂々、あたりを拂つてゐる。六尺豊かの巨大漢、豪放磊落、勇猛果敢な男、又頭腦頗る明晰で諫農を首席で出た逸物だけに偉い處がある。初め北高小栗小學校の先生をやつたが、雄心勃勃、じつとして居れず、教鞭を捨て、臺灣に飛び出した。そして先づ臺中州豊原煙草耕作指導所に入り次いで總督府



專賣局臺中支局豊原出張所に轉じた。間もなく其才能を認められ總督府專賣局庶務課に榮轉、次いで現在の高雄支局監視課長に拔擢された。この間公務の餘暇に獨學して、文官檢定をとつた。家には法政圖書を山の如く積んで研究してゐる。一面又多情多感な情熱漢で、眞つ赤な想思樹の花の如き南國情緒を多分に有つてゐる。痛快な男だ。南高南有馬の出身である。

◎宮崎 麓君 教員養成所を出で暫く自村西郷小學校に勤めたが、家事の都合で辭めて、専ら家政に當つてゐる。温厚勤勉の人でよく農村の振興に意を用ひ、村會議員などやつて大いに働いてゐる。眞の農村の中堅である。

◎白石辰雄君 長崎市技手として勤業課林業主任の重職に在り、長崎の緑化指導に努めてゐる學校を出るとすぐ長崎市役所に入り爾來十有餘年一日の如く勤続精勵してゐる。資性温厚、俊敏にして伶俐、瀟洒たる才子肌の上品な男である。

◎森土之惠君 南高口の津町農會技手として活動

してゐる。三會村の人、學校を卒へると北海道に雄飛し、石狩郡當別農檢派出所に勤め大に敏腕を揮つたが、後歸郷して養鶏業を創め、大々的に經營して成績をあげた。養鶏業に關しては非凡な手腕を持つてゐる。其後家事の都合で廢めて口の津町農會に入つた。温良恭謙人物は荒削りだが、男らしい男、識見も手腕も充分にある。一町村技術員としては器が太と過ぎる。確乎りした人物だ。

◎諸岡秀雄君 北高長田村の出身學校卒業後専ら農業經營に當つて勤勉努力大いに業果をあげてゐる。尙家事の傍ら保險代理店をやり大に活躍してゐる。資性温厚篤實、努力勤勉の士で信望頗る厚く確乎りした農村の中堅人物である。

◎鈴立久雄君 教員養成所卒業、初め小佐々村楠栖校に勤め、後志佐校に轉じ、更に上志佐校に入り大に青年教育に努力してゐる。温厚篤實、至誠勤勉。人格の士で、北松上志佐村の有力者である。

## 第十四回卒業

(大正十二年三月) 六四名

◎一ノ瀬正己君 西彼時津の人、初め土井首小學校に教鞭をとり、後蚊燒小學校に轉じ精勵したが、家事の都合で辭めて、爾來自營に當つてゐる。温良實直の士である。

◎岩佐孝雄君 對島佐須奈村農會技手として、農村指導の第一線に活動してゐる。始め朝鮮水原勸業模範場に入り、歸郷して佐須奈小學校に勤め、後琴村船志小學校に轉じた。其後志を變じて、農會に入り自村産業開發に努力してゐる。

◎井手橋政六君 初め眞津山小學校に勤め、次いで眞崎を経て本野校に轉じた。後上京東洋大學文學部倫理科に入り、學を終へて歸郷、再び深海小學校に勤め、更に森山校を経て鳥島校に轉勤今日に到つた。歩兵少尉である。手腕力量十分の貫録があり、人物は確乎りしてゐる。北高本

野村出身。

◎市瀬純一君 一年志願兵の野砲兵少尉である教員養成所卒業、小佐々、大野の補習校を経て相の浦青年學校教諭として好評がある。英邁の資、活達の才、至誠の人である。

◎岩崎常雄君 教員養成所卒業、初め松島青年學校に勤め、宮村を経て千綿青年學校教諭として重きをなしてゐる。體軀堂々たる偉丈夫、博學多才温厚謹嚴の士である。

◎橋本康彦君 朝鮮水原高等農林學校卒業、平壤專賣局成川出張所勤務、精勵家として名聲を馳せてゐる。北高湯江村出身の秀才である。

◎原口貞雄君 教員養成所出身、古賀小學校より小野校を経て、千綿青年學校教諭として轉じた。信望がある。資性温厚、國文學の造詣深く熱血純情の田園詩人である。郷里は美しき古賀植木村、其人物も思想も、頗る高尚優雅な處がある。

◎早田 勇君 滿洲牡丹紅地方事務所農事主任



として、北滿沿線の植林事業を支配してゐる。學校を出ると滿洲に飛び出し、滿鐵に入つた。初め長春西公園事務所に入り、次いで鐵嶺地方事務所苗圃主任として敏腕を揮つた。昨春北滿牡丹紅に榮轉今日に到つた。體軀堂々、長大魁偉、眼光炯々人を射るが如く勇猛果敢な快速振りには滿洲馬賊など屁とも思はぬ豪の者、腕つ節が太くて心臓の強いこと當に超努級と云ふ處である。全く滿洲詭向きに出來てゐる。人間が荒削りで前受けはせぬが、血あり涙あり、人情濃かで親分肌の男、快男子である。北高眞津山村の出身。

◎大曲長世君 初め佐世保市戸尾小學校や柚木小學校に教員を努め後長浦村農會に轉向し、其後再び教育界に逆轉し、師範專攻科に入り、附屬校を経て福石校に教鞭を執つてゐる。

◎川波和夫君 若い頃、長田、森山等の小學校に教鞭を執つたが後司法畑に轉向、長崎刑務所看守として勤務してゐる。謹直精勵の士として

資性、温厚篤實、勤勉努力、而かも己を持する謹嚴、人を待つ、寛容、幾百の農夫たちは慈父の如くになづいてゐる。今や會社の絶大な信任を得、最も重要な職務に就てゐる。字に見る材幹である。

◎高瀬榮治君 西彼龜岳村白似田小學校主席訓導として令名がある。師範專攻科出身、瀬川、龜岳校を経て、現在に到つた。温良恭謙、極めて眞摯な師表である。

◎高野勝海君 教員養成所卒業後、前津吉、世知原、歌ヶ浦の補習校を経て、北高古賀青年學校教諭として精勵してゐる。眞面目な篤學の士で人望がある。東彼三浦村出身。

◎谷本做君(舊姓池田) 朝鮮全羅南道廳産業技手、羅州郡廳在勤、敏腕家として聞へてゐる。學校時代から秀才で首席で出た丈けに頭腦明晰學業優秀、殊に文筆に長けてゐる。初め長崎農友新聞に入り、幽腕な筆致と、熱烈な詩情とを以て、若人の血を湧かしたが、同紙の廢刊と共に

高評を得てゐる。

◎川副家基君 暫く有喜小學校に勤め後農事試驗場練習生として出直し、福重村農會技手となつた。其後再び教鞭を執つて湯江小學校に奉職したが、幾何もなく辭めて自營今日に到つた。温厚の人物である。

◎吉居照雄君 北松皆瀬村青年學校に勤務、歩兵少尉である。勤勵努力家として知られてゐるこの村の有志である。

◎山下良徳君(舊姓田中) 臺灣臺南郊外二份埔帝國製糖會社試驗場長である。北高小栗村出身早くより臺灣に雄飛し、臺中帝國製糖に入り、後豊深郡漂子社常國東員寶農場、大屯郡霧峰庄柳樹園試驗所を経て、北屯庄二份埔に入り、勤續精勵二十餘年遂に今日の地位をかち得た。入社當時同僚十餘名の多きに達したが其後糖業界不況の旋風に巻き込まれ、其の多くが他に轉向した。君は隱忍持久、熱とねばりで、この逆境時代を見事突破し、遂に最後の榮冠をかち得た

に、母校に入つて庶務を分掌、傍ら同窓會事務を擔任した。當時同窓會の動搖時代で色々の事業に關係した結果は遂に好事魔多しで行詰りを生じ一時非常の苦境に陥つた。これが導火線で君は大分氣を腐らしたが、一切の責任を一人で背負い黙々として一言の不平も不満も漏す事なく、孤影消然朝鮮の地に渡つた。而して全羅南道光州に職を求め、次いで光陽郡、靈岩郡を歴任し、現羅州郡廳に轉じた。渡鮮以來十有餘年造次にも潁沛にもこの苦杯を忘れず、一意専心捲土重來の意氣を以て發奮努力、遂に見事初期の目的を完成した。今は全南産業界に小壯有爲の指導官として赫々たる令名を馳せてゐる。俳句を唯一の友として異郷の空に人生の歸趣を見詰めつゝ兀々として健闘を續けてゐる、君の姿こそ、緊張、嚴肅、大悟そのものである。試練を経て玉成された君の將來はこれからであらう。

◎立木 喬君 教員養成所卒業、上波佐見、黒崎、歌ヶ浦、茂木、三重の諸校を歴任し、現西



彼松島小學校訓導として精勵好評を博してゐる瀬戸の出身である。

◎堤 直人君 北松世知原村の有力者、終始一貫自營農業に精勵してゐる。

◎辻 始君 北松佐々村の有志家、卒業以來一路農道に精進してゐる。

◎中濱嘉知郎君 初め北高戸石小學校に教鞭を執つて以來、鳥島、長田校を経て、小長井村長里校訓導として精勵、温厚篤實眞面目な勤勉家として信望を得てゐる。有喜村出身である。

◎楠原金藏君 日本大學商科に學び、後滿洲撫順炭坑警察官として民衆保護に當り、日滿融和の實をあげてゐる。

◎永田正之君 一時愛野小學校教員として勤務したが、暫くにして辭め、専ら家政に當つてゐる。南高有家の有力者である。

◎山口 弘君 早くより朝鮮に航し農界に精進現在平安南道順川郡廳に勤務精勵家として知られてゐる。佐賀縣藤津郡熊古見の出身である。

◎内野實作君 西彼喜々津の人、米穀肥料商を經營し、手廣く商線を張つてゐる。山砲少尉、在郷軍人分會長など務め、村での顔役である。資性温厚如才がなく、商賣にかけては大膽に活動する。中々のやりてである。

◎梅崎己代治君 南滿洲金州民政署殖産係主任として活躍してゐる。山口高等商業學校支那貿易科を卒業し、金州民政署に奉職現在に到つた資性温厚謙讓の紳士で識見あり、手腕あり、大陸殖産事業に對する具眼の士である。地方民の信賴極めて厚い。諫早出身である。

◎野元 倫君 教員養成所卒業初め折尾瀬補習校に勤め、後師範專攻科に入りて、附屬小學校訓導に任ぜられ次いで早岐小學校に轉じた。資性温厚篤實、聰明な人格者である。

◎野口晃夫君 西彼矢上村の人。長らく日見村役場に勤めたが後辭して専ら自營に當つてゐる精農家として村内にき重をなしてゐる。

◎中野西麿君 學校卒業以來父業を助けて長ら

く江の浦郵便局に手傳つたが、其後奮發渡滿して大連市役所財務課に奉職してゐる。極めて眞面目な常識圓満の人物である。

◎野中丈太郎君 長崎縣穀物検査所平戸出張所長として重責の地位に在る。初め農事試験場練習生修了後崎針尾農會技手となり、次いで加津佐村農會に轉じ大に精勵した。其の實直な勤勉振りを認められて一躍南松郡農會技手に拔擢された。偶々郡廢に伴ふ淘汰に禍せられ、一時福江町農會に隱忍の日を送つたが其後再び對馬支廳農林技手に任ぜられ、續いて縣農産課に榮轉今日に到つた。英敏にして眞摯、仕事は捌ける處世の要道もよく會得して居る。

◎山口辰次郎君 笈を負ふて東京農業大學に遊び、歸省後暫く諫早第一小學校に教鞭を執つたが、再び學生生活に戻つて師範專攻科に入り、小栗小學校訓導として赴任、次いで長田校に轉じた。頭腦明晰篤學の士で、學生時代秀才を以て聞へた。手腕力量共に備はり人物は確乎りし

てゐる。

◎山田直一君 初め面高小學校に職を奉じ、次いで式見校に轉じた、後辭めて教員養成所に入り、貫録を得て、島原第三小學校訓導となつた其後布津飯野校を経て北魚目津和崎青年學校教諭として勤務してゐる。實直精勵の人で子弟の信賴を得てゐる。

◎山田繁樹君 佐賀縣三養基郡鳥栖小學校教員を振り出しに、次いで中原農業補習校に轉じ、更に上峰校に轉任した。其後教鞭を捨て、臺灣に雄飛、臺南北港郡四潮庄嘉南大川沙飛監視所に就職した、後家事に呼び戻され歸國して教員養成所に入つた。卒業後北松神浦補習校に勤め更に依浦青年學校教諭として榮轉今日に到つた温厚篤實、勤勉努力家として信賴されてゐる。

◎山口須惠喜君 長崎縣立農事試験場技手、相浦園藝指導所主任として得意の地位に在る。初め農事試験場練習生として、實力を練り、西彼三重村農會技手を経て、農事試験場技手に榮進、



園藝部に勤務、精勵多年其手腕を認められ、現在の地位に就いた。穎悟聰明、博識多才、常識に長けた、明朗活達の社交人である。

◎松尾安男君 東彼三浦村出身、早くから朝鮮に渡航警察界に入り半島警備の重責に當つてゐる。

◎松尾 武君 初め江の浦小學校を振出しに廣田、三浦、鈴田、高濱校を経て、北松鷹島青年學校に教鞭を執つてゐる。東彼三浦の人、濃厚篤實の良師表として聞へてゐる。

◎松尾英雄君 本縣師範二部を出て、諫早第一小學校訓導となり、次いで眞崎小學校に轉じた後、志を半島に立て、京釜線秋風嶺公立普通學校訓導として出向、更に忠清北道堤川郡鳳陽學校に榮轉した。眞面目な精勵家として好評を得てゐる。眞津山村出身である。

◎吉永源吉君 北松調川青年學校教諭として活潑な働きを見せてゐる。教員養成所出身、今福山里、南田平、波佐見等の各校を歴任し、調川

校に轉任今日に到つた。豪放磊落、物事にこだわらず、明朗活達男性的氣魄の横溢した、愉快な先生である。

◎前田 孝君 東彼折尾瀬小學校訓導として精勵してゐる。初め郷里湯江小學校に勤め、後折尾瀬校に轉じた。資性濃厚、職務に忠實親みのある先生である。

◎藤田武雄君 朝鮮水原勸業模範場に入つて實力を養成し、後黄海州穀物検査所に勤めた。其後京城專賣局に轉じ、仁義洞、龍仁、寧邊等を歴任し、現在江原道寧越專賣局支所に在勤してゐる。頭腦明晰、霸氣に富み、識見あり抱負あり、半島農界の精銳として己に其名を知られてゐる。北高湯江村出身。

◎古賀卯太郎君 北高諫早町出身土木請負業者として縣下の土木界に活躍してゐる。初め農商務省熊本蠶業試験場に入つて、蠶業を研究したが、後家業を継ぎ今日に到つた。嚴父は本縣土木界の長老古賀卯作翁である。穎悟聰明、俊敏

にして霸氣滿々曩きには諫早町會議員として萬丈の氣を吐いた。前途有爲の事業家である。

◎古賀民郎君 諫早町出身、實業經營

◎小林 衝君 南米ブラジル渡航。

◎古賀 清君 農事試験場練習生を経て南高西有家町農會技手となり、次いで西彼長浦村農會に轉じ、後南松支廳農林技手に拔擢された。偶々健康を損ひ辭して故園長與に歸り園藝に従ひ専ら靜養に努めてゐる。資性濃厚眞面目な人物である。

◎後藤壹岐松君 滿洲新京日本警察署勤務、日滿協和の第一線に活躍してゐる。始め教員養成所を出で、萱瀬、川原の補習校に教鞭を執つたが、君の性格は一小天地に踞踏するに餘りに太とすぎる。つひに飛び出して、滿洲に發展し新京警察署に職を奉じた。容姿端正凛乎犯し難きところがあり、明朗活達溫雅な親しみがあつた。警察官として洵にふさわしき人材である、萱瀬の出身。

◎榮田廣海君 早くより教職に在り、高濱、瀬戸校を経て眞津山青年學校教諭として、精勵したが、其後家事の事情で辭めて自營に精出してゐる。濃厚篤實の勤勉家である。

◎才木博夫君 諫早町醬油醸造業を經營し、奮闘努力大に業績をあげてゐる。活達にして英敏商才に長け正義觀念に強い。よく公共の爲めに力を捧げて惜しまぬ人である。

◎佐藤今朝雄君 北高小栗村出身、南米パラシユ渡航柘植事業に活躍してゐる。

◎佐藤繁男君 教員養成所を出で、南高安中補習校に教鞭を執り、次いで土黒青年學校教諭として精勵してゐる。濃厚謹嚴、至誠一貫、地味な人物で、農業に就ては體驗から得た自信を有つてゐる。小栗村出身である。

◎北村棟秋君 西彼瀬川村の人、長らく大串、松島、式見の小學校に教鞭を執つたが、後辭して實業に従事してゐる。

◎木下元齊君 農事試験場練習生を経て東彼早



岐町農會技手に就任し、次いで壹岐郡鯨伏村農會、長崎市農會、南松岐宿村農會を経て矢上村農會に轉任今日に到る。資性濃厚、沈著にして研究心に富み、殊に農業藥劑に關しては獨特非凡の識見と手腕とを有つてゐる。生れは眞津山である。

◎溝越直人君 臺灣臺北州羅東郡冬山庄廣興昭和製糖會社農場長として活躍してゐる。北高森山の入、學校を出ると、すぐ臺灣に飛出し、昭和製糖に入つて、臺南州新化郡玉井農場に働いた。爾來幾年精勵奮闘非常なる業績をあげ、異數の拔擢を得て、現在の地位をかち得た。資性穎悟頗る霸氣に富み、何事もテキハキやつてのける敏腕家である。かつて臺灣全島製糖會社聯合庶糖競作會に於て一町歩當り生産量七十萬斤をあげ世界的記録を作つて一躍名農場長の名をあげた、今や會社の寵兒として絶大な信用を得てゐる。一面又非常なる温情の人で、よく後輩を引き立て、面倒を見て居るのは感心なものだ。

西彼喜々津村出身。

◎久田淺雄君 西彼面高青年學校教諭として令名がある。初め志願兵として軍隊に入り、任官して歩兵少尉である。爾來教職に就き、宮村、江上、を経て現在に到つた。精勵格勤よく信頼を得てゐる。東彼崎針尾村出身。

◎森 周作君 東彼西大村の精農家である。初め自村農會に勤め後、彼杵村農會に轉じ、精勵したが最近は辭して自營である。至誠忠實、手腕力量共に備はりしつかりした人物である。

◎管 繁豊君 教員養成所出身、調川小學校を経て郷里小濱小學校訓導となつた。十年一日の如く郷黨子弟の訓育に當つてゐる濃厚篤實恭謙の美德あり、絶大な信望を得てゐる。」

### 第十五回卒業

(大正十三年三月) 七三名

◎池田信行君 本縣立農事試驗場技手として、

仁俠の士である。

◎三岳寅四郎君 東彼川棚小學校訓導である。早くより教育界に入り、波佐見小學を経て現在に到つた。濃厚篤實精勵家として聞へてゐる。

◎宮崎利基雄君 南高西郷村自營。

◎島田勝馬君 臺灣新竹市役所に在職。始め郷里喜々津小學校教員を勤めたが、後教鞭を捨て、上京、明治大學政治經濟科専門部に入り、卒へて臺灣臺北法院に勤めた。最近新竹市役場に轉じ今日に到つた。資性濃厚篤學の士で極めて健實な人物である。

◎島村三雄君 教員養成所卒業、初め日宇小學校に勤め、爾來有喜、森山、楠栖、中野の諸校を経て、福島校訓導として現在に到つた。濃厚實直の士で、勤勉努力よく子弟に信頼されてゐる。

◎樋口降綠君 朝鮮京城朝鮮農會肥料係として精勵してゐる。總督府農事試驗場出身で、手腕力量兼備の農業戰士である。評判はよろしい。

病虫害部を擔當してゐる。北高本野の出身、學校を出ると長崎税關植物検査所に入り田中顯三所長の下でしつかり腕を磨いて後、農事試驗場に轉勤、今日に到つた。頭腦明晰、緻密な顯微鏡下の仕事には持つて來いである。理屈も一と通りは言つてのける。我の強い男だが又一面有情で、物事の解りが早い。才子である。

◎井上剛作君 諫早田町井上金物店の主人公として洗練された商人タイプになりきつて活動してゐる。諫早の豪商井上吳服店の御曹子だけに商賣は御手のもの、學校を出ると博多で實地見習をやつて後獨立して今日に到つた。濃厚誠實信用第一主義で行くので頗る人氣を博してゐる瑞穂の變り種子である。

◎伊東貞敏君 南米ブラジルへ發展。

◎飯笹策馬君 東彼西大村の人、暫く郷里の小學校に教鞭を執つたが後辭めて上京、實業に従事してゐる。

◎今崎勝郎君 東彼三浦村の篤農家、學校卒業



後長らく自營に精進したが後本縣穀物検査員となり 眞津山、本野を歴任し目下諫早町擔任である。濃厚篤實 勤勉力行の士、實地で腕を鍛つて来ただけに眼識は確かである。人物はしつかりしてゐる。

◎橋本政見君 本縣教員養成所を出で、今福、奈留島の補習校に教鞭を執つたが、後朝鮮龍山に飛んだ。居ること兩三年にして再び故郷に歸り穀物検査員として出直し、江の浦を経て森山村駐在である。米の主産地森山の検査員は中々骨が折れるが眞面目と親切で行くので、一般の信頼を得。好成績をあげてゐる。小栗村出身である。

◎原田精助君 諫早尋常高等小學校訓導として令名がある。本縣師範專攻科出身、本野、小長井を経て、諫早に榮轉今日に到つた。濃厚篤實 學識宏才、人間味の豊かな純情の先生である。

◎林田正知君 北高郡農會技手として、市場事務を擔任してゐる。初め母校助手を勤め次いで

小野小學校に教員となり後、志を轉じて、熊本縣天草郡本戸村農會技手に就職した。其後、北高湯江村農會、帝國農會長崎販賣斡旋所を経て北高郡農會に榮轉今日に到つた。性豪放磊落、奇略縱横、經濟的手腕あり。長い間天草邊で揉まれて来ただけに、世の中が解かつてゐる。熱血有情の快男子である。

◎林田三津太君 朝鮮忠清南道定山公立農業學校長として敏腕を揮つてゐる。教員養成所を出て壹岐柳田、北高江の浦の補習校を歴任、後朝鮮に雄飛した。初め平北龜城公立農學校に勤め次いで、忠清南道鳥致院公立農學校、忠南農村青年訓練所を経て定山に榮轉した。資性溫良、精勤家で實直な人物である。

◎山口 繁君(舊姓西村) 教員養成所出身。後暫く小栗補習校に勤めたが、後熊本教導學校に入り卒へて軍隊に入り目下某地の重要任務に就いてゐる。剛直至誠、元氣ある武人、歩兵少尉である。

◎土井猛雄君 朝鮮馬山穀物検査所長として鮮米の聲價向上に努力してゐる。早くより朝鮮に渡航、總督府穀物検査所に入り、釜山支所居昌出張所を経て、馬山に榮轉した。濃厚誠實、精勵家として令名がある。

◎織田累治君 南高神代青年學校教諭として精勵してゐる。教員養成所出身、初め佐賀縣西松浦郡大川内補習校に勤め、次いで南高深江村に轉じ、更に小値賀、小長井を歴任し、現在に及んだ。精勵格勤實直の士として衆望を得てゐる。土黒村の人。

◎大脇徹夫君 臺灣花蓮港廳壽區賀田村鹽水港製糖壽農場に勤め大に奮闘してゐる。鹿兒島縣出身で早くより、臺灣に雄飛、勤勉努力重要な地位に在り。將來を期待されてゐる。

◎早稻田藤男君 南高神代村農會技手として聲名を馳せてゐる。本縣農事試驗場練習生より助手を経て、同場中川園藝分場に勤め、大に實力を養ひ後南高愛野村農會。南松玉の浦農會を経

て神代に轉じた。體軀堂々、霸氣滿々、頭腦明晰、識見あり手腕あり、確乎とした人物である。眞に人を觀る天下の伯樂に遇はゞ、必ずや農界の逸足として、俊者の名をなすであらう。前途有爲な本縣農界の精銳である。

◎川上爲作君 西彼式見青年學校教諭として信任を得てゐる。教員養成所卒業後、佐賀縣藤津郡大浦補習校に勤め、次いで北松志佐青年學校に轉じ、今次式見校に轉勤した。資性溫良、人格圓滿、些の主角なく、親しみある寛容の士で農村青年指導者としては好個典型的な人物である。

◎河原辰巳君 佐賀縣三養基郡基里村朝日青年學校教諭として農村青年訓育に當つてゐる。佐賀縣師範二部を出て、郷里久保泉小學校に教鞭を執つたが、更に青年學校教員養成所に入り、卒へて現在の教職に就いた。濃厚恭謙、勤勉努力眞剣に農村教育の理想を把握して實現に邁進してゐる。皇紀二千六百年紀念の計劃大事業は



頗る傾聴に値するものがある。

◎吉田逸治君 北高湯江村自營。

◎横山貞雄君(舊姓森) 西彼長與青年學校教諭として衆望を得てゐる。教員養成所を出て南松奈留島補習校に勤め、時津、古賀を歴任して、現在に到つた。學校時代から頭腦明晰學業優秀の逸材、時津名門の出である。將來伸びるであらう。有爲の青年師表である。

◎田島 一君 北松船越青年學校教諭として精勵してゐる。教員養成所出身、北松御厨補習校を振出しに、南松青方村上郷校を経て相の浦船越校に轉じた。温良實直、勤勉家として信頼されてゐる。南高多比良の人である。

◎田中廣一君 北松調川村田中炭坑主として現下非常時局の波に乗り、黒ダイヤの光り燦然として素晴らしい活況を示してゐる。君の炭坑は北松第一の良質炭田で、加之其炭坑が海岸に近いので、運搬の便がよく、事業經營上頗る有利の立場に在る。君の使傭する坑夫職員五百有餘

會社に入り、其後現任地に轉じ今日に到つた。壹岐柳田の人である。

◎高尾寅一郎君 長崎市西浦上精農家として都市園藝に熱中、非常な好成绩をあげてゐる。勤勉力行の士、郷村の中堅である。

◎高以來繁雄君 北高深海青年學校教諭として令名がある。教員養成所を出て、小長井小學校に奉職、次いで深海青年學校に赴任、今日に到つた。温厚謹嚴な師表、歩兵少尉である。

◎田中 博君 長崎市伊良林青年學校教諭として在勤。初め九州帝國大學農學部林學科教室に入つて専念研究した、後志を教育界に轉じ、教員養成所を経て、千綿青年學校に奉職し、次で伊良林に轉じた。學究肌の勤勉努力家で、温厚實直の良師として聞へてゐる。西大村の出身。

◎山本三郎君 東彼千綿村の有力者、精農家として知られてゐる。穎悟聰明、英敏な活動家で公共事業にも盡してゐる。歩兵少尉。堂々たる國家有用の干城である。

人、晝夜兼行でエンヂンの音勇ましく、地下の寶を掘り出して居る。豪勢なものだ。無論先代よりの事業だが、一時炭界不況の頃は、自分の家財道具まで投げ出して坑夫たちと苦樂を共にして来ただけに、世の中の辛いも酸いもよく解かり主従一體となつて働くので、よく事業は統制され、能率は極度に上かつてゐる。體軀の引締まつた堂々たる快男子、多くを語らぬが重厚で謹嚴な膽、斗の如き親分肌の好紳士である。地方での有力者で又議員として村の爲めに盡してゐる。瑞穂の持つ特異な存在で、財的成功者の隨一であらう。當に北松炭田に於ける炭坑王である。

◎田鶴隈六君 マニラに渡航拓植に従事してゐる。北高眞津山出身。

◎立川 猛君 島原鐵道に勤務精勵してゐる。温厚直實、眞面目な努力家として信頼がある。

◎谷口傳君 朝鮮全羅南道廳農務課在勤。東京農大耕地整理講習所卒業後、朝鮮土地改良株式

◎谷元龜雄君 佐世保天主教會に在り、神の使徒として傳導に仕してゐる。一時時津小學校に教鞭を執つたこともある。西彼面高出身。

◎松瀬清君(舊姓辻) 愛知縣津島高等女學校教諭として女子教育に當つてゐる。鹿兒島高等農林出身、諫早農學時代からの秀才である。北松吉井村の人、篤學温良の先生として好評がある

◎辻 保範君 北松皆瀬村の有力者、學校卒業後終始一貫農業自營に邁進してゐる。温厚篤實、農村の中堅人物である。

◎鶴羽美治君 西彼時津青年學校教諭として聲名を馳せてゐる。初め廣田、佐世等の小學校に勤めたが、後教員養成所に入り、卒へて雪の浦補習校に勤め後時津に榮轉した。温厚篤實、精勵格勤の士として信望がある。東彼宮村の人。

◎中島俊雄君 教員養成所出身、北松古田、福島、上志佐等の青年學校を歴任したが、最近は、大阪に出向してゐる。郷里は佐賀縣藤津郡大浦である。



◎永淵 巖君 朝鮮平壤驛在勤、早くより朝鮮に航し、鐵道に入つた。中途軍務に服し、退營後再び渡鮮、平安南道江西郡岐陽農業技手を勤め、後再び鐵道に戻つて平壤驛小荷物係主任を務めてゐる。江の浦の出身である。

◎内田 徹君 一時長崎縣農會や北高郡農會等に勤めたが、健康勝れず、病氣靜養中である。

◎野田與太郎君 佐賀縣立農事試驗場農林技手春日原種圃勤務である。初め母校助手として實地研究に没頭し、後北松大島村的山小學校に教鞭を執つた。其後教職を去つて盛岡高等農林學校に入り、卒へて埼玉縣鴻の巣農林省農事試驗場に入り、更に研究を進め、佐賀縣立農事試驗場に勤務今日に到つた。資性溫良恭謙常識に富み人格圓滿、感じの好い人である。

◎久保政市君 滿洲熊岳城農事實習所を了へ、普蘭店に農園を開き自營大に奮闘した。其後農園を廢し大連に出て實業方面に活躍してゐる。北高本野の出身である。

べき天稟の徳分がある。よき先生である、北松小佐々出身。

◎松竹兼義君 京都府内務部耕地課技手として活躍してゐる。初め南田平小學校に教鞭を執り後辭めて東京帝大農學部資料に入り農業工學を修め、卒へて軍務に就き電工少尉と昇進した。退當後京都府農林課に勤め、次いで耕地課に轉じ今日に到つた。北高長田村出身、質實剛健の士手腕あり、力量あり、確乎りした人物として高評がある。

◎吉田重喜君 東彼早岐町農會技手として精勵してゐる。農事試驗場練習生を経て南高山田村農會に入り、次いで早岐町農會に轉じた。溫厚眞摯、誠實勤勉の士である。

◎松本貞治君 岐阜縣耕地課技手を勤めてゐる。農大耕地講習所出身で、長らく長崎縣耕地課に在り、努力してゐた。穎悟聰明、敏活で仕事はさばける。資性善良、熱意があり、情味があり、明快な技術家肌の人物である。

◎山田半衛君 南高有家の資産家、學校卒業以來家業を繼いで實業に従事、大に手腕を揮つてゐる。溫厚謹直、町の有力者として重きをなし地方發展に貢献してゐる。

◎山口鐵雄君 鹿兒島縣立伊佐農林學校教諭として新進の名を馳せてゐる。諫早農學時代からの秀才、鹿兒島高等農林を首席で出た逸材である。卒業すると、すぐ伊佐農林に迎へられ教職に就た。頭腦明晰、篤學の士で、動物學方面には特に造詣が深い。北高眞津山村出身である。

◎山本敏惠君 南松福江青年學校教諭として青年育英に當つてゐる。初め茂木小學校教員を務め、次いで教員養成所に入り卒へて川原 楠栖補習校を歴任し、福江青年校に榮轉した。佐世保市相の浦の人、溫厚格勤一般の信頼を得てゐる

◎山口利三君 北松小値青年學校教諭として敏腕を揮つてゐる。早くより教育界に入り、鷹島楠栖補習校を経て、小値賀に轉任今日に到つた。性溫良にして謙讓、明朗にして優雅眞に親しむ

◎藤川 實君 東彼廣田小學校訓導として信頼されてゐる。早くより教職に就き彼杵、早岐等の小學校を経て廣田校に轉じ、今日に到つた溫厚篤實、至誠勤勉の良師で、長兄藤川茂氏、中兄朝永安馬氏、兄弟三人揃つての諫早農學出身で共に轡を並べて教育界に進出してゐるところ洵に壯觀といふべきである。

◎福島房一君 西彼波佐見實業青年學校教諭として郷村教育に精進してゐる、教員養成所出身松原、千綿、彼杵、松原の諸校を歴任し、波佐見青年校に榮轉今日に到つた。歩兵少尉の肩書を有する國家の干城である。溫厚恭謙の良師よく、子弟の敬愛を買つてゐる。松原の人である。

◎小原龍夫君 東彼上波佐見町農會技手として活動してゐる。初め教鞭を執つて青年指導に當り、上志佐、御厨等の補習校に務めたが後轉向して農會に入り、壹岐渡良村を経て上波佐見に轉補した。白哲小柄の中年紳士、頭腦明晰、



識見あり、抱負あり、確乎りした熱血男子である。

◎江崎作四郎君 北高田結青年學校教諭である。教員養成所出身、初め佐賀縣三養基郡基山小學校に勤め、後、北高田結補習校に轉じ、今日に到つた。長身巨軀堂々たる快漢だが、心事は至つて物優さしい先生、歩兵少尉である。

◎寺尾基治君 臺灣臺南州北門郡七股庄土城子明治製糖會社農場勤務、南高愛野村出身。

◎寺田武夫君(舊姓森下) 南高南串山村の人、早くより朝鮮平壤に在住、實業に従事よく、活動してゐる。

◎赤瀬忠勝君 植木村北高古賀の篤農家、代々植木を手廣くやつてゐる。近來君に至つて益々高級藝術品を産出し聲價を上げてゐる、勤儉力行の精農、郷村に大なる信望がある。

◎青野有恒君(舊姓吉田) 北松志佐青年學校教諭である。教員養成所出身、瀬戸、志々岐、吉井等の諸校を歴任し志佐校に轉任今日に到つた。

自營に入つた。資性温良極めて地味で、毫も邊幅を飾らず、孜々營々として温室管理に努力してゐる。眞の農村中堅である。

◎湯村喜十君 北松佐々小學校訓導として郷關子弟の教養に當つてゐる。初め福井小學校に務め、後上京勉學、業を了へて再び佐々校に奉職今日に到つた。誠實勤勉温良の師として好評がある。

◎三田磯一君 西彼瀬川村の隠れた精農家で村一番の模範的な勤儉力行家である。學校を出ると、同僚の唯彼が俸給生活を志願するのを尻目につけて野良に出た。君の家は由緒正しき武門の流れ、一種變つた理想と信念とに生きてゐる。頭の良い純情者、物事を主觀的に見て、冷靜に批評し、善處して行く、獨特の才能がある。徹底的な自給自足、主義者で現代日本が要求する、眞の農業戦士等に見る在野の遺賢である。

◎満岡光治君 初め壹岐箱崎小學校に勤め、後

温厚篤實、至誠一貫の勤勉家實際的手腕家として好評がある。南高島原出身。

◎眞崎克治君 北高諫早小學校訓導として子弟の信頼を博してゐる。本縣師範二部を出て西彼三重小學校に勤め、更に師範專攻科に入り、卒へて長田江の浦校を経て諫早校に榮轉今日に到つた。温厚恭謙、自ら持し、人を待つに厚きものあり。確乎たる信念の士として尊敬されてゐる。北高小野村出身である。

◎坂井富夫君 初め朝鮮勸業模範場木浦棉作支場に入り、後忠清南道公州郡廳に勤め、半島産業開發に努力したが最近の消息不明。

◎坂口好巳君 西彼白似田學小校訓導として育英に當つてゐる。西彼長浦、瀬川校を経て白似田校に轉じた。温良精勵家として好評を博してゐる。

◎崎山 守君 北松吉井村の篤農家、温室栽培に好成绩をあげてゐる。初め教育界に起ち、吉田神浦寶龜等の補習校に精勤したが、後辭して

日本大學に學び更に本縣教員養成所を卒業、後大正 眞津山等の小學校に歴任した。學生時代の秀才である。

◎菖蒲實作君 北高長田村篤農家、村の中堅として重きをなしてゐる。

◎森元一郎君 教員養成所を出で、軍隊に入り歩兵少尉に任官した。退營後、福江、小栗、南高湯江、の各校を歴任し、郷里三會青年學校教諭として郷黨のため盡瘁してゐる。謹嚴、聰明、端正、清廉潔白の士である。

◎世知原次郎君 東彼波佐見青年學校教諭として好評がある。初め中里小學校教員を勤め、後教員養成所に入り、卒へて若松補習校に赴任、福江校を経て、波佐見に轉任した。温厚篤實、勤勵家として知られてゐる。北松世知原村出身である。

◎錢坪保衛君 北高諫早町農會技手として、活躍してゐる。若い頃、小濱、木場等の小學校に教鞭を執つたが、中途辭して嚴父の經營する朝



鮮忠清北海道忠州郡嚴政面の農場に入て事業を助けた。父君は在鮮多年廣大な土地を有する地主である。其後歸郷して再び南松三井樂濱青年學校に教鞭を執り、後轉向して小江村農會に入り最近諫早に轉じた資性濃厚、著實で意志強固、中々の精勵家である。北高農界の中堅として重きをなしてゐる。

### 第十六回卒業

(大正十四年三月) 七五名

◎伊藤莞爾君 卒業後鹿兒島市長田町在住、最近の消息不明、原籍南松濱の浦村。

◎井上福重君 朝鮮總督府穀物検査所屬として京城の本部に在り、人事行政の樞機にあづかつて、最も重要な役割を務めてゐる。壹岐鯨伏の人、諫早農學を優等で通うし、卒へると撰拔されて朝鮮總督府勸業模範場練習生として水原に入つた。資性濃厚、頭腦明晰、職務に忠實な君は

直に總督府穀物検査所本部附に任用され、爾來十有幾年、精勵格勤、累進して押しも押されもせぬ今日の重要な地位を勝ち得た。體軀堂々、常識圓滿、社交的手腕に富み、而かも熱とねばりとしてじり／＼と押しして行く事務的才幹は益々冴へて、いやが上にも人物の貫録を増して行く特に大書すべきは君が後輩に對する誘掖輔導で排他主義の盛んな現代に於て洵に見上げた美德の主である。朝鮮瑞穂同人の中心勢力として頗る重きをなしてゐる。

◎石丸利雄君 北高眞津山村自營。

◎井手清臣君 東彼西大村青年學校教諭として活動してゐる。教員養成所出身。船越、竹松の青年學校を経て現在に到つた。熱心な農村教育の研究者で、又文藝趣味を有し、嘗て同人雜誌を發刊し、田園文學を鼓吹した事がある。見粗野の朴訥漢だが一たび膝を交へて語らば農村理想建設の意氣に燃えて時の移るを知らざる熱情漢である。穎悟聰明、識見俗流を抜く鐵腸の

士で、生れは北松大野村である。

◎林 秀男君 西彼雪ノ浦青年學校教諭として精勵してゐる。卒業後暫く長崎縣農會販賣斡旋所に勤め、後軍務に服し、退營後盛岡高等農林別科に入り、卒へて南高堂崎、北高小長井の補習校を歴任して現在に到つた。頭腦明晰、活達宏量の人材である。

◎林田良秋君 北高小栗村の人、家業を繼いで柑橋園を經營し、傍ら居村農會技手を勤めたが、其後志を變へて東京府下八王子市外川口村片倉製絲栽桑試験所に入り勤勉した。其後家事の都合で歸郷、現在は西彼日見村に在り實業に従事してゐる。濃厚廉潔の士である。

◎橋本綱雄君 北高小野村の篤行家、村一番の模範農として知られてゐる。曩きに獻穀田奉耕者として光榮ある任務を果し、一家一門の榮譽を頂戴した。濃厚篤實明朗にして謙讓、加ふるに勤勉努力、模範農として一般に敬愛されてゐる。

◎間 辰男君 北高有喜青年學校教諭である。

教員養成所卒業。崎針尾、折尾瀨校を歴任、有喜校に轉任した。眞面目な勤勉家として知られてゐる。

◎西村秀男君 諫早上門口西村うどん屋主人として一時非常なる繁榮を見せたが、其後雄志を抱いて、新天地滿洲に飛び出し、現在では北滿牡丹紅方面で盛んに活躍してゐる。中々の敏腕家で、何事か一芝居打つてであろうと期待されてゐる。

◎二ノ瀬節郎君 南洋サイパン島、南洋興業株式會社農務課在勤、東彼彼村出身。

◎鳥井元治君 農林省米穀局米政課勤務、初め教員養成所を卒へ、西彼川原補習校に教鞭を執つたが、程なく辭して上京、中央大學經濟科に入つた。卒業後農林省米穀局米政課に勤め現在に到つた。穎悟聰明、經濟的方面には一隻眼を有する新進として高評がある。南高有家出身である。

◎朝永利光君 東彼折尾瀨村自營。



◎太田正詮君 北滿吉林城外松昌號木材店に在つて、松花江沿岸の材木伐採に活躍してゐる。南高湯江村の人、初め養鶏場を經營し盛んに孵卵事業に精進したが、滿洲建國と同時に滿洲に發展した。霸氣滿々たる事業家肌の男である。

◎大谷幸男君 佐世保市庵の浦自營。

◎渡邊清君 消息不明。

◎嘉納義信君 東京市葛飾區本田淡之須町二三在往、鹿兒島縣出身。

◎鎌崎歡喜君 北高森山村上井牟田、宗教界の新人として、衆生濟度に精進してゐる。

◎吉田重道君 南高有家町の有志者、若い頃長野小學校に教鞭を執つたこともある、後辭めて専ら家業に精勵してゐる。

◎吉田 宏君 南高口ノ津第二青年學校教諭として精勵してゐる。教員養成所出身。北有馬を経て口ノ津第二青年學校に轉任した。溫良順和の師として高評を得てゐる。

◎吉野正寛君 教員養成所を出て、南松青方村

利巧者である。

◎立川 盛君 教員養成所出身、小野校を経て西彼瀬戸青年學校教諭として勤務してゐる。經濟知識に長け勤勉力行の士として令名がある。諫早の出身である。

◎早田末喜君 南高布津青年學校教諭として精勵してゐる。教員養成所出身、鳥島、小野、武生水等の各校を歴任して布津校に轉じた。貴公子然たる閑雅な風采、貞靜にして多くを語らざるも、又頗る氣概あり、意志極めて強固な快男子である。家は山緒正しき武門の流れだと聞く。

◎中村秀市君 滿洲移民團長として新天地北滿の開拓に活躍してゐる。農事試驗場練習生を経て、世知原村農會に入り、次いで郷里小佐々村農會に轉じ、大に手腕を伸べたが、滿洲建國に伴ふ、大和民族大陸發展の先驅として、勇躍壯途に就いた。資性快明、剛毅果敢、積極進取の氣象に富んだ快男子、移民團長としては持つて來いの適材である。

上郷補習校に赴任したが後教職を去つて朝鮮釜山に渡つた。其後再び教育界に入り、岩瀬浦校を経て、郷里濱ノ浦小學校に轉じ子弟教養に當つてゐる。教務に熱心な先生として信賴されてゐる。

◎田中鹿藏君 北松鹿町歌ヶ浦青年學校に教鞭を執つてゐる。教員養成所を出て、小野、脇岬

多以良、神ノ浦の諸校を歴任し歌ヶ浦校に轉じた。溫厚篤實、精勵格勤の士として信望がある

◎田島久雄君 一時諫早商人銀行に勤めたが同行閉鎖と共に辭めて自營した。其後諫早町鶴川商店肥料部に入り専念努力してゐる。小栗村出身、眞面目な勤勉家である。

◎谷口 實君 諫早町目代、自營農業に精勵してゐる。

◎田添貞雄君 西彼七ツ釜村高原で農業をやつてゐる。不便な土地だけに經營至難、成果をあげるまでには相當苦心と年月とを要するだらう終始一貫頑張つて居るのは偉い。才智に長けた

◎中里 進君 北松江迎村猪調青年學校教諭として令名を馳せてゐる。教員養成所を出て、北松志々岐、依ヶ浦、神浦等の各校を歴任し猪調校に榮轉した。性到つて明朗快潤、男性的氣分に富み、人間味豊かな情熱漢、人に敬愛される徳分を有つてゐる。相ノ浦出身である。

◎内山武次君 教員養成所卒業、南松青方補習校より郷里東彼早岐小學校に轉じ精勵してゐる。溫厚篤實、勤勉努力の士として聞へてゐる。

◎久家義雄君 南松青方村上郷青年學校教諭として農漁村青年指導に當つてゐる。北松平戸の人、初め郷里小學校に教鞭を執り、後志々岐補習校を経て、更に上郷青年校に轉じ今日に到つた。溫良眞摯、極めて眞面目な篤學の士で子弟の信賴頗る厚い。

◎安永享一君 學校時代秀才を以て前途を囑望された。卒業と同時に滿洲公主嶺農事試驗場に推舉され、入りて勉勵したが、居ること數年、家事の都合で歸郷、現在は郷里加津佐で自營し



てゐる。

◎山口 正君 滿洲熱河省承德稅關在勤、新天地發展の先驅として重要な役割を努めてゐる。東彼大村箕島の人、初め農事試験場練習生となり次いで幹部候補生として軍隊に入り精勵して歩兵少尉に任官した。退營後箕島大根の採種業などやつたが、再び軍務に就て南方防備に當つた。退役後、滿洲に雄飛、現在に到つた。質實剛健、非常時局の日本が要求する眞の材幹である。

◎山本禎之助君 南高愛野村農會技手として眞面目な忠勤振りを見せてゐる。北高小栗村出身農學校助手を経て南高西郷村農會に入り次いで愛野村に轉じた。濃厚篤實の士である。

◎山口榮一君 大分縣耕地課技手として活動してゐる。初め南高口加小學校に教鞭を執つたが辭めて大分縣耕地課に入つた。其後東京農大耕地講習所に入り、卒へて再び原職に歸り現在に到つた。眞面目な技術官として高評を得てゐる。

北高小栗村の出身である。

◎山口運平君 北松佐々村の人、一時東京に遊學したが其後は専ら自營で通してゐる。

◎松尾義高君 西彼黒瀬小學校訓導として精勵してゐる。初め茂木小學校に勤め、次いで日吉小學校を歴任して黒瀬に轉任した。矢上村出身濃厚な士として聞へてゐる。

◎松永武之君 朝鮮慶尙南道泗川郡廳在勤、半島産業開發の第一線に活躍してゐる。初め朝鮮總督府水原勸業模範場木浦棉作支場に入り、數年實地に腕を叩き上げて、慶尙南道廳に勤め、後蔚山郡廳に赴任、更に泗川郡廳に榮轉今日に到つた。佐世保出身である。

◎前田實一君 北高本野青年學校教諭として好評を得てゐる。教員養成所出身、北高湯江小學校教員を振り出しに、南高深江、北高小栗補習校を経て、本野青年校に轉じた。野砲兵少尉郷軍の將である。謹嚴實直、人格の士として敬愛されてゐる。

◎牧野直壽君 南高島原町自營。

◎松野末夫君 臺灣總督府殖産局鑛務課勤務である。初め臺灣總督府營林所嘉義出張所、水社寮造林事務所に勤めたが、中途軍務に服し、了へて、殖産局山林課に入り、文山郡坪林營林所に勤め、其後鑛務課に轉じ今日に到つた。濃厚篤實、精勵家として聞へてゐる。諫早の人。

◎福田正之君(舊姓松山) 西彼伊木力密柑山で模範的柑橋園の經營に奮闘してゐる。當初帝國農會販賣幹旋所長崎出張所に入り、販賣事務に當つたが、軍務に服し北京駐屯軍として支那に行つた。退役後西彼伊木力村農會に入り、眞面目に働いたが、穎悟聰明で仕事に熱心な君は村の有志で大きな蜜柑山を有つ福田家の主人公に見込まれて、遂に養子に迎へられ、爾來公職を辭して銳意自家經營に精出してゐる。温手たる風采明朗なる性格、實踐窮行の働き手で、典型的な農業戰士である。

◎増崎武士君 南高有家町出身、學校卒業後一

時長崎本博多町郵便局に勤めたが、間もなく鮮龍山に發展した。其後歸郷して、有家町農會に勤務、後數年にして辭め、滿洲吉林に雄飛今は北滿松花江畔で木材の伐採事業に活動してゐる。開放磊落無頓著な男で適材適所の仕事をやつてゐる。

◎松尾 止君 初め臺灣總督府營林所に入り臺中州東勢郡東勢庄石角出張所、八仙山佳保臺出張所、大茅浦詰所等に勤めたが數年にして引き上げ、神戸三ノ宮に在住實業に従事してゐる。南高愛野村出身である。

◎福田正夫君 教員養成所を出で、暫く千綿小學校に教鞭を執つたが、辭めて上京、海外高等拓殖學校滿蒙科に入り、新天地雄飛の素地を作つてゐる。非常時代の國策に伴ふ材幹として前途を囑されてゐる。東彼竹松村出身。

◎藤下靜夫君 福岡縣巡査として八幡警察署に在勤多年警察界のため精勵してゐる。南高愛野村出身。



◎藤井岩次君(舊姓龜石) 學校卒業後、臺灣に發展、臺中州南投街明治製糖會社に入り、農場監督をやつたが、其後引上げて、北高長田村農會に入り、次いで湯江村農會に轉じた、其後マオラン栽培熱の盛んなりし頃農會を辭し、佐賀市高樹瀨國益マオラン會社に入り敏腕を揮つたが、偶々會社の不振に禍され、辭して滿洲に走つた、有爲轉變の浮世の浪を乗り超へつゝ今は北滿で何事かを目論見んでゐる。腕はしつかりしてゐる、面白い快男子だ。

◎藤本小太通君 東彼竹松實業青年學校教諭として令名がある。教員養成所出身、深堀小學校を経て現在に到つた。野砲兵少尉として郷軍を指導してゐる。質實剛健勤勉力行の士、一般の信望極めて厚い。東彼大村出身である。

◎古賀滿留已君 農林省農務局耕地課農林技手として重要な地位に在る。東京農大耕地講習所を出で、更に早稻田大學専門部を卒業してゐる農林省に入つて十有餘年、専ら耕地課に精勵し

て今日の地位をかち得た。温厚篤實極めて眞面目な精勤家、頭腦明晰、識見あり手腕あり、確乎りした人物である。北高森山村出身。

◎古賀鐘藏君 臺灣總督府專賣局酒課技手として臺北本局に重きをなしてゐる。卒業後總督府專賣局臺南支局酒課に入り、精勵格勤數年にして早くも其敏腕を認められ技手に拔擢され臺北本局に榮轉した。資性温良恭謙誠實勤勉の士で絶大な信任を得てゐる。又臺灣瑞穂同窓の中心人物でよく上下に敬愛されてゐる、よく陶冶された人格の士である。北高森山村出身。

◎小島春夫君 西彼三重青年學校教諭として精勵してゐる。農事試験場練習生を経て、西彼瀨川村農會に入り、次いで村松村農會に轉じ農村指導に當つた。其後志を變じて、教育界に入り眞津山補習校大村高等國民學校を経て、三重青年學校に榮轉今日に到つた。西彼時津の人、温健著實の好師表である。

◎小森政雄君 海軍に志願して長らく軍務に在

る、西彼福田村出身である。

◎芦塚良輝君 農事試験場練習生を経て同場長崎中川園藝分場に勤めたが、其後健康を損ひ、専ら家郷に在り自營してゐる。南高西郷村出身。

◎城戸仲太郎君 南高千々石町の有志、初め富津小學校に教鞭を執つたが、後教員養成所に入り、卒へて西郷補習校に赴任、次いで北松紐差村寶龜校に轉じた。温厚の勤勉家として知られてゐたが、家事の都合で辭めて自營に精出してゐる。

◎菊地健一君 西彼瀨川村出身自營

◎三浦武一君 南高多比良町農會技手として精勵してゐる。輻重兵少尉軍國の精銳である。

◎三浦辰男君 南高多比良町、篤農家自營。

◎宮野高松君 教員養成所卒業、初め南高口加小學校に勤め、後辭して愛知縣大府町日本家禽研究所に入り、歸郷、暫く自營した。後再び出て滿洲新京に發展し、現在茨城高等國民學校に在り、滿洲國産業指導官としての教養を積みつ

ゝある。近く新興滿洲開拓の第一線に起つ前途有爲の開拓者である。

◎宮田 透君 諫早町美術染色業經營熱心家業に勉勵高評を得てゐる。

◎下村末雄君 初め長崎縣農會に入り、次いで壹岐郡武生水補習校に教鞭を執つた。後教員養成所に入り、卒へて壹岐郡箱崎補習校に赴任し其後三會校を経て、沼津青年學校に轉じた。温良の師表として好評がある。

◎島田嘉内君 諫早町製油業に従事熱心活動してゐる。野砲兵少尉、郷軍の中堅である。資性温厚經濟的手腕に秀でてゐる。

◎森田勝郎君 滿洲國濱江省蘭西縣産業指導官として活躍してゐる。若い頃北高深海補習校の教職に在り令名をあげてゐた。南高守山出身、歩兵少尉である。

◎森 忠君 臺灣臺北州淡水公學校教諭として令名がある。本縣教員養成所卒業後、臺灣文山新店庄公學校に勤め木柵農務補習校を経て淡



水校に榮轉した。資性温厚篤實の士として信望を得てゐる。西彼雪ノ浦村出身である。

◎首原四男君 西彼松島青年學校教諭として勤勉してゐる。教員養成所出身、上波佐見七ツ釜、多以良の各校を歴任し、今日に到つた。温良恭謙職務に忠實なる良師表である。

◎菅 巖君 一時西彼黒瀬小學校教に鞭執を執つたが、辭めて東京に出て研學を續けた。最近は自營である。諫早町出身

## 第十七回卒業

(大正十五年三月)

◎池田米男君 鹿兒島縣立農事試驗場技手として、病蟲害部を擔任し、令名を馳せてゐたが、過般愛媛縣立農事試驗場へ榮轉出向の途次勇躍征途へ向つた、學校時代からの秀才で、鹿兒島高等農林出身の逸材、資性温良、英智明才、學究胤の人で體軀堂々たる偉丈夫、歩兵少尉であ

る。北高本野村出身。

◎石橋彌助君 南高加津佐青年學校教諭として人望を得てゐる。北高小栗村の出身、砲兵少尉である。初め北松大野村農會に勤め、後轉向して御厨補習校助教諭となり、次いで加津佐校に轉任した。資性温良恭謙、農道精神の旺盛した好個の青年師表である。

◎石橋騏一郎君 初め臺灣臺東廳に奉職し、後上京して中央大學に入つた。其後再び臺灣に航したと聞くが最近の消息不明。

◎池田近一郎君 諫早町の人、美術染色を業とし、非凡の腕前を見せてゐる。尙業務の餘暇花卉を栽培し、庭内四時百花絢爛の美を恣にしてゐる。温厚篤實、眞面目な奮闘家である。

◎石井久恒君 西彼小榊村、消息不明

◎橋本利栗君 西彼多以良青年學校助教諭として精勵してゐる。初め母校助手を勤め、次いで西彼平島小學校に鞭執を執つた。後教員養成所に入り卒へて多以良校に勤務今日に到つた。温

◎西岡 馨君 臺灣高雄州潮州郡内埔庄新東勢派出所警察官として臺灣統治の第一線に起つてゐる。初め農事試驗場練習生を了へ、北松宇久

補習校に鞭執を執つたが、後臺灣に飛び出し警察界に入つた。佐賀縣出身である。

◎西村美知男君 農事試驗場練習生を経て、南高大三東村農會に入り、次いで西彼神ノ浦村農會に轉じ精勵した。其後暫く自營に入り最近再び長田村農會に入つて勤勉してゐる。北高小野村の人、温厚篤實の努力家である。

◎吉田雅雄君 海軍に志願、成績優秀拔擢されて舞鶴機關學校に在る。南高守山出身。

◎平山瀧治君 長崎縣穀物検査所技手として精勵してゐる。農事試驗場練習生から縣農林課に入り、穀物検査所技手に昇進、諫早支所に勤めた。其後再び本所に轉じて現在に到つた。温厚眞摯、忠勤の士である。小栗村出身。

◎朝長國雄君 南松富江實業青年學校教諭として青年指導に精進してゐる。教員養成所出身、

厚篤學、研究心に富み、農具の發明などやつて表賞されたことがある。北高小栗の出身。

◎原 安平君 滿洲吉林鐵路局運輸所在勤。運輸事務の重要な地位に在る。初め滿鐵大連埠頭事務所に入り、次いで吟爾濱事務所運輸課に轉じ、更に新京驛を経て吉林驛に榮轉した。質實剛健、進取的氣象に富み中々の敏腕家として同僚間に畏敬されてゐる。南松有川の出身。

◎西本稔盛君 西彼喜々津青年學校教諭として一般の信頼を得てゐる。教員養成所を出で、喜々津校に赴任し、爾來十年一日の如く、精勵してゐる。養鶏熱心家で校務の餘暇自ら飼育研究し、細密な調査を行つてゐる。村内養鶏業の發達は君が多年の鼓吹指導に俟つ處が多い。温厚で地味、感じのよい人、鶏の先生として村民に敬愛されてゐる。

◎西山作一君 北高本野村篤農家として精勵してゐる。一時愛野小學校に鞭執を執つたが、程なく辭して自家經營に入つた。村の中堅である



北松大島の山、東彼江上、北高鳥島、南松川原の各校を歴任し現在に到つた。濃厚實直篤學の士として令聞がある。東彼鈴田村出身。

◎陣内丑男君 農事試験場練習生から伊木力村農會技手として赴任、大に勉強したが縣下第一の園藝王國に若い者では苦勞が多う過ぎた。再び試験場に歸つて助手として研學を続け充分腕を練つて西大村農會に勤めてゐる。人物は極めて實直な努力家である。

◎岡本好文君 學校卒業後陸軍に志願して軍務に就いた。滿期後北松田平補習校に教鞭を執つたが、再び現役志願して軍務に就いた。精勵格勤累進して陸軍歩兵中尉である。質實剛健武人の典型、非常時下の國防第一線に奮勵してゐる。

◎大石 正君 教員養成所を出で、西郷・布津等の補習校に勤めたが、其後朝鮮に發展した。最近の消息不明。

◎小田正君 臺灣臺南州東石郡布袋庄藥舖廓嘉南大圳組合藥舖廟監視所在勤である。初め臺南

勤勉家として好評を得てゐる。

◎吉田直二君 壹岐郡沼津村農會技手として勤務してゐる。農事試験場練習生を経て、北松吉井村農會に入り、次いで島原町農會に轉じ、其後教育畑に轉向して、壹岐郡渡良補習校。柳田校に勤めた。最近再び農會に戻り現に沼津村農會に精勤してゐる。明朗活達、物事にくよくよせぬ大の樂天家で勤勉努力家である。

◎富永 保君 東京農大耕地講習所を出で、朝鮮總督府農務課に勤め。後土地改良水利課を経て、農政局水利課に入り、半島耕地界に活動した、其後穀物検査所仁川支所鐵原出張所に勤務してゐる。東彼江上出身である。

◎福田茂人君 長崎縣立雲仙農民道場教師として、非常時下の農業戰士養成に揮身の勇を振ふてゐる。農事試験場練習生を経て東彼上波佐見農會技手を勤め業績を認められて縣産業主事補に拔擢、經濟更生課に廻され、次いで湯江農業訓練所の設立と同時に入つて現在に到つた。溫

斗六公學校に教鞭を執り、後斗六郡役所勸業課に轉じ、更に嘉南大圳に入り現在に到つた。嘉南大平野水利の鍵を握る重要な役割を務めてゐる。南高土黒の出身。

◎川口 直君 北高有喜村の篤農家として、村の中堅人物、勤儉力行の士、資性濃厚篤實、家は近郷での名望家である。

◎釜谷健治君 卒業以來終始一貫自營に精進し傍ら青年團長として地方産業に開發貢獻してゐる。佐世保市の出身。

◎米本清一君 茨城縣久慈郡山田村、專賣局水戸試験場技手として令聞がある。諫早農學を優等で出で、宮崎高等農林を経て、九大農學部植物病理教室に入つて病理を專攻し、卒へて專賣局に奉職今日に到つた頭腦明晰、學業優秀、前途を囑望されてゐる。東彼廣田村出身である。

◎吉田政男君 東彼崎針尾青年學校教諭として精勵してゐる。初め黒瀬小學校に勤め大村、波佐見校を経て、崎針尾校に轉任した。濃厚實直

厚篤實、勤勉力行、身を以て後進を指導扶掖する眞の農業教育者である。北高眞津山村出身。

◎高以來三次郎君 卒業後海軍に志願し國防第一線に在つたが、退役後再び學窓生活に入り千葉高等園藝學校を卒業した。目下埼玉縣鴻ノ巣農事試験場に入り實務研究に努力してゐる。

◎竹里熊雄君 臺灣總督府植物検査所臺中分所在勤の検査官である。初め臺中州員林植物検査所に入り、次いで新竹分所に轉じ、更に臺中に榮轉今日に到つた。頭腦明晰研究心に富み博識宏才、殊に經濟方面の事情に特殊な才能を持つてゐる。濃厚眞摯、態度沈著人物に親しみがある。竹松村出身。

◎高原益利君 卒業後暫く大阪に在つて實業に従事したが、軍務に服して對馬鶏知重砲兵隊に入營其後横須賀陸軍重砲兵學校に入り良好な成績を示した。退役後鶏知村農會に入り現在に到つた長田村出身、溫良恭謙中々の活動家である



村出身。

◎田淵要太郎君 諫早青年學校助教諭として精勵してゐる。教員養成所出身。西彼瀬戸小學校を経て諫早に轉じた。穎悟聰明熱意の人で又明朗活達よく物事を適切に處斷して行く常識人である。小野村出身だけに農業教育には體驗があり確乎たる自信を持つてゐる。郷村では頗る信望がある。

◎武田嘉吉君 對島峰村農會技手として自村農業の振展に精進してゐる。長らく自家經營に奮闘したが最近郷村のために起つた。家は峰村の有志格である。

◎園山市十郎君 長崎縣立五島農民道場指導官として、農村青年の訓育に精魂を打込んでゐる。資性濃厚眞摯、理想に燃ゆる堅き信念の行者である。嘗て郷村本山村農會に在り十年一日の如く健闘して村の柱石とうたわれた。多くを語らぬ黙りやだが眞黒くなつて身を以て示す處に君の眞生命がある。最適任者として信賴されてゐる。

著分度報恩の精神は確かなものである。

◎中村 勝君 東彼郡農會技手として精勤してゐる。初め自村信用組合に入つて精勵したが、其の眞面目な人物を買はれて縣農會に拔擢され次いで東彼郡農會に榮轉した。資性濃厚、清廉潔白、間違ひはないとされてゐる。口ノ津出身である。

◎南里 薫君 滿洲國吉林驛運輸事務所混保課在勤、滿洲名産の大豆検査官を務めてゐる。早くより滿鐵に入り、大連埠頭事務所運輸課を経て、哈爾濱運輸課に轉じ、更に再び大連埠頭事務所に入つたが、過般吉林運輸事務所に榮轉し重要な地位に就いた。剛健の士で穎悟活達男性的氣魄が横溢し、常に後輩を扶掖誘導して怠らない、北滿に於ける瑞穂の中心人物として信賴されてゐる。佐賀縣出身である。

◎中島八重雄君 西彼龜岳村農會技手として活動してゐる。初め農學校助手を勤め後、南松大濱小學校に赴任し、次いで川原校に轉じ後三井

◎月川幸敏君 鹿兒島縣立農事試驗場技手として、園藝國薩南の地に活動してゐる。千葉高等園藝學校を卒業後、農林省農事試驗場鴻ノ巣試驗地を経て鹿兒島に赴任した。資性溫身、勤勉家で、篤學の士として信望を得てゐる。北松神ノ浦村出身。

◎土田宗之丞君 北松小値賀村農會技手として自村農事の振興に努力してゐる。農事試驗場練習生を経て西大村農會に勤め鹿町村農會を経て小値賀村農會に入つた眞面目な勤勉家である。

◎辻三四一君 東彼松原村の篤農家として知られてゐる。山砲兵中尉郷軍の將である。識見手腕衆に勝れ、有爲の人物として郷村に重きをなしてゐる。

◎中尾 茂君 東彼折尾瀬青年學校教諭として精勤してゐる。初め北高有喜小學校に勤め次いで北松今福補習校に轉じ後、教員養成所に入つた。卒へると西彼矢上青年校に任用され過般折尾瀬校に轉じた。二宮宗の崇拜者だけに勤儉時

樂村農會を経て龜岳に入つた。性極めて溫良恭謙誠實勤勉の士で手腕力量は確乎りしてゐる。小栗村出身である。

◎中西善雄君 西彼時津村農會技手として勤勉してゐる。農學校助手から臺灣總督府中央研究所新化糖業部に入り、研究を續けたが家事の都合で引き上げ後、西彼日見村農會に入り、次いで時津に轉任今日に到つた。精勵家として好評を得てゐる。小野村出身である。

◎牟田口茂樹君 朝鮮京城刑務所に奉職十有餘年精勤してゐる眞津山村出身。

◎浦川 薫君 農事試驗場練習生から助手へ次いで壹岐郡渡良補習校教員へ、後轉向して、西彼長浦村農會に入り、更に矢上村農會に轉じた。至誠勤勉家として信望がある。

◎楠本龜夫君 大阪府南河内郡長野青年學校教諭として錚々たる名を馳せてゐる。本縣教員養成所を出て、西彼瀬川補習校に教鞭を執り、見事業績をあげた其の鮮かな手腕を認められ拔擢



されて、大阪府北河内郡山田補習校に榮轉した。資性濃厚伶俐、博學多才にして萬事に器用で、常に革正の新味を加へて補習教育の改善を計るので、こゝでも非常なる好績をあげ、次いで南河内郡長野町青年學校に榮轉し、日夜精勵これ努めてゐる。今や大阪女子青年教育界の雄として絶大の人氣を博し、母校の爲め萬丈の氣を吐いてゐる。

◎黒石久市君 佐世保海軍工廠勤務。相ノ浦出身。

◎山口條平君 南高加津佐町農會技手として新興加津佐の産業開發に當つてゐる。南松久賀島出身の逸材、學校を出ると上波佐見村農會に入りて敏腕を揮ひ、更に北松小値賀村農會に轉じて潑刺たる腕の冴へを見せたが、更に加津佐町農會に榮轉今日に到つた。資性伶俐、博識多才活氣縱横、男性的で明快な言論の雄である。

◎安永清次君 北松津吉小學校訓導として精勤してゐる。初め郷里南田平村下寺小學校に勤め

後津吉に轉じ今日に到つた。學生時代から相撲の選手であつただけに、巨軀堂々たる體格の持主で適れ健康時代の代表選手にふさはしい。けれども氣象は至つて優さしく、温乎玲瑯、大の勤勉努力家で善良の師表として一般の衆望を負ふてゐる。

◎山口理策君 初め農事試験場練習生から助手を勤め後、北松柚木村農會に赴任した其後轉向して早岐公民學校に教鞭を執り、次いで歌ヶ浦に榮轉した。温良實直篤學の士で人物家として一般の受けは頗るよろしい。東彼福重村出身である。

◎山下矢久君 佐世保西海中學校囑託として教鞭を執つてゐる。學校時代から頭腦明晰學業優秀の逸材。殊に書は天才的に巧い腕前を持つてゐる。嚴父は有名な書道の大家である。

佐世保松川町の人

◎山口鐵夫君 諫早町役場稅務課に勤めてゐる初め農學校助手として園藝を研究したが、後佐

世保重砲兵に入り退營後は郷里の役場に勤め現在に到つた。頭腦緻密事務的才幹があり、適材として信賴されてゐる。

◎松永 諭君 教員養成所出身、長田小學校から平戸實業公民學校を経て、郷里福島校に轉じた。歩兵少尉である。温厚明智、至誠的人物で郷關では重きをなしてゐる。

◎松崎一郎君 南高深江青年學校助教諭として勉勵してゐる。農學校助手を勤めて實地研究を積み南高富津小學校に教鞭をとり後南高湯江校を経て、深江青年校に轉じ今日に到つた。温良實直、勤勉家で農業教育の指導者として、最適の人材とされてゐる。

◎松永健治君 福岡縣羽犬塚、農林省農事試験場九州小麥試験地在勤、農林技手として小麥増殖の基本計劃調査に努力してゐる。東京帝大農學實科卒業の秀才、農林省農事試験場鴻ノ巣試験地を経て九州試験地に赴任現在に到つた。頭腦明敏、冷靜で學究肌の人、西浦上出身である

◎山口友作君 西彼黒瀬村の人、初め自村小學校に勤め、後日見校を経て、昭和校に轉じ今日に到つた。温良恭謙、眞面目な先生として高評がある。

◎増本芳松君 北松小佐々村楠栖の人、一時千々石殖産會社に入つて、マオラン栽培指導に當つたが、暫くにして辭め、自家經營に終始してゐる。勤勉努力農村の中堅的人物である。

◎前田景代君 長崎市土井首青年學校教諭として精勤してゐる。初め福江補習校に入り若松校、東濱青年校を経て土井ノ首に轉任現在に到つた資性温良恭謙、蟠りのない淡々たる風格の士で精勵格勤身を以て衆を卒ゆる師表である。北高小栗村出身、釣りの名人である。

◎前田政人君 滿洲哈爾濱鐵路局機務處在勤、早くより滿鐵に入り、四平街、新京、鐵道事務所を歴任して、哈爾濱に轉じた。大滿洲の曠野を走る鐵道、列車の機關監督に當つて、祖國日本の伸展に盡してゐる。南高西郷村出身。



◎松竹嘉美雄君 滿洲國熱河省赤峯專賣所在勤新興滿洲國開發のため健闘してゐる。北高長田村の人。

◎藤野平造君 長崎市立神、實業に従事してゐる。初め教員養成所を出で、茂木小學校に教鞭をとり、更に深堀補習校に勤めたが、家事の事情で辭めて専ら家業に精進してゐる。溫厚誠實の人物として知られてゐる。

◎小島清佐君(舊姓早田) 對島峰村の人。朝鮮京城師範演習科卒業後、江原道金苑公立普通學校に教鞭を執り、次いで、何川郡佳麗州公立普通學校に轉じ、半島教育界に貢献する處あつたが、最近は歸郷自營である。

◎小峰信夫君 一時臺灣臺南麻豆明治製糖會社に勤めたが最近の消息不明。

◎江口重雄君 初め蠶業に志し松本市蠶業講習所に入つて實地を研究し卒へて長崎製絲會社に勤めたが、中途志を變じ再び農學校助手として實務を修業した。程なく北松黒瀨補習學校の教

職に就き次いで根獅子校を経て、西彼土井ノ首青年校に轉動した。溫厚篤實至誠勤校務の餘暇には部落廻りなどやつて全村教育に力を盡し非常に敬愛されてゐる、眞の農村指導者である。

◎江島義雄君 初め農學校助手を勤め、後平戸度島小學校に教鞭を執り次いで宮村校に轉じた北高小栗村出身資性溫厚勤勉努力の人である。

◎荒木 等君 南松岐宿青年學校助教諭として精勵してゐる。教員養成所出身、初め森山小學校を振出しに、南松崎山補習校を経て、岐宿校に轉じ今日に到つた。巨軀堂々とした、荒削りの大男だが、資性至つて溫良、純朴の士で親しみのある、好人物である。北高森山出身。

◎坂口賢明君 北松佐々村農會技手として勉勵してゐる、農事試驗場練習生を経て、南松青方村農會に入り、次いで壹岐武生水、柳田を経て佐々村農會に轉じた。溫厚篤實極めて眞面目な勤勉家である。壹岐香推の人である。

◎佐藤武富君 教員養成所を卒へて北松根獅子補習校に入り西彼黒崎校を経て蠶ノ浦校に轉じた。溫厚著實、勉勵家で、極めて眞面目な教育家である。東彼彼杵村の出身。

◎峯 數己君 一時折尾瀨補習校の教職に在つたが程なく辭めて上京修學に數年を費した最近他家郷に在つて自營である、本野村出身。

◎白石與助君 北松大島村の人一時中里小學校に教鞭を執つたが、年餘にして辭めて専ら自家經營である。

◎久田 榮君 北松上志佐村の篤農家學校卒業以來終始一貫自家經營に精勵してゐる。家は地方の名士郷關で重きをなしてゐる。

◎森邊孫一君 西彼川原村産業組合理事として一村の經濟關係を支配してゐる。農事試驗場練習生から、西彼長與村農會に入り、次いで神ノ浦村農會に轉じ大に敏腕を揮つた。其後家事の都合で辭めて郷里に歸つたが、村民に推されて産業組合に入り、常任理事として一切を切り廻

してゐる。溫乎なる風貌、優雅なる舉措、圓熟した人格と相俟つて、一知十年の親しみがある。家は村での名門である。最近川原批把の増植に大分馬力をかけてゐるが農業よりも商賣の方が餘程うまい。

◎森邊善吉君 長崎製絲會社島原工場在勤専ら養蠶指導に當つてゐる。長野縣松本市蠶業講習所を出て長崎製絲に入り精勵格勤今日に到つた。眞面目な努力家で、溫和の性格、會社では責任ある地位に就いてゐる。西彼川原村出身。

◎諸岡 聰君 早くより滿洲奉天野農園に在り園藝業に従事したが最近は農園を辭して何か實業をやつてゐる。詳細は不明である。

◎森 正人君 朝鮮黃海道鮮滿開拓會社海南農場在勤。半島産業開發に努力してゐる。東彼西大村出身。



## 第十八回卒業

(昭和二年三月) 七三名

◎井上石衛君 朝鮮江原道産業技手、原州郡在勤、半島産業開發に活躍してゐる。三重高等農林學校卒業後、暫く郷里南高南申山農會に入り次いで加津佐補習校に勤めたが、奮發して朝鮮に雄飛鐵原郡農會に入り、精勵果進して道技手たり、原州郡に轉任今日に到つた。

◎石橋秀三君 長崎刑務所看守として精勤、高評を得てゐる。小栗村出身。

◎碓 正二君 南高守山青年學校教諭として在勤、教員養成所出身である。初め西彼畝刈、南高土黒、安中の各校を歴任現在に到つた。篤學の士として聞へてゐる。

◎馬場千一君 佐世保市農會技手として活動してゐる。農事試驗場練習生修了後、東彼松原村農會に入り次いで宮村農會を経て、佐世保市に轉じた。溫厚篤實、精勵格勤の士である。西彼

矢上村出身。

◎原 重衛君 東彼江上村農會技手として一村農業の指導に當つてゐる。初め穀物検査所佐世保出張所検査員を勤めた。穀物検査の眼識は確かなものである。北高田結村出身。

◎馬場彦二君 北松鹿町村役場收入役として、居村自治の重要な役割を務めてゐる。溫厚篤實極めて眞面目な人物、堅實を以て聞へてゐる。家は鹿町村の有資格である。

◎西 逸男君 京都府耕地課技手として勤務してゐる。長らく本縣耕地課に在り、精勵努力貢獻する處多かつたが其後京都府に轉じた。頭腦明晰仕事は出来る。腕の人である。諫早町出身

◎西村 満君 臺灣臺中州能高郡霧社マレットパ駐在の警察官を勤めてゐる。初め農學校助手として三年間奮闘したが、ふとした動機で臺灣に飛び出し、警察界に入つた。霧社は新高山麓の高原地帯、マレットパは蕃人の部落である。而かも同地は有名な霧社事件發生の地で容易に人の

近寄らざる處である。元來、蕃界の警察官は司法權と行政權とを持つてゐる。西村君は悲壯なる覺悟を以て、この地に乗り込んだ、而して劍と愛とを持つて、著々同化して行つた。學問を教へ、農耕を奨め、時には蕃界の若人たちを引率して、臺北邊の文化を見學させた。かくて治蹟は著々あがり今では全くマレットパの司として蕃人たちの崇敬的となつてゐる。この涙ぐましい献身的な努力こそ、眞の人類愛の極致である。世に隠れたる瑞穂の誇るべき異彩ある一人材である。

◎川端定君(舊姓防上) 南高北有馬青年學校教諭として勤務してゐる。教員養成所卒業後皆瀬村松、安中等の補習校を歴任し、北有馬校に轉じ今日に到つた。資性溫良、勤勉の士として高評がある。

◎緒方 年君 新潟縣林務課技手として勤務、東京帝大農學部實科卒業の秀才南高口ノ津出身である。

◎岡田末市君 大分縣農務課農林技手として活躍してゐる。宮崎高等農林を卒業し、農林省農事試驗場鴻ノ巣試驗地に入つて實地研究を終へ大分縣に赴任現在に到つた。學生時代から秀才を以て通した學業共に優秀な逸材、押出しもよく對應もうまい。小壯有爲の青年紳士である、佐世保出身。

◎大久保健君 朝鮮平安北道廳農務課産業技手として、半島産業界第一線に起つてゐる。鹿兒島高等農林卒業後總督府農事試驗場種藝部を経て、平北農事試驗場技手として定州に赴任、後間もなく道廳に拔擢された。學生時代からの秀才頭腦はよし腕は切れる。殊に情操豊かな土の詩人。どつしりとした親しみ深い明るい人である。北松御厨村出身。

◎貝塚 潔君 臺灣總督府鑛務課在勤、熊本縣出身である。

◎勝野又次郎君 臺灣臺南州曾文郡麻豆、明治製糖會社に在り農場監督として重用の地位にあ



る北松小値賀の出身。誠實勤勉家として會社の信任を得てゐる。歩兵少尉、歴とした國家の干城である。

◎田中直武君 西彼樺島青年學校勤務である。初め帝都に遊學した後、崎戸鑛業所化學分析部に入つて鑛物鑑定に従事した。其後北松神ノ浦村農會技手を務め、次いで青年學校に轉向した。小柄で上品な人だが頭腦は頗る冴へてゐる。識見あり、抱負あり、又一片耿々たる熱意もある。確乎りした人物だ。

◎武末克武君 山口縣立農事試驗場在勤初め北高湯江小學校に教鞭を執り、次いで南高山田校に轉じたが中途再び母校助手として實習を積み山口縣立農事試驗場に入つた。資性濃厚人格圓滿の士である。長崎市出身。

◎田代 明君 北高田結村自營農業に終始一貫の精進を續けてゐる。

◎田浦重藏君 北松平戸青年學校教諭として令名がある。初め南高西郷補習校に教鞭をとり後

期待されてゐる。

◎土谷義人君 壹岐郡田河小學校訓導である。農事試驗場練習生を経て那賀補習學校に教鞭をとり、志原、沼津校を歴任、田河校に轉じた。柳田村の出身、勤勉篤學の士として高評がある。

◎永江又三郎君 北高小野小學校訓導である。初め有喜小學校に勤め、次いで師範專攻科に入り、卒へて附屬小學校訓導となり、後古賀校を経て小野校に轉じた。濃厚篤實、博識多才、頗る子弟の信頼を得てゐる。

◎中島藤吉郎君 臺灣臺北州羅東郡冬山公學校在勤、初め農事試驗場練習生を経て愛野村農會に勤めたが、後轉向して壹岐鯨伏補習校に教鞭を執り、其後臺灣に雄飛し冬山校に入り現在に到つた。元氣潑刺たる活動的人物である。西彼黒瀬村出身。

◎村田武喜君 北高小栗村駐在、穀物検査員である。多年本野村の篤農家として自營に精進し

北松上志佐校を経て平戸青年學校に轉任、今日に到つた。歩兵少尉實質剛健の士で至誠廉直を以て聞へてゐる南高守山村出身。

◎田代朝衛君 滿洲奉天驛貨物係として精勤してゐる。初め農事試驗場練習生を経て助手を勤め次いで軍務に服し哈爾濱に駐屯退役後滿鐵に入り奉天千代田公園事務所就職したが其後奉天驛に轉じ今日に到つた。濃厚著實の精勤家である西彼喜々津村出身。

◎田代 修君 壹岐石田村農會技手として精勤してゐる。蠶業試驗場及農事試驗場練習生を経て、崎山、中野の農會を歴任し、石田村に轉じた温良恭謙、極めて眞摯な技術者である。廣田村の人である。

◎田中 甫君 朝鮮黃海道載寧公立農業實修學校長として半島農業教育のため活動してゐる。東京帝大農學實科を出で、暫く北松御厨補習學校教諭を勤めたが、後朝鮮載寧校長として榮轉した。崎針尾の人、學業優秀の人物として將來を

傍ら青年團長として青年の指導に當つたが、其後公職に就き穀物検査員として活動してゐる。誠實勤勉、眞の農業戰士である。

◎浦田好雄君 初めより教育界に志し生月、村松、北魚目等の小學校に教鞭をとつた、其後笈を負て東都に遊學し東京農業教育専門學校に入つた。近く、農學校教諭として前途の榮達を約束されてゐる。北松御厨の人。

◎上原坂夫君 南高堂崎青年學校教諭として信任を得てゐる。教員養成所出身、堂崎校に赴任、精勵して今日に到つた。體軀巨魁堂々たる偉丈夫である。識見あり抱負あり談論のうちに氣宇の宏量たるを思はしむる。確乎りした人物である。

◎内村三十郎君 對島支廳在勤農林技手として對島産業開發に當つてゐる。農事試驗場練習生を経て、南高南串山村農會に入り、次いで神代村農會に轉じた。學生時代から學業優秀殊に堂々たる體格の持主で縣下中等學校學生相撲大會



の大關であつた。加ふるに資性温良、人品優雅いつも人に快感を與へる天稟の美德がある。偶々南高郡農會長内山氏の眼識に叶ひ迎へられて山下家に入つた。天下の果報者である。次いで縣農林課に拔擢され、更に對島支廳駐在として現在に到つた。五島崎山村の出身、前途は洋々たるものと見られてゐる。

◎野口秋澄君 北高長田青年學校に教鞭を執つてゐる。曩きに諫早町駐在穀物検査員として精勤した後、郷里の長田に入つた。歩兵少尉の青年將校、慧俊伶俐、人物は確乎りしてゐる。

◎野村龍男君 北松吉井小學校訓導として郷黨のため精勤してゐる。初め佐々小學校に入り後吉井校に轉じ今日に到つた。嚴父は同村長の榮職にある。

◎栗林春男君 大阪府豊能郡細川青年學校教諭として錚たる名を馳せてゐる。長崎縣から選抜されて、大阪入りした優秀教員の一人である。細川は天下の園藝村池田の植木を以て知られた

として活動してゐる。水原勸業模範場練習生終了後、江原道鐵原郡廳に入り、後構成郡に榮轉した。西彼七ツ釜の出身である。

◎山村 至君 北高眞津山村駐在穀物検査員として精勤してゐる。本野村出身 一方青年團の中堅として重きをなしてゐる。

◎山田勸夫君 初め農事試験場練習生から中川分場助手を勤め 次いで西大村琴村農會技手をやつたが後軍隊に志願累進して今日の地位に就いた。對島佐須奈村出身、前途有望の青年將校である。陸軍歩兵中尉として某地に駐屯してゐる。

◎山本 巧君 西彼、茂木町、千藤青年學校教諭として勤務してゐる。幹部候補生として軍務につき歩兵少尉となつた。退營後壹岐郡志原青年學校に勤め、次いで千藤青年校に轉じた。誠實勤勉、人格の士として信頼されてゐる。北高田結村出身。

◎馬郡 正君 長崎縣農林主事補として農政課

處であるが凡てが舊式で改善すべき處が少くなかつた。君は害虫驅除や植木の販賣統制や農産加工に獨特の興味を見せて、多大の業績を擧げて居る。以前は式見脇岬等の小學校教員たりし経歴もあり、度量もあれば腕もある。實際家として頗る重寶がられてゐる。

◎鍛塚篤郎君 北高古賀村の精農家、植木盆栽の育成に熱心してゐる。村での中心人物で、温厚篤實、勤勉努力、衆望を一身に負ふてゐる。

◎公文繁雄君 東彼福重青年學校教諭として奮闘してゐる。御厨小學校教員から教員養成所に入り、卒へて萱瀨小學校に奉職、次いで福重青年校に榮轉した。資性温良恭謙、至誠勤勉の士である。

◎山崎 傳君 長崎市上西山、自家經營、曩きに上志佐、彼杵、大草等の青年學校に教鞭をとつたことがある。現在では都會園藝に精進してゐる。

◎山口喜多一君 朝鮮江原道構成郡廳産業技手

勤務である。農事試験場練習生終了後、北松中里村農會に入り、次いで瀬川村農會を経て、西彼矢上村農會に轉じた。精勵格勤、幾年月、其俊敏な才幹を認められて縣農政課に拔擢され今日に到つた。有爲の人物である。

◎松尾正夫君 北高鳥島青年學校教諭として教鞭を執つてゐる。早くより教職に就き、高濱、鯨伏、小濱等の補習校を兼任し鳥島校に轉任した。人物圓滿、勤勉家として好評を得てゐる。

◎松園文耕君 南松青方青年學校助教諭として精勤してゐる。壹岐石田補習校を経て、青方校に轉勤今日に到つた。温良謹嚴、實踐的人物で嘗て農事試験場練習生として實地研究に腕を叩き上げた體験家。郷里は富江である。

◎福田省三君 北松吉井村の精農家である。歩兵少尉、郷軍の將であり郷村の中堅である。

◎古川久助君 西彼神の浦村農會技手として勤勉してゐる。本縣蠶業試験場及農事試験場練習生を修了、南松崎山村農會に入り、次いで神の